都民の私学に対する意識調査

調査結果報告書
【概要版】

令和7年度

公益財団法人東京都私学財団

第1章　調査目的と実施方法　・・・2
1.　調査目的
2.　調査実施方法
3.　回答者属性
4.　調査集計結果の見方
5.　前回比較

第2章　私立へのイメージと評価　・・・3
1.　私立学校のイメージ
2.　現在在籍している学校の評価
3.　イメージと評価の差
4.　今後学校に期待すること
5.　学校選択で重視した点
6.　公立在籍者の進学希望

第3章　教育費・保護者の価値観・・・34
1.　世帯年収と月々の許容教育費
2.　教育費の確保と教育費負担軽減制度の認知度
3.　保護者の価値観

第4章　私立の情報発信と進学理由・・49
1.　学校説明会/合同学校説明会の参加有無
2.　学校説明会で参考になった点
3.　合同学校説明会で参考になった点
4.　進学理由
5.　通学時間

第5章　ICT環境・AI活用・部活動・・・66
1.　ＩＣＴ環境
2.　パソコン・タブレットの活用状況
3.　ＡＩ活用
4.　部活動の外部委託・地域移行

第6章　全体まとめ・・・73

第1章　調査目的と実施方法

1. 調査目的

都民の私学に対する意識を調査し、私学へのニーズ・傾向等を調査・分析することにより、今後の私学振興に役立てることを目的とする。

2. 調査実施方法

(1)調査対象　：都内在住の10歳から20歳までの子を持つ保護者
(2)調査期間　：令和7年(2025年)12月18日　～　12月22日
(3)設問数　　：52問　※各設問の選択肢から該当する項目を選択する回答方式（単一又は複数選択）
(4)調査項目
① 属性
② 学校のイメージ(私立・公立)
③ 子どもが在籍している学校の評価
④ 子どもが在籍している学校の選択基準
⑤ 子どもの進学希望
⑥ 教育に対する意識
⑦ 学校への期待(私立・公立)
⑧ ＩＣＴ環境・部活動
(5)調査方法　：インターネットモニターによる調査(株式会社コアネットに調査を委託)
(6)有効回答数　:3,234人

3. 回答者属性

回答者は都内在住の10歳から20歳までの子を持つ保護者であり、子が複数いる場合には、調査対象の子は一番上の子とした。

(1)回答者の性別

2025	男性	女性	合計
件数	2,077	1,157	3,234
割合	64.2%	35.8%	100.0%
平均年齢	51.1	47.5	

(2)子の人数

2025	1人	2人	3人	4人以上	合計
全体	1,398	1,450	321	65	3,234
割合	43.2%	44.8%	9.9%	2.0%	100.0%

(3)調査対象の子の性別・学年

2025	合計	男性	女性	公立	私立	国立	公立一貫	不明
全体	3,234	1,646	1,588	1,807	1,285	62	79	1
	100.0%	50.9%	49.1%	55.9%	39.7%	1.9%	2.4%	0.0%
小学校4~6年生	614	311	303	564	29	8	13	0
	100.0%	50.7%	49.3%	91.9%	4.7%	1.3%	2.1%	0.0%
中学校1~3年生	850	448	402	594	221	11	24	0
	100.0%	52.7%	47.3%	69.9%	26.0%	1.3%	2.8%	0.0%
高校1~3年生(高専含む)	976	497	479	360	573	20	23	0
	100.0%	50.9%	49.1%	36.9%	58.7%	2.0%	2.4%	0.0%

	合計	男性	女性	公立	私立	国立	公立一貫	不明
専修学校	12	2	10	4	7	1	0	0
高等課程1~3年	100.0%	16.7%	83.3%	33.3%	58.3%	8.3%	0.0%	0.0%
高校卒業※1	781	387	394	285	455	22	19	0
	100.0%	49.6%	50.4%	36.5%	58.3%	2.8%	2.4%	0.0%
その他※2,3	1	1	0	0	0	0	0	1
	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

※1 大学生・専門学校生・進学準備中・高校卒業後就職・無業など
※2 インターナショナルスクールなど
※3 フリースクールなど。学校種別は質問の対象外とした。

4. 調査集計結果の見方

本調査報告書は以下の表記に基づき、作成している。

(1) 「全体」「n」：その質問に答えた人数
(2) 在籍者：現在その学校種別に在籍している子のいる保護者
(3) 回答者の比率(%)：小数第１位までを表示
(4) 平均：各項目の中央の値をとり、平均を算出

また、内訳同士の比較において、２つの種別で有意差が認められた項目には「＊」で表示している。また、３つ以上の種別で有意差を検定する場合は、全体平均と比較をし、差が見られた項目には、網掛けで表している。「有意差」は、有意水準5%の検定を行い、差が認められたことを表す(95%の確からしさで差があるといえる)。

5. 前回・前々回比較

2015年と2020年にも同様の調査を実施しており、今回はコロナ禍前後との比較も可能となるよう、前回に加え、前々回のデータも活用した。

本章では、回答者が持つ「私立学校のイメージ」、「イメージと評価の差」、「今後学校に期待すること」、「学校選択で重視した点」を私立と公立で比較するとともに、「公立在籍者の進学希望」について調べ、私立学校が置かれている現状を把握する。

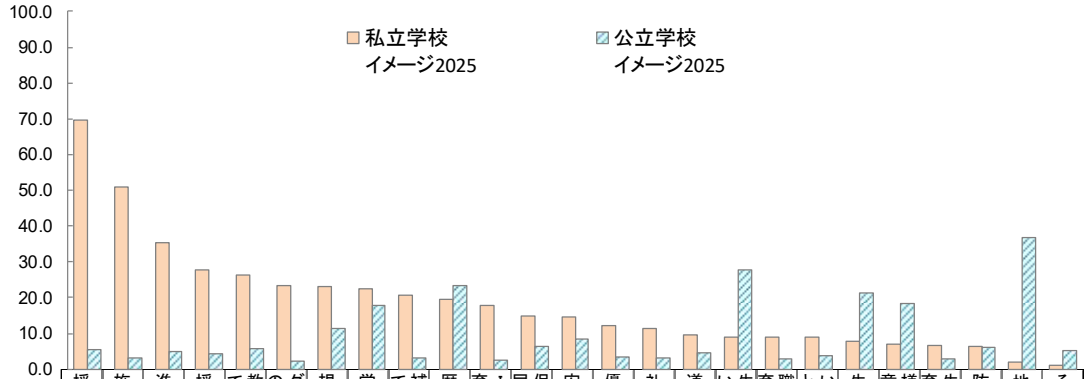
1.　私立学校のイメージ

私立学校は、「授業料等の学費以外にもお金がかかる」、「施設・設備が整っている」、「進学指導が充実している」、「授業が充実している」、「教員が学習・生活面で手厚く面倒をみてくれる」、「グローバル教育(英語教育・留学等)のプログラムが充実している」の項目の回答率が、公立学校より20ポイント以上高い。

一方で、「歴史・伝統がある」、「生徒(児童)が自由でのびのびとしている」、「生徒(児童)の自主性に任せている」、「様々な価値観や背景を持った生徒(児童)と触れ合える」、「地域に根差した教育をしている」の項目については、公立学校の回答率が私立学校の回答率を上回る結果となった。

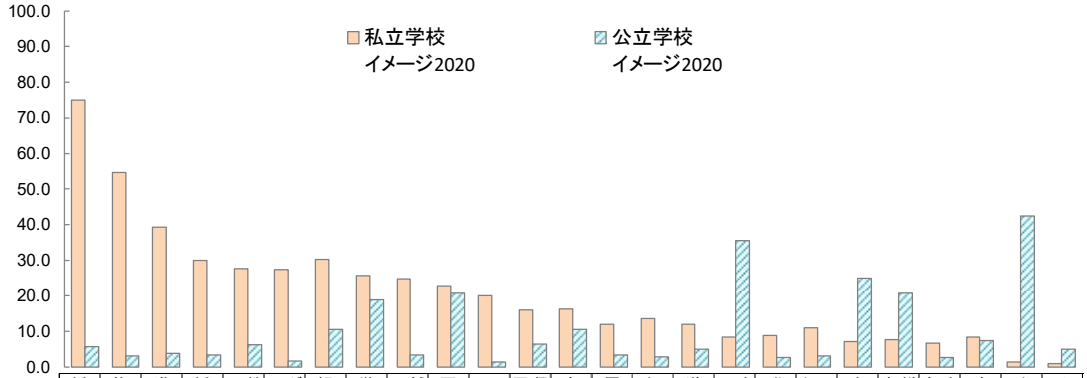
図表①　私立学校のイメージと公立学校のイメージの差

2025



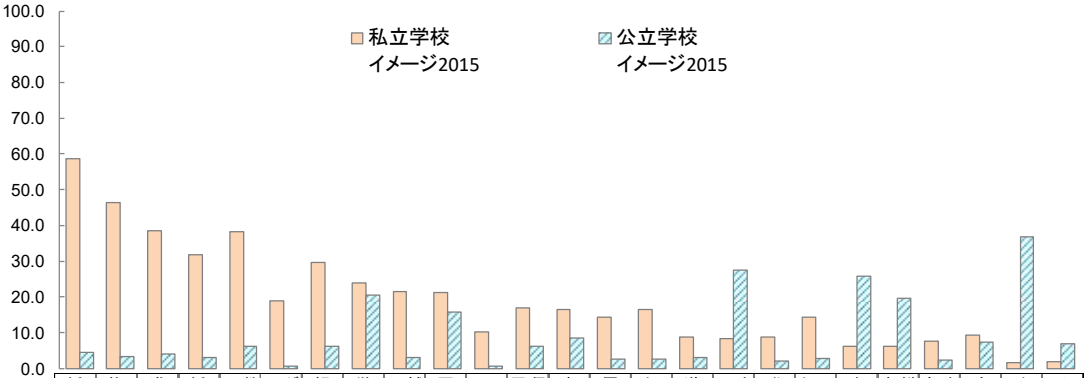
	n=	授業料等の学費以外にもお金がかかる	施設・設備が整っている	進学指導が充実している	授業が充実している	教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる	グローバル教育（英語教育・留学等）のプログラムが充実している	規律・校則が厳しい	学校行事や部活動が盛んである	補習・講習など、フォロー体制が整っている	歴史・伝統がある	ICT（情報通信技術）を活用した教育が充実している	保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている	安心して子どもを通わせられる	優秀で信頼できる教員が多い	礼儀正しい生徒（児童）が多い	道徳教育・人間教育が充実している	生徒（児童）が自由でのびのびとしている	職業意識（キャリア教育）を高める教育をしている	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している	生徒（児童）の自主性に任せている	様々な価値観や背景を持った生徒（児童）と触れ合える	生徒（児童）一人ひとりに合わせた教育をしている	防災対策がしっかりしている	地域に根差した教育をしている	その他
私立学校 イメージ2025	3234	69.6	50.9	35.5	27.9	26.3	23.4	23.0	22.5	20.9	19.6	17.9	14.9	14.7	12.3	11.4	9.7	9.0	9.0	8.9	7.9	7.0	6.8	6.2	2.0	1.1
公立学校 イメージ2025	3234	5.6	3.2	4.8	4.2	5.9	2.3	11.3	17.9	3.2	23.4	2.5	6.2	8.4	3.3	3.3	4.6	27.8	2.7	3.9	21.2	18.5	3.0	6.2	36.9	5.2
有意差が認められた項目		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*		*	*

2020



	n=	授業料等の学費以外にもお金がかかる	施設・設備が整っている	進学指導が充実している	授業が充実している	教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる	グローバル教育のプログラムが充実している	規律・校則が厳しい	学校行事や部活動が盛んである	補習・講習など、フォロー体制が整っている	歴史・伝統がある	ICTを活用した教育が充実している	保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている	安心して子どもを通わせられる	優秀で信頼できる教員が多い	礼儀正しい生徒（児童）が多い	道徳教育・人間教育が充実している	生徒（児童）が自由でのびのびとしている	職業意識を高める教育をしている	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している	生徒（児童）の自主性に任せている	様々な価値観や背景を持った生徒（児童）と触れ合える	生徒（児童）一人ひとりに合わせた教育をしている	防災対策がしっかりしている	地域に根差した教育をしている	その他
私立学校 イメージ2020	3072	74.9	54.6	39.2	29.9	27.6	27.2	30.1	25.7	24.6	22.8	20.0	16.1	16.3	11.9	13.7	11.9	8.3	8.8	11.1	7.2	7.7	6.6	8.4	1.4	1.0
公立学校 イメージ2020	3072	5.6	3.0	3.9	3.4	6.1	1.6	10.5	18.8	3.4	20.9	1.3	6.5	10.4	3.4	2.9	5.0	35.5	2.6	3.0	24.9	20.9	2.7	7.3	42.5	4.9
有意差が認められた項目		*	*	*	*	*	*	*	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*		*	*

2015



	n=	授業料等の学費以外にもお金がかかる	施設・設備が整っている	進学指導が充実している	授業が充実している	教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる	グローバル教育のプログラムが充実している	規律・校則が厳しい	学校行事や部活動が盛んである	補習・講習など、フォロー体制が整っている	歴史・伝統がある	ICTを活用した教育が充実している	保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている	安心して子どもを通わせられる	優秀で信頼できる教員が多い	礼儀正しい生徒（児童）が多い	道徳教育・人間教育が充実している	生徒（児童）が自由でのびのびとしている	職業意識を高める教育をしている	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している	生徒（児童）の自主性に任せている	様々な価値観や背景を持った生徒（児童）と触れ合える	生徒（児童）一人ひとりに合わせた教育をしている	防災対策がしっかりしている	地域に根差した教育をしている	その他
私立学校 イメージ2015	2998	58.7	46.4	38.5	31.9	38.4	19.0	29.7	24.0	21.5	21.2	10.3	17.0	16.4	14.3	16.4	8.8	8.4	8.8	14.3	6.1	6.3	7.6	9.2	1.7	1.9
公立学校 イメージ2015	2998	4.4	3.4	4.0	3.2	6.1	0.7	6.3	20.5	3.0	15.9	0.8	6.2	8.6	2.6	2.7	3.1	27.6	2.2	2.8	25.8	19.5	2.4	7.4	36.9	7.0
有意差が認められた項目		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*

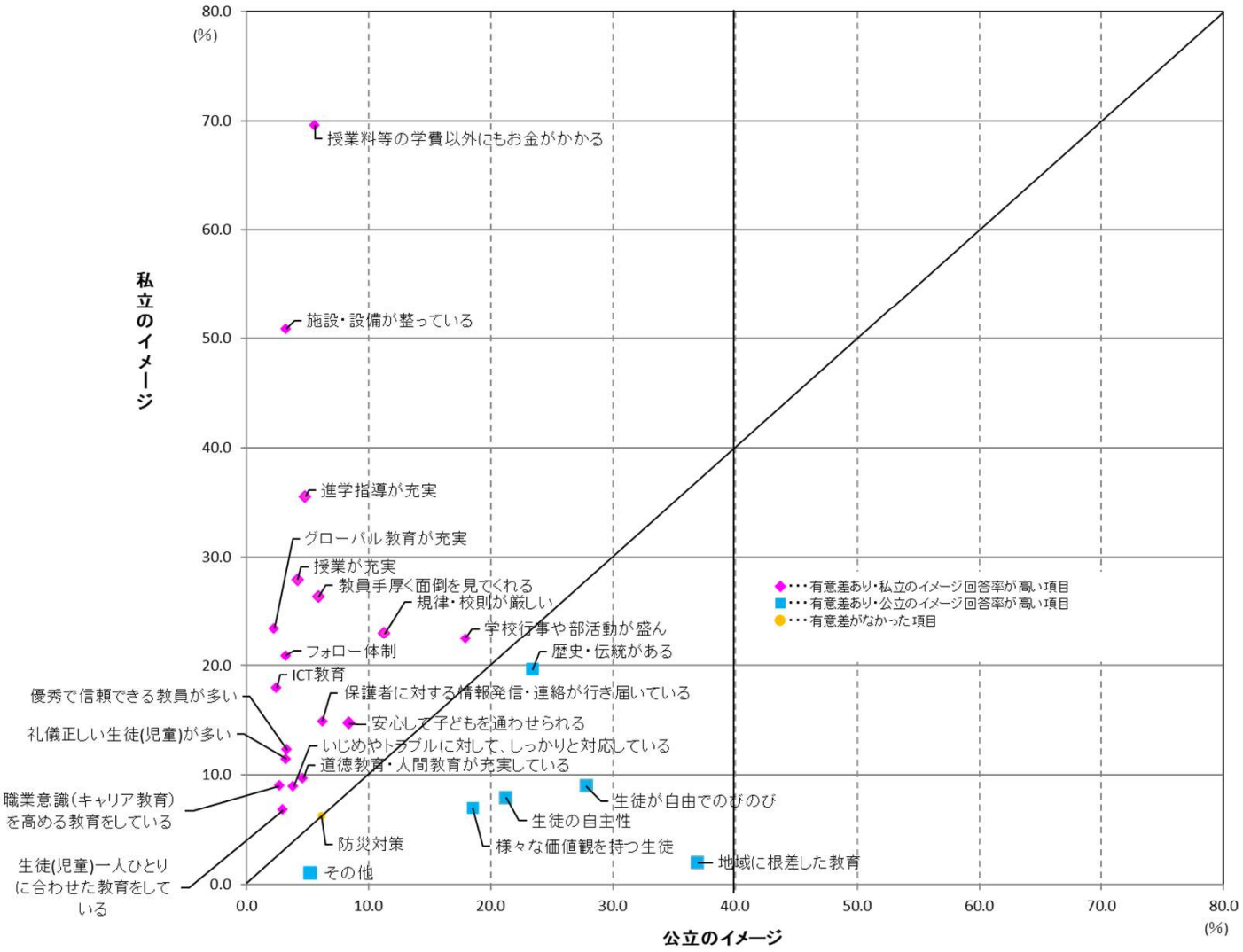
図表①の回答結果について、回答者全員におけるQ5_1私立学校のイメージと、Q5_2公立学校のイメージについて、X軸を公立のイメージ、Y軸を私立のイメージとして比較した。(図表②)

最も私立のイメージ回答率が高い項目は「授業料等の学費以外にもお金がかかる」であり、「施設・設備が整っている」、「進学指導が充実している」の項目が続いた。また、最も公立のイメージ回答率が高い項目は「地域に根差した教育をしている」であり、「生徒(児童)が自由でのびのびとしている」、「歴史・伝統がある」の項目が続いた。

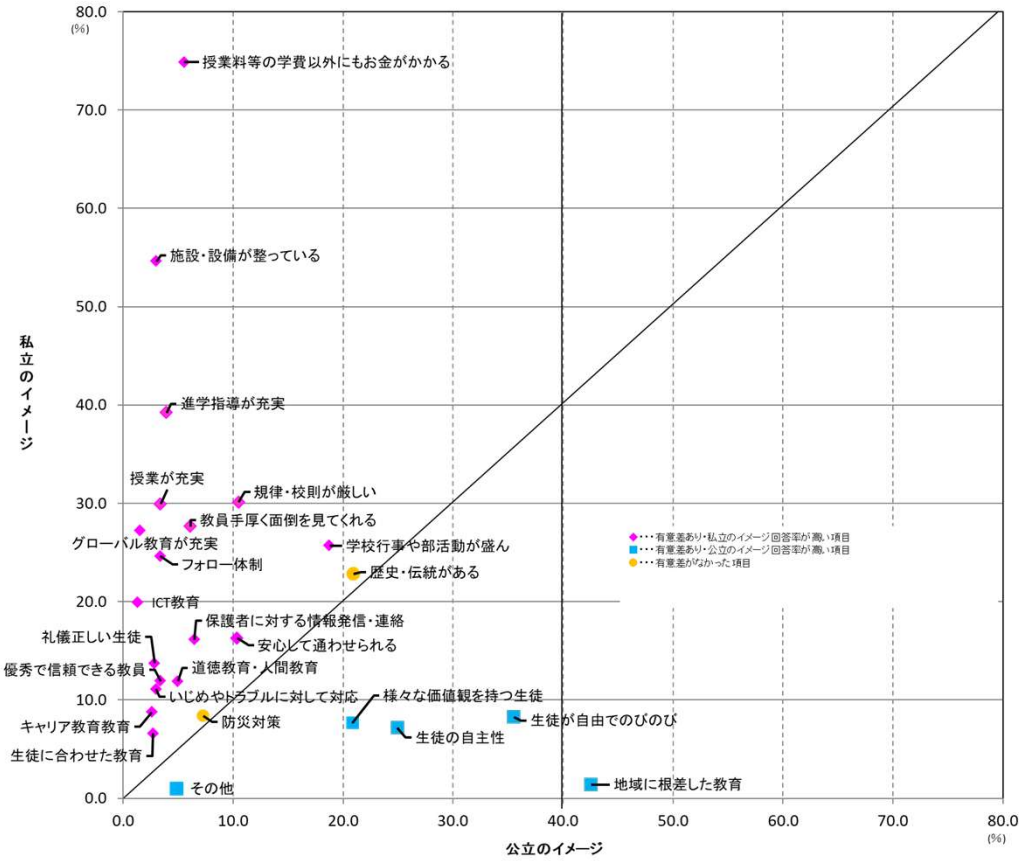
また、2025年と2020年で比較すると、「歴史・伝統がある」の項目が「有意差がなかった項目」から「有意差あり・公立のイメージ回答率が高い項目」になるという変化があった。

図表②　私立学校のイメージと公立学校のイメージ比較

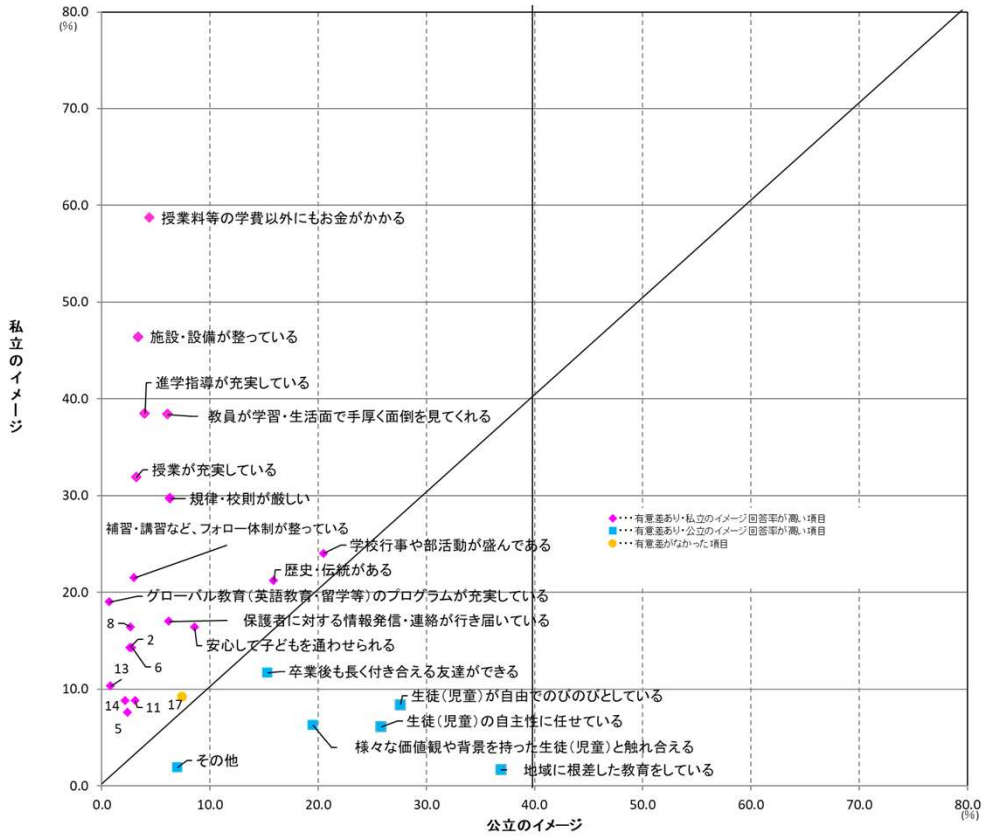
2025



2020



2015



2.優秀で信頼できる教員が多い
4.進学指導が充実している
5.生徒(児童)一人ひとりに合わせた教育をしている
6.いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している
8.礼儀正しい生徒(児童)が多い
11.道徳教育・人間教育が充実している
12.グローバル教育（英語教育・留学等）のプログラムが充実している
13.ICT(情報通信技術)を活用した教育が充実している
14.職業意識（キャリア教育）を高める教育をしている
15.保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている
17.防災対策がしっかりしている
21.施設・設備が整っている
25.その他

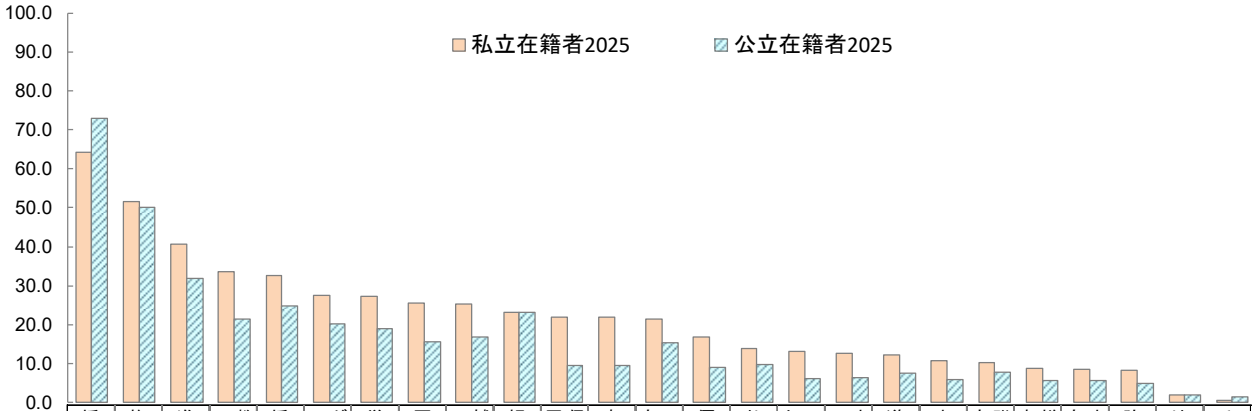
次に、私立学校のイメージについて、私立在籍者と公立在籍者の回答を比較した(図表③)。

私立学校在籍者の回答率が公立学校在籍者の回答率を上回る項目の内、特に「教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる」、「保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている」、「安心して子どもを通わせられる」の項目で10ポイント以上の差がある。

2025年と2020年で比較すると、私立学校に対する「授業料等の学費以外にもお金がかかる」というイメージは、公立学校在籍者と私立学校在籍者のいずれにおいても下降した。

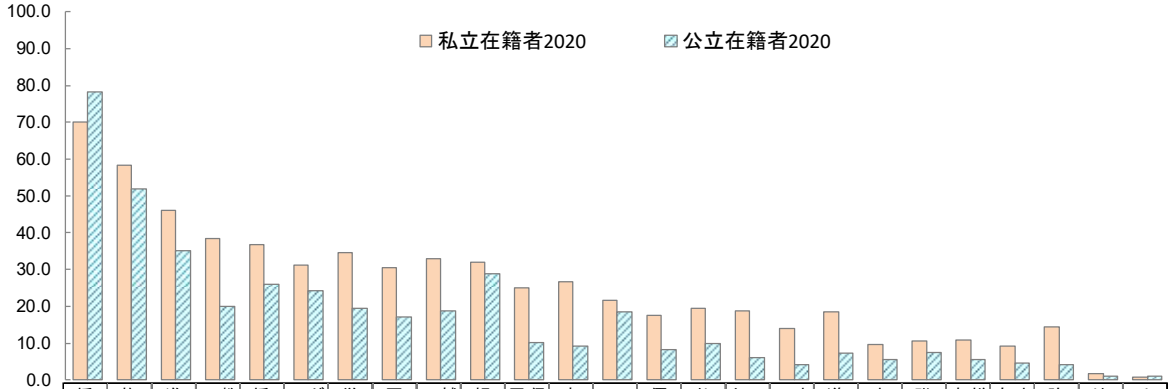
図表③　私立在籍者(卒業生含む)による私立学校イメージと、公立在籍者(卒業生含む)による私立学校イメージの差

2025



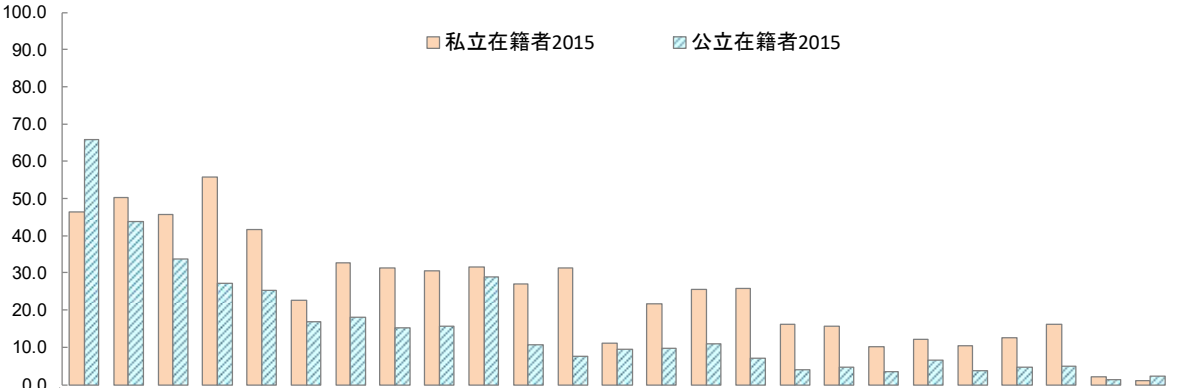
	n=	授業料等の学費以外にもお金がかかる	施設・設備が整っている	進学指導が充実している	教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる	授業が充実している	グローバル教育（英語教育・留学等）のプログラムが充実している	学校行事や部活動が盛んである	歴史・伝統がある	補習・講習など、フォロー体制が整っている	規律・校則が厳しい	保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている	安心して子どもを通わせられる	ICT（情報通信技術）を活用した教育が充実している	優秀で信頼できる教員が多い	礼儀正しい生徒（児童）が多い	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している	生徒（児童）が自由でのびのびとしている	道徳教育・人間教育が充実している	生徒（児童）の自主性に任せている	職業意識（キャリア教育）を高める教育をしている	様々な価値観や背景を持った生徒（児童）と触れ合える	生徒（児童）一人ひとりに合わせた教育をしている	防災対策がしっかりしている	地域に根差した教育をしている	その他
私立在籍者2025	1285	64.2	51.6	40.5	33.5	32.5	27.5	27.3	25.5	25.4	23.1	21.9	21.8	21.3	16.8	13.8	13.1	12.7	12.1	10.7	10.4	8.7	8.6	8.2	1.9	0.5
公立在籍者2025	1807	72.9	50.2	32.0	21.3	24.9	20.2	18.9	15.6	16.9	23.0	9.6	9.6	15.3	9.1	9.9	6.1	6.4	7.6	5.8	7.9	5.5	5.5	4.9	1.9	1.5
有意差が認められた項目		*		*	*	*	*	*	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*		*

2020



	n=	授業料等の学費以外にもお金がかかる	施設・設備が整っている	進学指導が充実している	教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる	授業が充実している	グローバル教育のプログラムが充実している	学校行事や部活動が盛んである	歴史・伝統がある	補習・講習など、フォロー体制が整っている	規律・校則が厳しい	保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている	安心して子どもを通わせられる	ＩＣＴを活用した教育が充実している	優秀で信頼できる教員が多い	礼儀正しい生徒（児童）が多い	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している	生徒（児童）が自由でのびのびとしている	道徳教育・人間教育が充実している	生徒（児童）の自主性に任せている	職業意識を高める教育をしている	様々な価値観や背景を持った生徒（児童）と触れ合える	生徒（児童）一人ひとりに合わせた教育をしている	防災対策がしっかりしている	地域に根差した教育をしている	その他
私立在籍者2020	1218	70.0	58.4	46.1	38.4	36.7	31.4	34.6	30.6	32.8	32.0	25.1	26.8	21.8	17.7	19.5	18.7	14.1	18.6	9.8	10.7	10.8	9.2	14.4	1.8	0.7
公立在籍者2020	1745	78.2	51.9	35.1	20.1	25.9	24.4	19.6	17.2	18.7	28.9	10.1	9.3	18.6	8.2	10.0	6.0	4.3	7.3	5.6	7.6	5.6	4.8	4.3	1.1	1.1
有意差が認められた項目		*	*	*	*	*	*	*	*	*		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*		*

2015



	n=	授業料等の学費以外にもお金がかかる	施設・設備が整っている	進学指導が充実している	教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる	授業が充実している	グローバル教育のプログラムが充実している	学校行事や部活動が盛んである	歴史・伝統がある	補習・講習など、フォロー体制が整っている	規律・校則が厳しい	保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている	安心して子どもを通わせられる	ＩＣＴを活用した教育が充実している	優秀で信頼できる教員が多い	礼儀正しい生徒（児童）が多い	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している	生徒（児童）が自由でのびのびとしている	道徳教育・人間教育が充実している	生徒（児童）の自主性に任せている	職業意識を高める教育をしている	様々な価値観や背景を持った生徒（児童）と触れ合える	生徒（児童）一人ひとりに合わせた教育をしている	防災対策がしっかりしている	地域に根差した教育をしている	その他
私立在籍者2015	1093	46.5	50.3	45.7	55.9	41.6	22.6	32.8	31.2	30.6	31.6	26.9	31.4	11.2	21.7	25.6	25.7	16.1	15.8	10.3	12.1	10.4	12.5	16.1	2.0	1.1
公立在籍者2015	1790	65.9	43.8	33.8	27.3	25.4	16.9	18.2	15.2	15.8	28.9	10.8	7.6	9.6	9.8	11.0	7.2	4.0	4.6	3.4	6.6	3.7	4.6	5.0	1.4	2.3
有意差が認められた項目		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*

２．現在在籍している学校の評価

現在子どもが在籍している学校について、その評価を私立在籍者と公立在籍者に聞いた(図表④)。

私立学校在籍者の回答率が公立学校在籍者の回答率を上回る項目の内、特に「授業料等の学費以外にもお金がかかる」、「施設・設備が整っている」、「グローバル教育（英語教育・留学等）のプログラムが充実している」の項目で20ポイント以上の差がある。

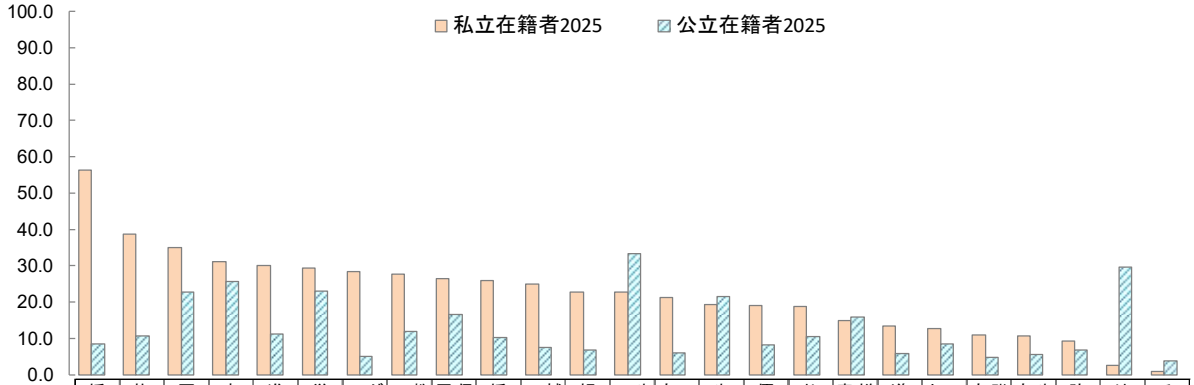
2025年と2020年で比較すると、私立学校に対する「授業料等の学費以外にもお金がかかる」というイメージは、私立学校在籍者においても下降した。

次に、私立学校に対する評価について小学校・中学校・高校で比較した(図表⑤)。

私立中学校では「グローバル教育」が42.1%で全体28.3%より13.8ポイント、「ICT活用」33.5%は全体の21.2%より12.3ポイント高く、先進プログラムへの評価が高い。私立高校は「補習・講習など、フォロー体制が整っている」が28.4%で全体24.9%より3.5ポイント高い結果となった。

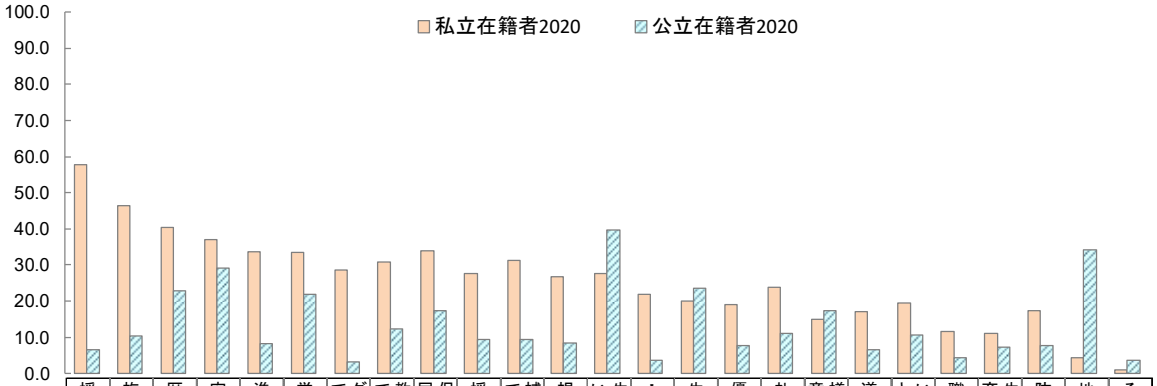
図表④　現在在籍している学校の評価(私立・公立別)

2025



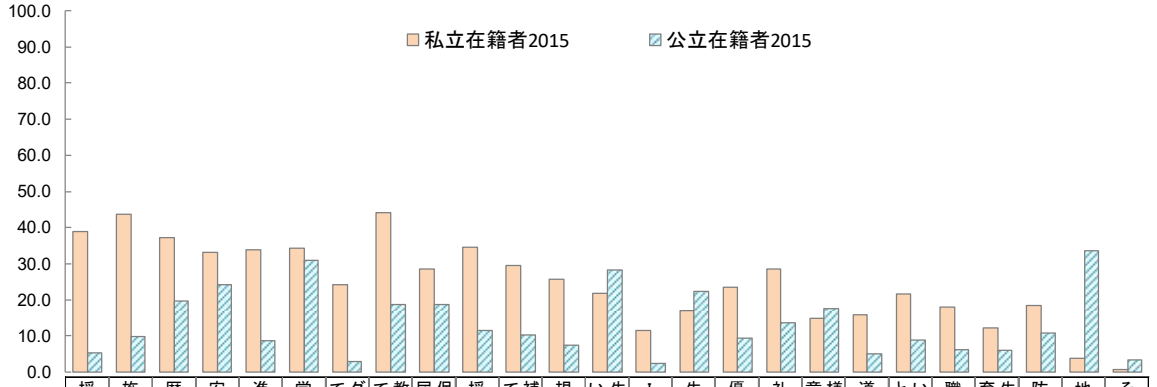
	n=	授業料等の学費以外にもお金がかかる	施設・設備が整っている	歴史・伝統がある	安心して子どもを通わせられる	進学指導が充実している	学校行事や部活動が盛んである	グローバル教育（英語教育・留学等）のプログラムが充実している	教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる	保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている	授業が充実している	補習・講習など、フォロー体制が整っている	規律・校則が厳しい	生徒（児童）が自由でのびのびとしている	ICT（情報通信技術）を活用した教育が充実している	生徒（児童）の自主性に任せている	優秀で信頼できる教員が多い	礼儀正しい生徒（児童）が多い	様々な価値観や背景を持った生徒（児童）と触れ合える	道徳教育・人間教育が充実している	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している	職業意識（キャリア教育）を高める教育をしている	生徒（児童）一人ひとりに合わせた教育をしている	防災対策がしっかりしている	地域に根差した教育をしている	その他
私立在籍者2025	1285	56.3	38.8	35.1	31.0	30.0	29.3	28.3	27.5	26.3	26.0	24.9	22.8	22.6	21.2	19.3	19.0	18.8	14.8	13.3	12.7	11.1	10.6	9.3	2.6	0.9
公立在籍者2025	1807	8.4	10.7	22.7	25.6	11.2	23.1	4.9	12.0	16.7	10.2	7.6	6.7	33.3	6.1	21.5	8.3	10.3	15.8	5.9	8.5	4.8	5.6	6.6	29.6	3.8
有意差が認められた項目		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*		*	*		*	*	*	*	*	*	*

2020



	n=	授業料等の学費以外にもお金がかかる	施設・設備が整っている	歴史・伝統がある	安心して子どもを通わせられる	進学指導が充実している	学校行事や部活動が盛んである	グローバル教育のプログラムが充実している	教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる	保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている	授業が充実している	補習・講習など、フォロー体制が整っている	規律・校則が厳しい	生徒（児童）が自由でのびのびとしている	ＩＣＴを活用した教育が充実している	生徒（児童）の自主性に任せている	優秀で信頼できる教員が多い	礼儀正しい生徒（児童）が多い	様々な価値観や背景を持った生徒（児童）と触れ合える	道徳教育・人間教育が充実している	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している	職業意識を高める教育をしている	生徒（児童）一人ひとりに合わせた教育をしている	防災対策がしっかりしている	地域に根差した教育をしている	その他
私立在籍者2020	1218	57.8	46.6	40.5	37.0	33.7	33.4	28.7	30.9	34.0	27.6	31.3	26.7	27.7	21.8	20.1	19.0	23.9	14.9	17.2	19.5	11.7	11.0	17.3	4.4	1.0
公立在籍者2020	1745	6.6	10.4	22.9	29.1	8.1	21.8	3.3	12.4	17.4	9.3	9.3	8.4	39.6	3.7	23.6	7.8	11.2	17.3	6.6	10.7	4.3	7.2	7.8	34.2	3.6
有意差が認められた項目		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*		*	*	*	*	*	*	*

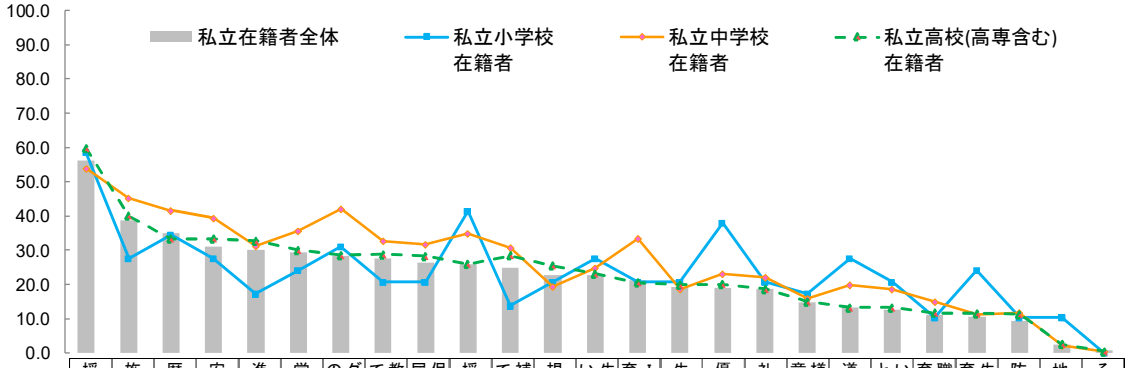
2015



	n=	授業料等の学費以外にもお金がかかる	施設・設備が整っている	歴史・伝統がある	安心して子どもを通わせられる	進学指導が充実している	学校行事や部活動が盛んである	グローバル教育のプログラムが充実している	教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる	保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている	授業が充実している	補習・講習など、フォロー体制が整っている	規律・校則が厳しい	生徒（児童）が自由でのびのびとしている	ＩＣＴを活用した教育が充実している	生徒（児童）の自主性に任せている	優秀で信頼できる教員が多い	礼儀正しい生徒（児童）が多い	様々な価値観や背景を持った生徒（児童）と触れ合える	道徳教育・人間教育が充実している	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している	職業意識を高める教育をしている	生徒（児童）一人ひとりに合わせた教育をしている	防災対策がしっかりしている	地域に根差した教育をしている	その他
私立在籍者2015	1093	39.0	43.5	37.2	33.2	33.8	34.4	24.3	44.2	28.5	34.5	29.6	25.7	22.0	11.4	17.1	23.4	28.5	14.9	15.7	21.5	17.9	12.4	18.5	3.8	0.8
公立在籍者2015	1790	5.3	9.9	19.6	24.3	8.8	30.8	2.8	18.6	18.7	11.6	10.2	7.5	28.3	2.5	22.4	9.3	13.7	17.6	5.0	8.9	6.4	6.0	10.7	33.7	3.5
有意差が認められた項目		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*		*	*	*	*	*	*	*

図表⑤　現在在籍している学校の評価(私立小学校・中学校・高校別)

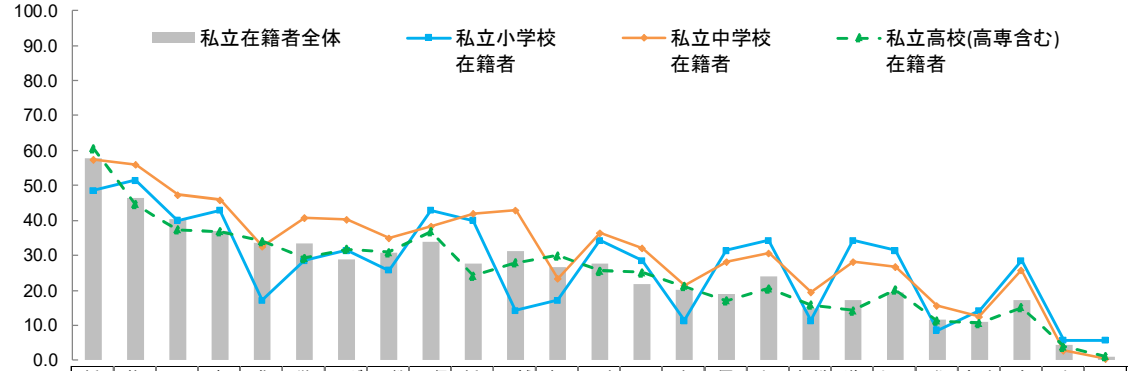
2025



	n=	授業料等の学費以外にもお金がかかる	施設・設備が整っている	歴史・伝統がある	安心して子どもを通わせられる	進学指導が充実している	学校行事や部活動が盛んである	グローバル教育（英語教育・留学等）のプログラムが充実している	教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる	保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている	授業が充実している	補習・講習など、フォロー体制が整っている	規律・校則が厳しい	生徒（児童）が自由でのびのびとしている	ICT（情報通信技術）を活用した教育が充実している	生徒（児童）の自主性に任せている	優秀で信頼できる教員が多い	礼儀正しい生徒（児童）が多い	様々な価値観や背景を持った生徒（児童）と触れ合える	道徳教育・人間教育が充実している	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している	職業意識（キャリア教育）を高める教育をしている	生徒（児童）一人ひとりに合わせた教育をしている	防災対策がしっかりしている	地域に根差した教育をしている	その他
私立在籍者全体	1285	56.3	38.8	35.1	31.0	30.0	29.3	28.3	27.5	26.3	26.0	24.9	22.8	22.6	21.2	19.3	19.0	18.8	14.8	13.3	12.7	11.1	10.6	9.3	2.6	0.9
私立小学校在籍者	29	58.6	27.6	34.5	27.6	17.2	24.1	31.0	20.7	20.7	41.4	13.8	20.7	27.6	20.7	20.7	37.9	20.7	17.2	27.6	20.7	10.3	24.1	10.3	10.3	0.0
私立中学校在籍者	221	53.8	45.2	41.6	39.4	31.2	35.7	42.1	32.6	31.7	34.8	30.8	19.5	24.9	33.5	18.6	23.1	22.2	15.8	19.9	18.6	14.9	11.3	11.8	2.3	0.5
私立高校(高専含む)在籍者	573	59.9	40.0	33.3	33.3	32.8	30.0	28.6	28.8	28.3	26.0	28.4	25.5	23.2	20.6	19.9	20.1	18.7	15.0	13.3	13.3	11.7	11.5	11.3	2.6	0.5

網掛けは全体と有意な差があった項目

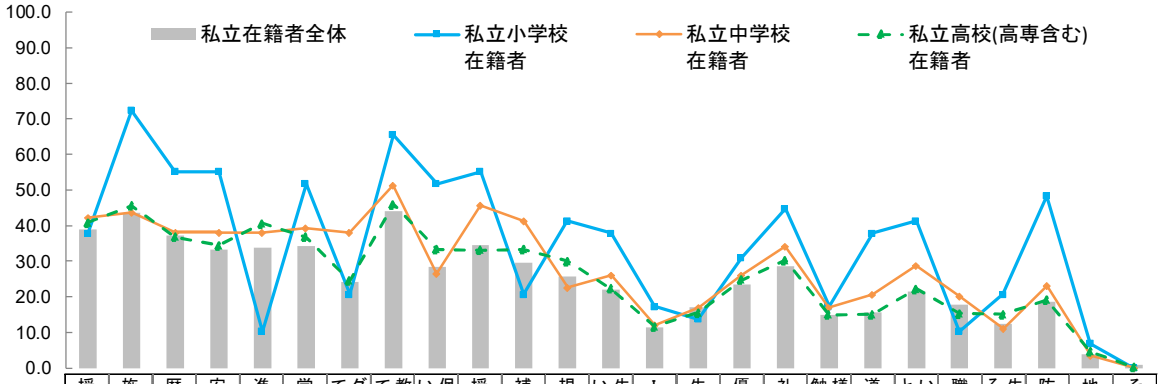
2020



	n=	授業料等の学費以外にもお金がかかる	施設・設備が整っている	歴史・伝統がある	安心して子どもを通わせられる	進学指導が充実している	学校行事や部活動が盛んである	グローバル教育のプログラムが充実している	教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる	保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている	授業が充実している	補習・講習など、フォロー体制が整っている	規律・校則が厳しい	生徒（児童）が自由でのびのびとしている	ICTを活用した教育が充実している	生徒（児童）の自主性に任せている	優秀で信頼できる教員が多い	礼儀正しい生徒（児童）が多い	様々な価値観や背景を持った生徒（児童）と触れ合える	道徳教育・人間教育が充実している	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している	職業意識を高める教育をしている	生徒（児童）一人ひとりに合わせた教育をしている	防災対策がしっかりしている	地域に根差した教育をしている	その他
私立在籍者全体	1218	57.8	46.6	40.5	37.0	33.7	33.4	28.7	30.9	34.0	27.6	31.3	26.7	27.7	21.8	20.1	19.0	23.9	14.9	17.2	19.5	11.7	11.0	17.3	4.4	1.0
私立小学校在籍者	35	48.6	51.4	40.0	42.9	17.1	28.6	31.4	25.7	42.9	40.0	14.3	17.1	34.3	28.6	11.4	31.4	34.3	11.4	34.3	31.4	8.6	14.3	28.6	5.7	5.7
私立中学校在籍者	209	57.4	56.0	47.4	45.9	32.5	40.7	40.2	34.9	38.3	42.1	43.1	23.4	36.4	32.1	21.5	28.2	30.6	19.6	28.2	26.8	15.8	12.4	25.8	2.9	0.5
私立高校(高専含む)在籍者	516	60.7	44.6	37.4	36.8	34.1	29.3	31.8	31.0	36.8	24.2	27.9	30.0	25.6	25.2	21.1	17.1	20.5	15.9	14.3	20.2	11.2	10.7	15.1	3.9	1.2

網掛けは全体と有意な差があった項目

2015



	n=	授業料等の学費以外にもお金がかかる	施設・設備が整っている	歴史・伝統がある	安心して子どもを通わせられる	進学指導が充実している	学校行事や部活動が盛んである	グローバル教育のプログラムが充実している	教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる	保護者に対する情報発信が行き届いている	授業が充実している	補習など、フォロー体制が整っている	規律・校則が厳しい	生徒（児童）が自由でのびのびとしている	ICTを活用した教育が充実している	生徒（児童）の自主性に任せている	優秀で信頼できる教員が多い	礼儀正しい生徒（児童）が多い	様々な価値観を持った生徒（児童）と触れ合える	道徳教育・人間教育が充実している	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している	職業意識を高める教育をしている	生徒（児童）に合わせた教育をしている	防災対策がしっかりしている	地域に根差した教育をしている	その他
私立在籍者全体	1093	39.0	43.5	37.2	33.2	33.8	34.4	24.3	44.2	28.5	34.5	29.6	25.7	22.0	11.4	17.1	23.4	28.5	14.9	15.7	21.5	17.9	12.4	18.5	3.8	0.8
私立小学校在籍者	29	37.9	72.4	55.2	55.2	10.3	51.7	20.7	65.5	51.7	55.2	20.7	41.4	37.9	17.2	13.8	31.0	44.8	17.2	37.9	41.4	10.3	20.7	48.3	6.9	0.0
私立中学校在籍者	199	42.2	43.7	38.2	38.2	38.2	39.2	38.2	51.3	26.6	45.7	41.2	22.6	26.1	12.1	17.1	26.1	34.2	17.1	20.6	28.6	20.1	11.1	23.1	3.5	0.0
私立高校(高専含む)在籍者	456	40.8	45.6	36.8	34.4	40.6	36.8	24.6	46.1	33.3	33.1	33.3	30.0	22.4	11.6	15.6	24.8	30.3	14.9	15.1	22.1	15.4	15.1	19.1	4.6	0.2

網掛けは全体と有意な差があった項目

３．イメージと評価の差

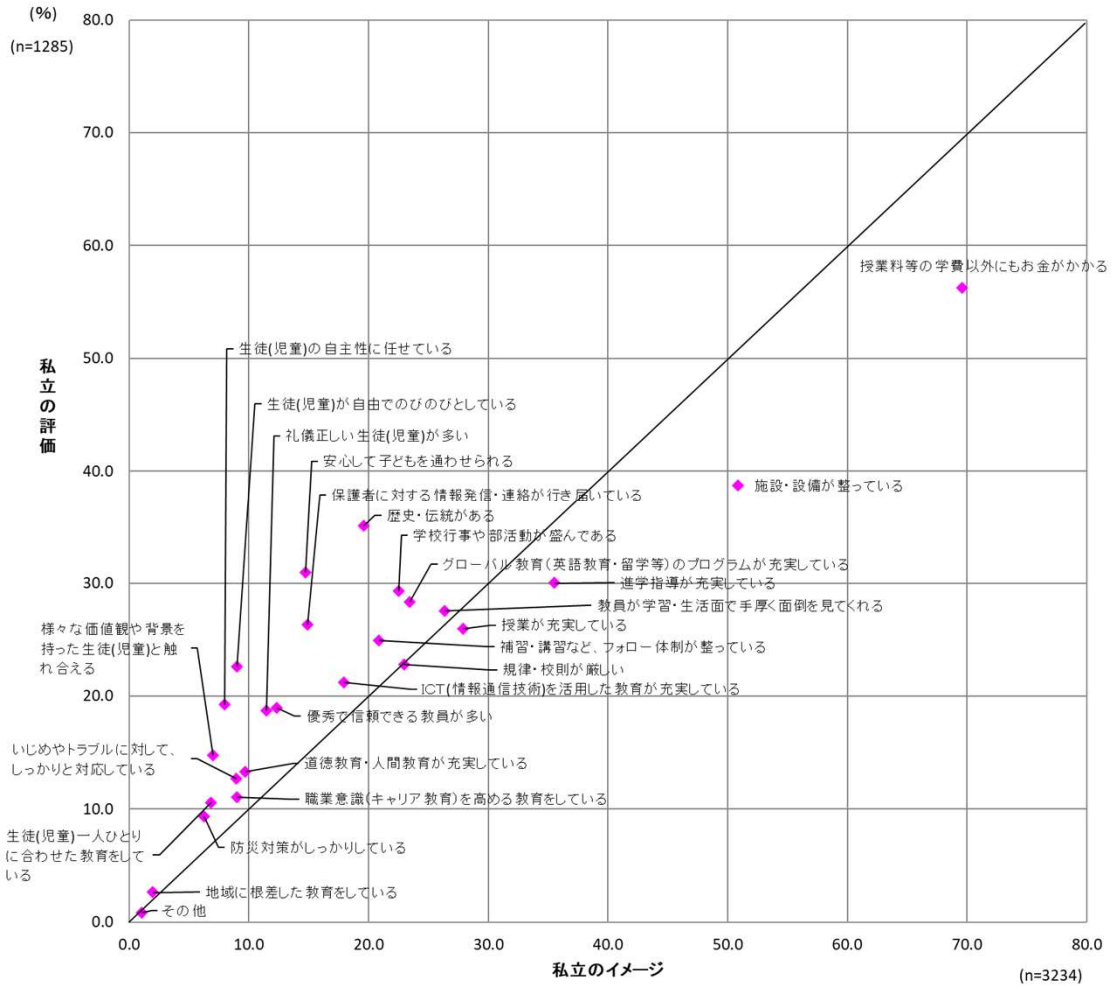
私立学校および公立学校について、回答者全体のイメージと私立・公立在籍者の評価を比較した（図表⑥、図表⑦）。

私立学校在籍者は多くの項目で、一般に持たれている私立学校のイメージよりも高い評価をしていた。これは2020年も同様の結果であった。公立学校在籍者は、私立学校在籍者とは異なり、ほとんどの項目で一般に持たれている公立学校のイメージに近い評価をしていた。

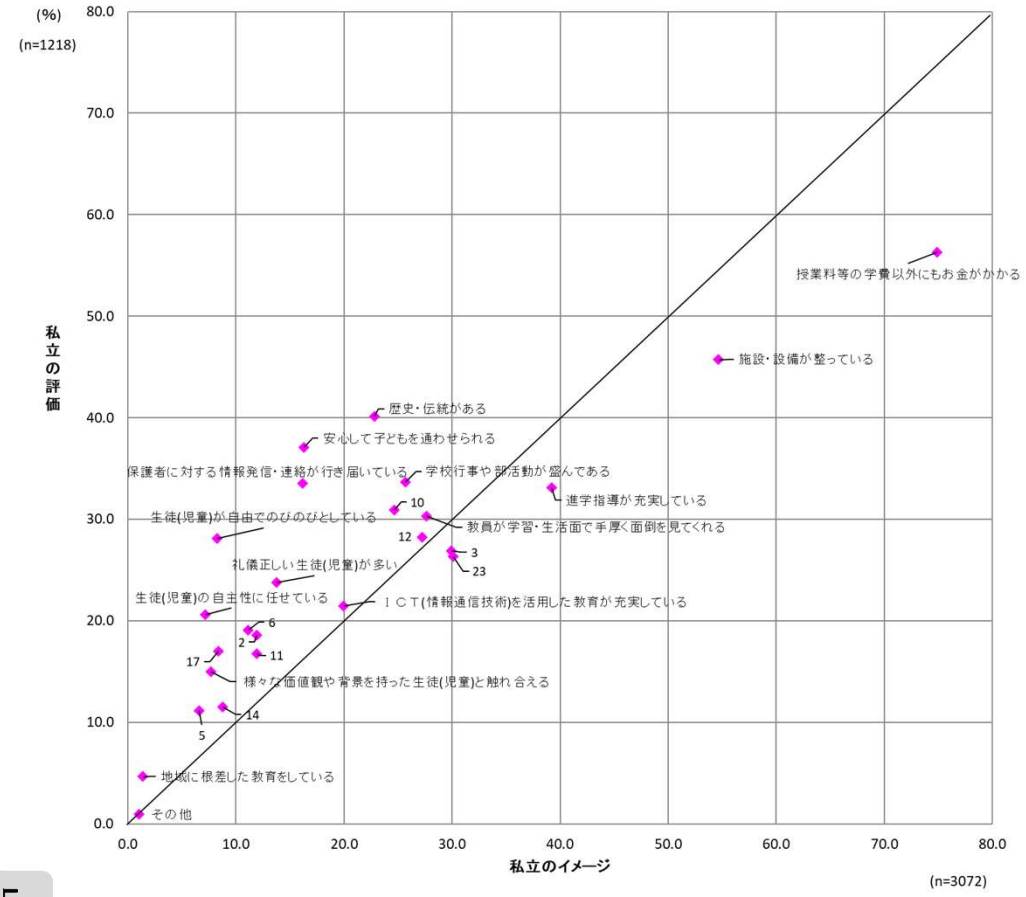
この2つを比較すると、私立学校は、一般に持たれているイメージ以上に、実際の取組みに対する在籍者の評価が幅広い項目において公立学校より高いと言える。

図表⑥　私立学校のイメージと評価

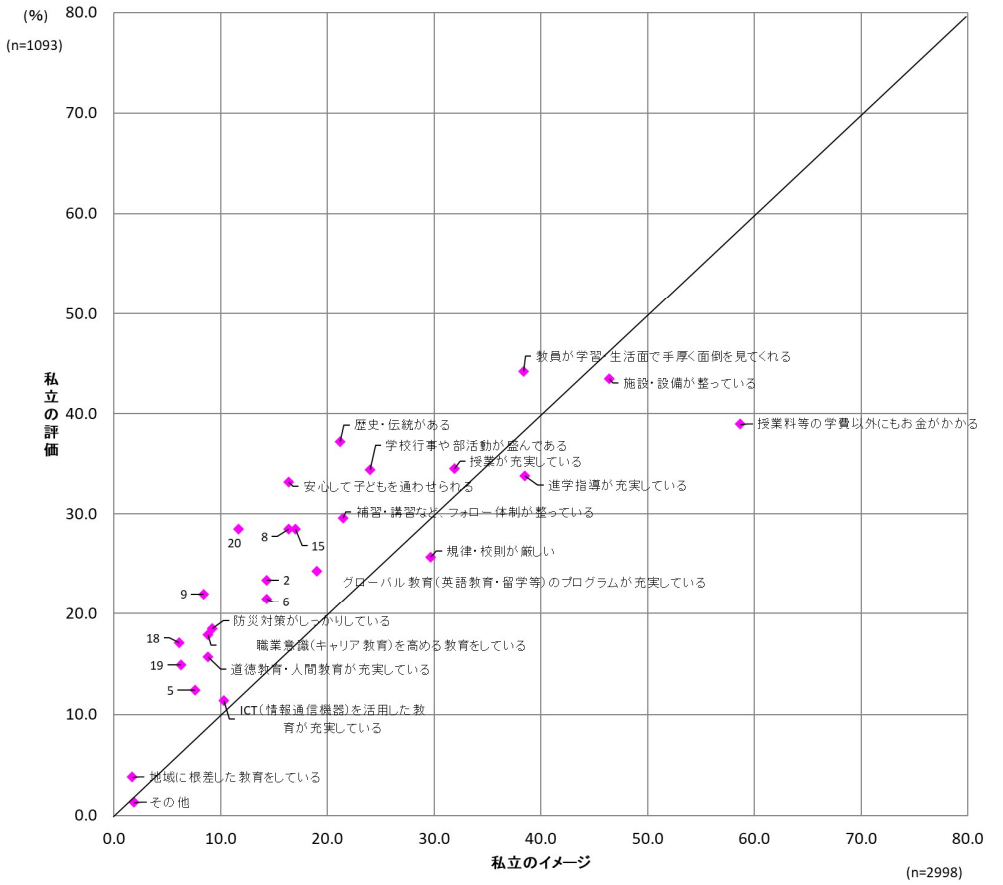
2025



2020



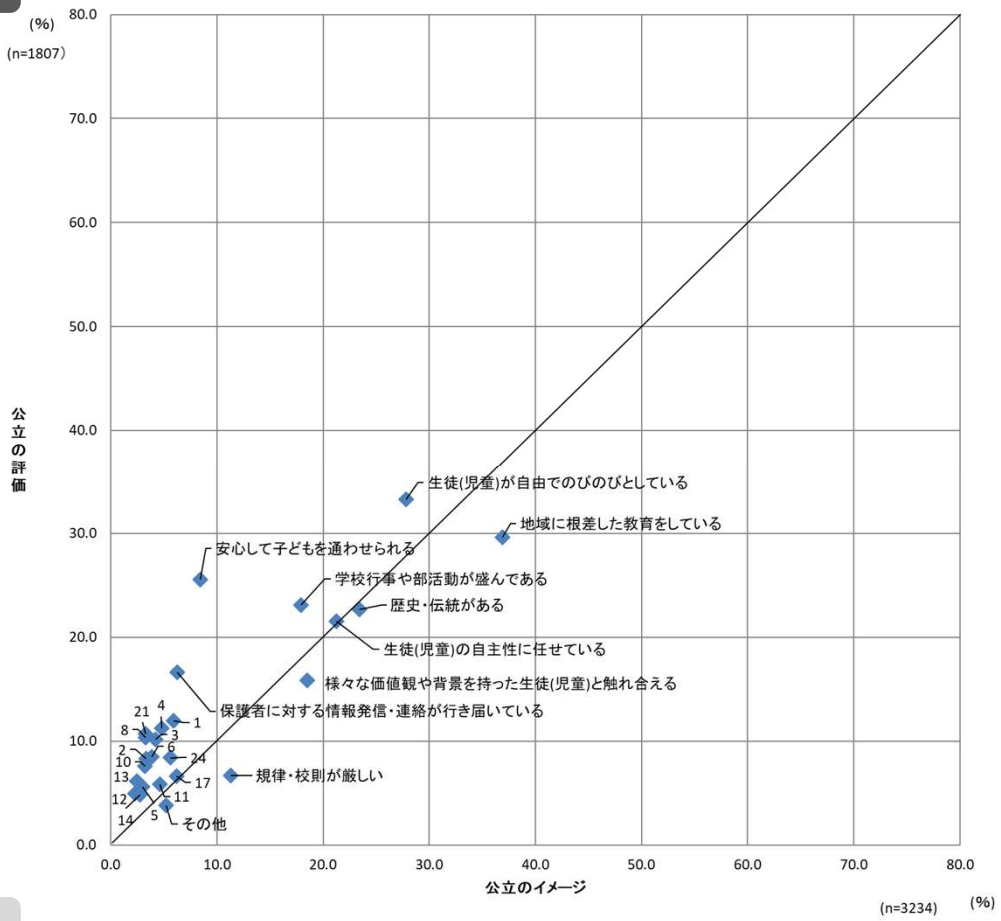
2015



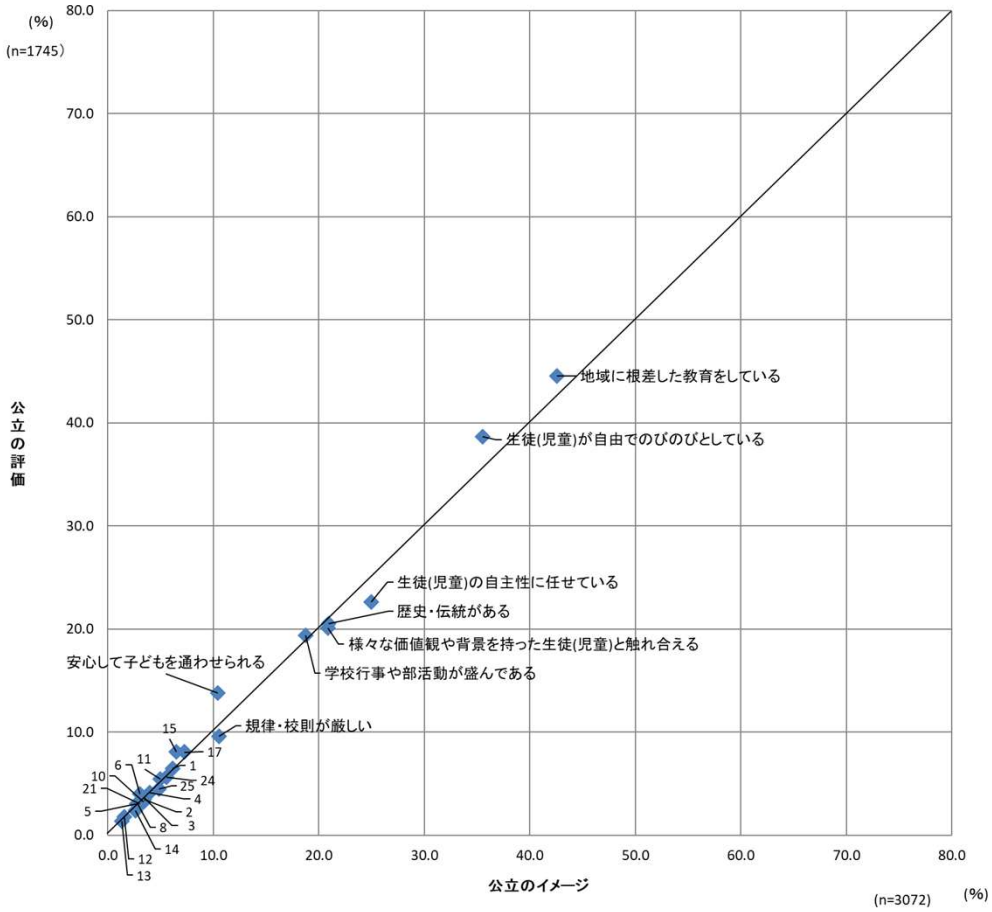
2.優秀で信頼できる教員が多い
3.授業が充実している
4.進学指導が充実している
5.生徒（児童）一人ひとりに合わせた教育をしてい
6.いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している
8.礼儀正しい生徒(児童)が多い
9.生徒(児童)が自由でのびのびとしている
10.補習・講習など、フォロー体制が整っている
11.道徳教育・人間教育が充実している
12.グローバル教育（英語教育・留学等）のプログラムが充実している
13.ICT（情報通信機器）を活用した教育が充実している
14.職業意識（キャリア教育）を高める教育をしている
15.保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている
17.防災対策がしっかりしている
18.生徒(児童)の自主性に任せている
19.様々な価値観や背景を持った生徒(児童)と触れ合える
20.安心して子どもを通わせられる
21.施設・設備が整っている
22.規律・校則が厳しい
23.歴史・伝統がある
24.授業料等の学費以外にもお金がかかる
25.その他

図表⑦　公立学校のイメージと評価

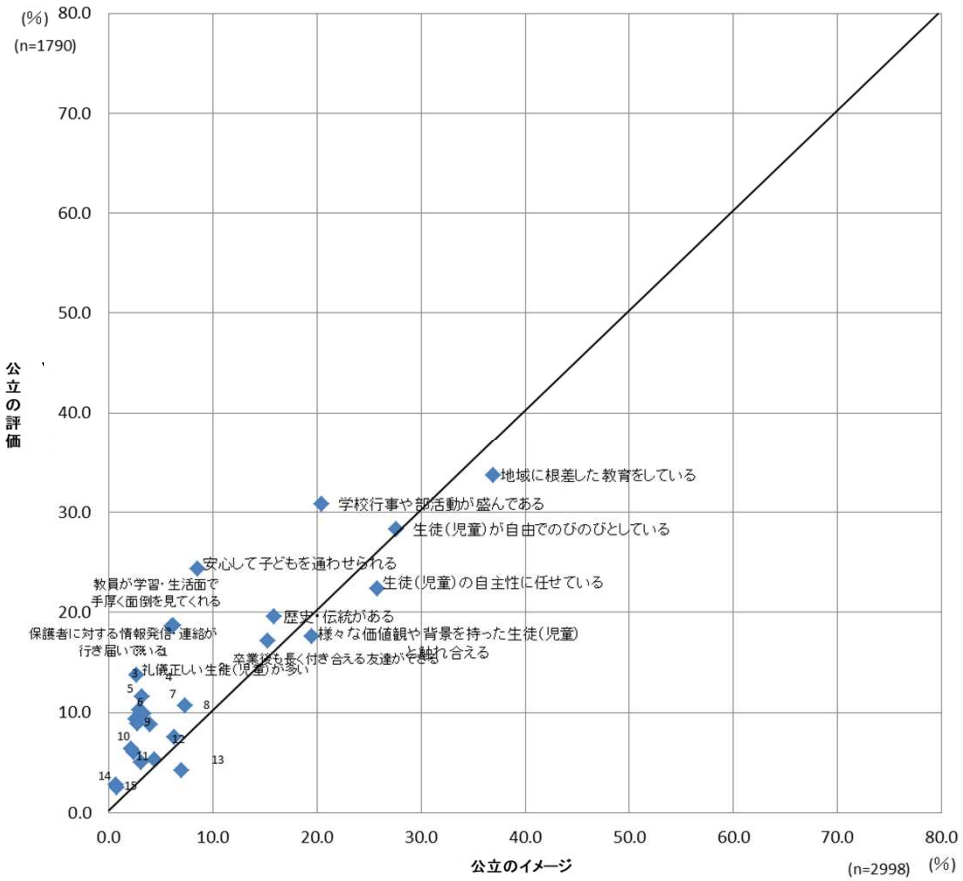
2025



2020



2015



1.教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる
2.優秀で信頼できる教員が多い
3.授業が充実している
4.進学指導が充実している
5.生徒(児童)一人ひとりに合わせた教育をしている
6.いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している
7.地域に根差した教育をしている
8.礼儀正しい生徒(児童)が多い
9.生徒（児童）が自由でのびのびとしている
10.補習・講習など、フォロー体制が整っている
11.道徳教育・人間教育が充実している
12.グローバル教育（英語教育・留学等）のプログラムが充実している
13.ICT(情報通信技術)を活用した教育が充実している
14.職業意識（キャリア教育）を高める教育をしている
15.保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている
17.防災対策がしっかりしている
21.施設・設備が整っている
24.授業料等の学費以外にもお金がかかる
25.その他

４．今後学校に期待すること

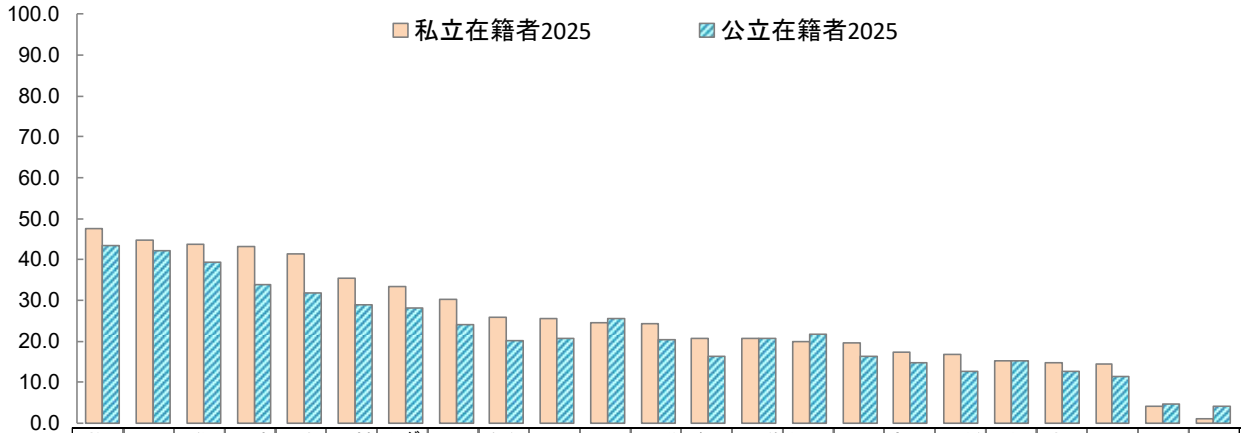
今後私立学校に期待することについて、私立在籍者と公立在籍者に聞いた(図表⑧)。
私立在籍者では「施設・設備が整っている」の回答率が最も高かった。次いで、「授業が充実している」、「進学指導が充実している」、「安心して子どもを通わせられる」、「教員が学習・生活面で手厚く面倒をみてくれる」と続いており、いずれも回答率は40%を超えていた。

次に、私立学校に期待することと公立学校に期待することを回答者全員に聞き、その回答を比較した(図表⑨)。

多くの項目で私立に対する回答率の方が高くなっており、私立の方が様々な点について高い期待を寄せられていることがわかる。 その中でも、「施設・設備が整っている」、「授業が充実している」、「進学指導が充実している」、「グローバル教育（英語教育・留学等）のプログラムが充実している」については、私立学校への期待の方が公立学校よりも20ポイント以上高くなっていた。これらの項目は2025年、2020年、2015年も差が大きくなっており、私学在籍者が公立在籍者に比べて期待度の高い項目であると言える。

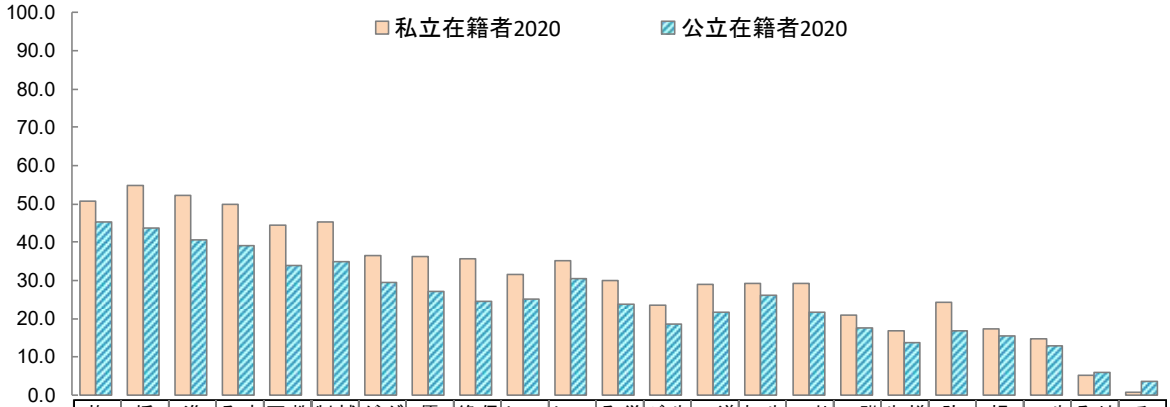
図表⑧　今後私立学校に期待すること

2025



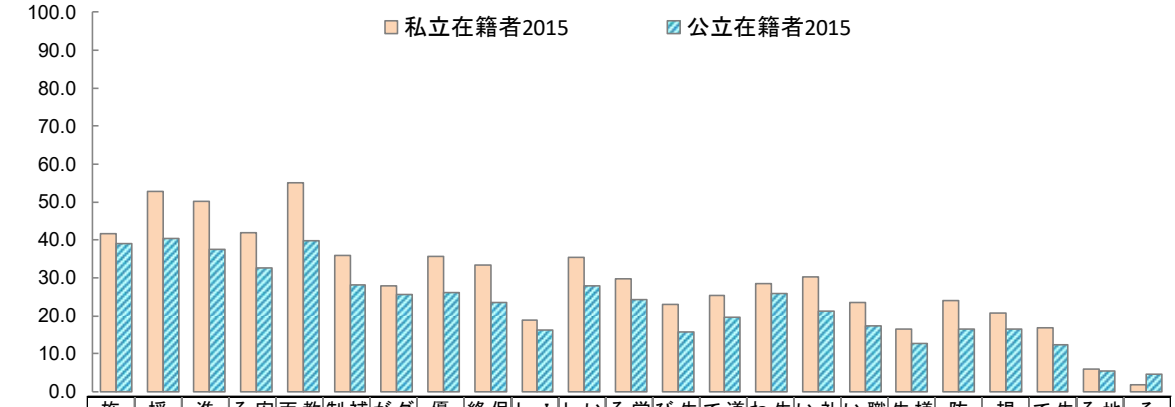
	n=	施設・設備が整っている	授業が充実している	進学指導が充実している	安心して子どもを通わせられる	教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる	補習・講習など、フォロー体制が整っている	グローバル教育（英語教育・留学等）のプログラムが充実している	優秀で信頼できる教員が多い	保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている	ICT（情報通信技術）を活用した教育が充実している	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している	学校行事や部活動が盛んである	生徒（児童）が自由でのびのびとしている	道徳教育・人間教育が充実している	生徒（児童）一人ひとりに合わせた教育をしている	礼儀正しい生徒（児童）が多い	職業意識（キャリア教育）を高める教育をしている	様々な価値観や背景を持った生徒（児童）と触れ合える	防災対策がしっかりしている	規律・校則が厳しい	生徒（児童）の自主性に任せている	地域に根差した教育をしている	その他
私立在籍者2025	1285	47.5	44.6	43.7	43.0	41.4	35.5	33.3	30.1	25.8	25.7	24.6	24.3	20.8	20.5	19.9	19.7	17.4	16.8	15.3	14.8	14.6	4.2	1.1
公立在籍者2025	1807	43.4	42.2	39.3	33.9	31.7	28.9	28.1	24.1	20.1	20.6	25.6	20.5	16.3	20.6	21.7	16.2	14.7	12.7	15.2	12.7	11.3	4.6	4.1

2020



	n=	施設・設備が整っている	授業が充実している	進学指導が充実している	安心して子どもを通わせられる	教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる	補習・講習など、フォロー体制が整っている	グローバル教育のプログラムが充実している	優秀で信頼できる教員が多い	保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている	ICTを活用した教育が充実している	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している	学校行事や部活動が盛んである	生徒（児童）が自由でのびのびとしている	道徳教育・人間教育が充実している	生徒（児童）一人ひとりに合わせた教育をしている	礼儀正しい生徒（児童）が多い	職業意識を高める教育をしている	様々な価値観や背景を持った生徒（児童）と触れ合える	防災対策がしっかりしている	規律・校則が厳しい	生徒（児童）の自主性に任せている	地域に根差した教育をしている	その他
私立在籍者2020	1218	50.7	54.9	52.3	50.0	44.4	45.2	36.4	36.2	35.7	31.4	35.1	29.9	23.6	29.0	29.1	29.3	20.9	16.8	24.2	17.4	14.8	5.2	0.7
公立在籍者2020	1736	45.2	43.6	40.6	38.9	33.8	34.9	29.5	27.0	24.5	25.1	30.5	23.8	18.5	21.8	26.2	21.7	17.5	13.8	16.9	15.4	13.0	5.8	3.5
有意差が認められた項目			＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊		＊	＊	＊	＊				

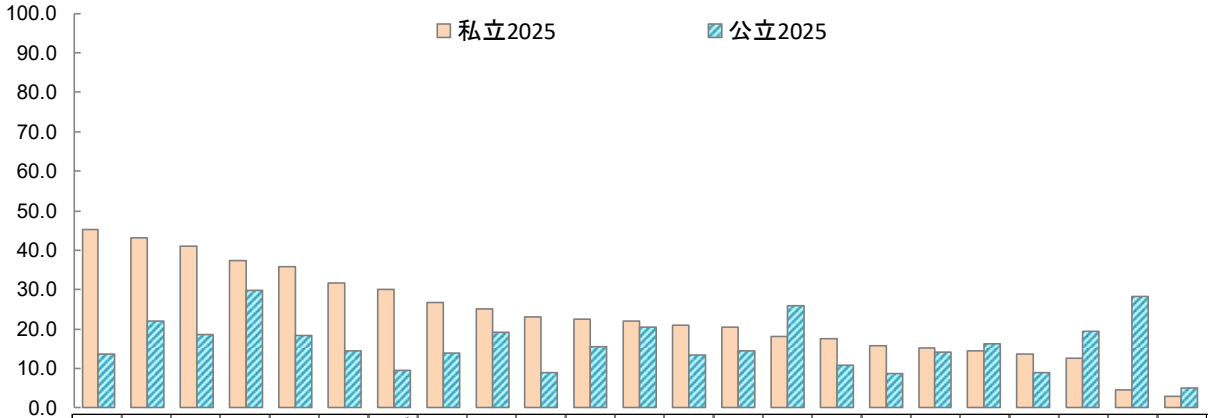
2015



	n=	施設・設備が整っている	授業が充実している	進学指導が充実している	安心して子どもを通わせられる	教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる	補習・講習など、フォロー体制が整っている	グローバル教育のプログラムが充実している	優秀で信頼できる教員が多い	保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている	ICTを活用した教育が充実している	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している	学校行事や部活動が盛んである	生徒（児童）が自由でのびのびとしている	道徳教育・人間教育が充実している	生徒（児童）一人ひとりに合わせた教育をしている	礼儀正しい生徒（児童）が多い	職業意識を高める教育をしている	様々な価値観や背景を持った生徒（児童）と触れ合える	防災対策がしっかりしている	規律・校則が厳しい	生徒（児童）の自主性に任せている	地域に根差した教育をしている	その他
私立在籍者2015	1093	41.7	52.8	50.1	41.9	55.1	36.0	27.8	35.7	33.2	18.8	35.4	29.6	23.1	25.3	28.3	30.1	23.4	16.6	24.1	20.7	16.8	5.9	1.8
公立在籍者2015	1790	39.1	40.3	37.4	32.5	39.9	28.1	25.5	26.1	23.4	16.3	27.9	24.2	15.7	19.7	25.7	21.1	17.4	12.6	16.4	16.4	12.3	5.5	4.6
有意差が認められた項目			＊	＊	＊	＊	＊		＊	＊		＊	＊	＊	＊		＊	＊	＊	＊	＊	＊		

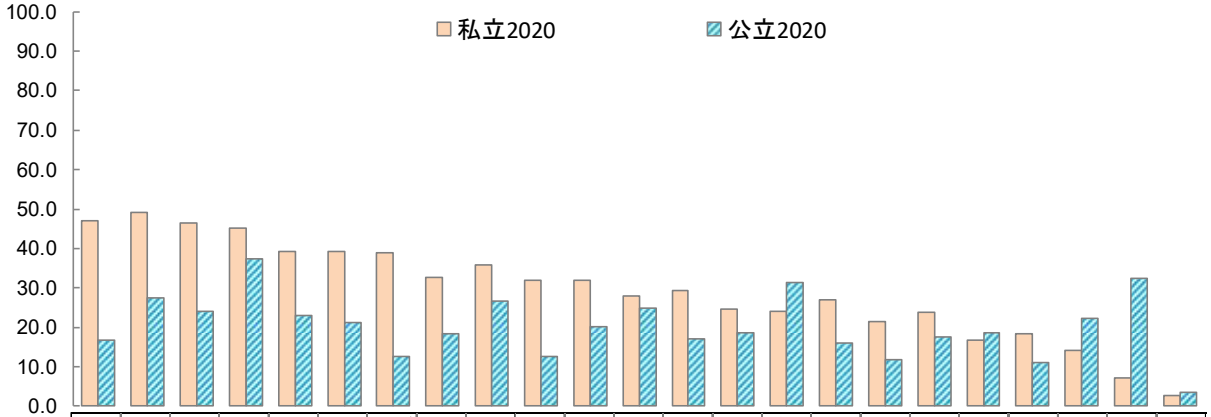
図表⑨　今後私立学校に期待することと公立学校に期待することの差

2025



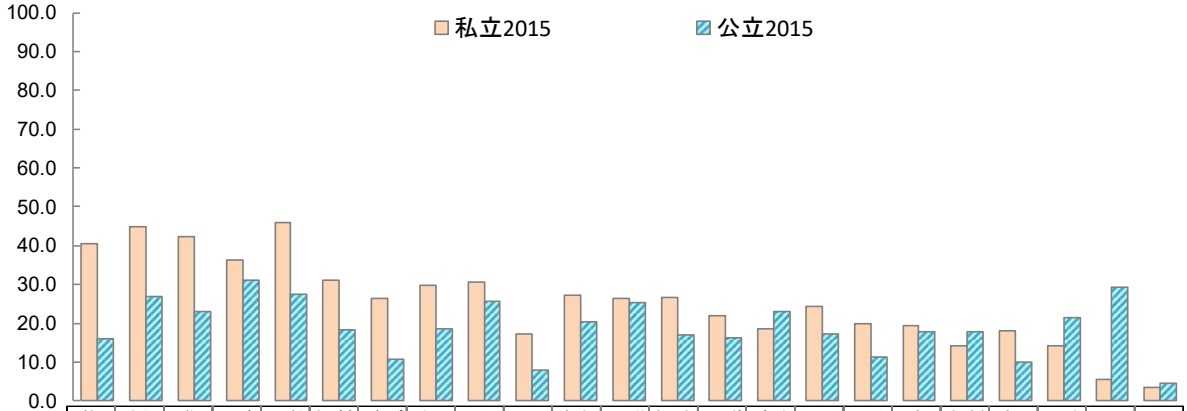
	n=	施設・設備が整っている	授業が充実している	進学指導が充実している	安心して子どもを通わせられる	教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる	補習・講習など、フォロー体制が整っている	グローバル教育（英語教育・留学等）のプログラムが充実している	優秀で信頼できる教員が多い	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している	ICT（情報通信技術）を活用した教育が充実している	保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている	学校行事や部活動が盛んである	生徒（児童）一人ひとりに合わせた教育をしている	道徳教育・人間教育が充実している	生徒（児童）が自由でのびのびとしている	礼儀正しい生徒（児童）が多い	職業意識（キャリア教育）を高める教育をしている	防災対策がしっかりしている	様々な価値観や背景を持った生徒（児童）と触れ合える	規律・校則が厳しい	生徒（児童）の自主性に任せている	地域に根差した教育をしている	その他
私立2025	3234	45.2	43.1	40.9	37.4	35.9	31.7	30.2	26.7	25.2	22.9	22.5	22.0	20.9	20.5	18.2	17.7	15.8	15.2	14.5	13.5	12.6	4.5	2.9
公立2025	3234	13.8	21.9	18.7	29.7	18.3	14.4	9.4	14.0	19.1	9.0	15.6	20.4	13.4	14.4	25.9	10.9	8.8	14.1	16.4	9.0	19.5	28.2	5.0
有意差が認められた項目		＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊		＊	＊	＊	＊	＊		＊	＊	＊	＊	＊

2020



	n=	施設・設備が整っている	授業が充実している	進学指導が充実している	安心して子どもを通わせられる	教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる	補習・講習など、フォロー体制が整っている	グローバル教育のプログラムが充実している	優秀で信頼できる教員が多い	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している	ICTを活用した教育が充実している	保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている	学校行事や部活動が盛んである	生徒（児童）一人ひとりに合わせた教育をしている	道徳教育・人間教育が充実している	生徒（児童）が自由でのびのびとしている	礼儀正しい生徒（児童）が多い	職業意識を高める教育をしている	防災対策がしっかりしている	様々な価値観や背景を持った生徒（児童）と触れ合える	規律・校則が厳しい	生徒（児童）の自主性に任せている	地域に根差した教育をしている	その他
私立2020	3072	47.1	49.1	46.6	45.1	39.1	39.1	38.9	32.7	35.7	31.9	31.9	27.9	29.2	24.7	24.0	26.9	21.4	23.9	16.7	18.4	14.2	7.2	2.8
公立2020	3072	16.9	27.4	24.0	37.4	23.1	21.2	12.5	18.3	26.7	12.7	20.1	24.8	17.1	18.7	31.3	16.1	11.8	17.6	18.5	11.0	22.3	32.3	3.5
有意差が認められた項目		＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊		＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊

2015



	n=	施設・設備が整っている	授業が充実している	進学指導が充実している	安心して子どもを通わせられる	教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる	補習・講習など、フォロー体制が整っている	グローバル教育のプログラムが充実している	優秀で信頼できる教員が多い	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応している	ICTを活用した教育が充実している	保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている	学校行事や部活動が盛んである	生徒（児童）一人ひとりに合わせた教育をしている	道徳教育・人間教育が充実している	生徒（児童）が自由でのびのびとしている	礼儀正しい生徒（児童）が多い	職業意識を高める教育をしている	防災対策がしっかりしている	様々な価値観や背景を持った生徒（児童）と触れ合える	規律・校則が厳しい	生徒（児童）の自主性に任せている	地域に根差した教育をしている	その他
私立2015	3000	40.6	44.9	42.3	36.2	45.9	31.1	26.5	29.9	30.6	17.3	27.2	26.3	26.8	21.9	18.6	24.4	19.8	19.4	14.2	18.1	14.2	5.7	3.5
公立2015	3000	16.0	26.9	23.0	31.1	27.5	18.3	10.8	18.7	25.6	7.8	20.4	25.3	17.0	16.2	23.1	17.3	11.4	17.7	17.9	10.0	21.6	29.3	4.6
有意差が認められた項目		＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊		＊	＊	＊	＊	＊		＊	＊	＊	＊	

５．学校選択で重視した点

学校選択で重視した点について私立在籍者と公立在籍者に聞いた（図表⑩-1、図表⑩-2、図表⑩-3）。

私立学校在籍者が現在の学校を選択した理由としては、「中高一貫校（または小中高一貫校）であり、内部進学（中学校から高校または小学校から中学校）が可能であること」の回答率が最も高く、「自宅からの通学時間が適当であること」、「子どもが行きたいと言っていること」と続いた。

2020年と比較すると、「中高一貫校（または小中高一貫校）であり、内部進学（中学校から高校または小学校から中学校）が可能であること」の回答率は下降したものの、順位としては上昇している。

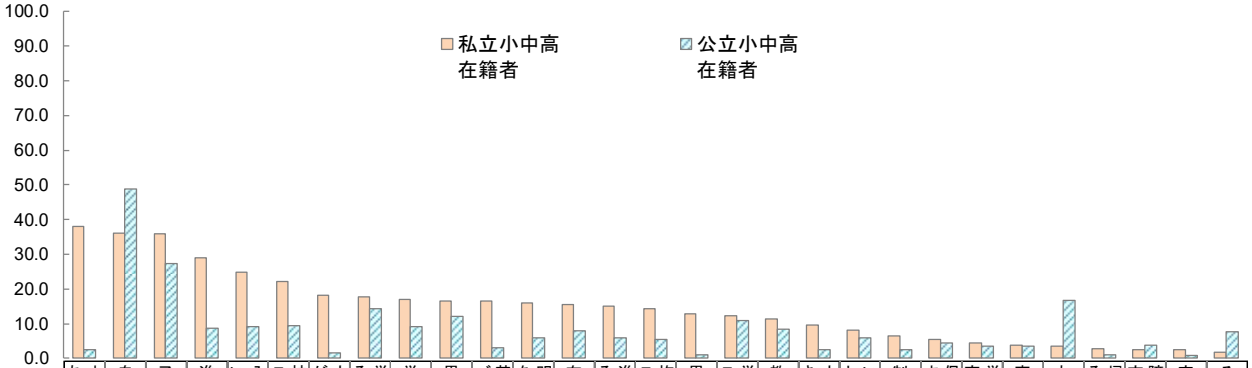
次に、私立学校在籍者の学校選択基準に関する回答について、小学校・中学校・高校で比較した。

私立小学校在籍者と私立中学校在籍者では「中高一貫校（または小中高一貫校）であり、内部進学（中学校から高校または小学校から中学校）が可能であること」が最も回答率が高かった。

私立高校在籍者では「自宅からの通学時間が適当であること」が最も回答率が高いが、次ぐ「子どもが行きたいと言っていること」も、ほぼ同程度の回答率となっている。

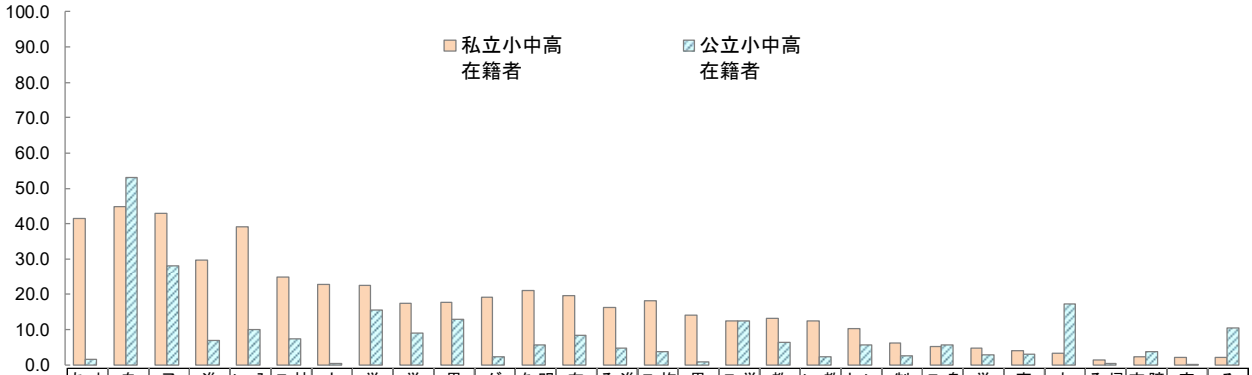
図表⑩-1　現在在籍している学校を選んだ際に、重視していた項目（私立・公立別）

2025



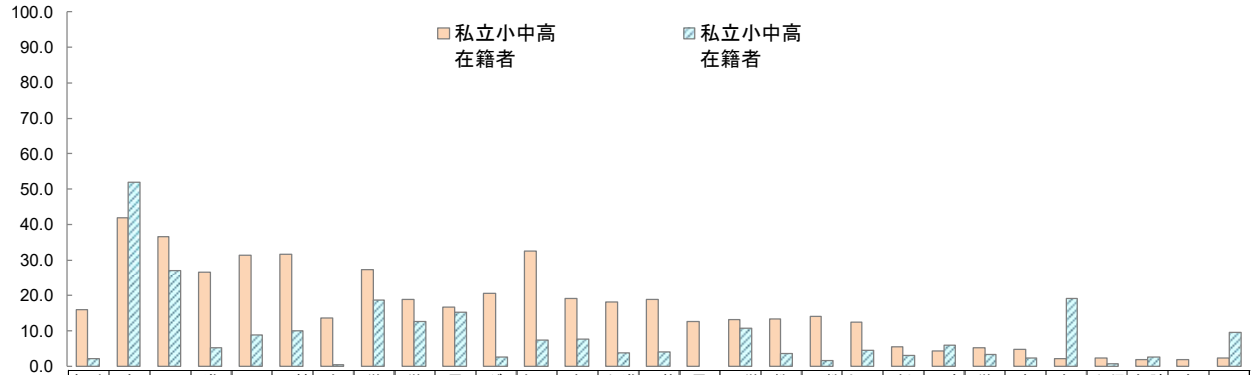
	n=	中高一貫校（または小中高一貫校）であり、内部進学が可能であること	自宅からの通学時間が適当であること	子どもが行きたいと言っていること	進学実績が良いこと	入試の内容や難易度が子どもに合っていること	校風・校則が家庭の方針に合っていること	大学附属校であり、大学まで内部進学が可能であること	学費（授業料、入学金など）が支払える範囲であること	学校行事・部活動が盛んであること	男女共学校であること	英語教育や海外留学の支援等、グローバル教育が充実していること	明確な教育目標に基づき、独自の教育をしていること	在学生の印象が良いこと	進路指導・就職支援などが充実していること	施設・設備や防災対策が充実していること	男子校・女子校であること	学校周辺の雰囲気が学習に適していること	教員が信頼できること	大学入試改革など教育に係る新しい動きに迅速に対応していること	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応していること	制服が魅力的であること	保護者や親類など、身近な人が在学中または卒業生であること	学費負担軽減制度（給付・貸付）が充実していること	専門分野に特化した学科があること	友人など、身近な人が進学すること	帰国子女に対する支援体制が整っていること	障がいやハンデを持つ子どもに対する支援体制が整っていること	宗教教育に力を入れていること	その他
私立小中高在籍者	823	38.0	36.1	35.8	29.0	24.8	22.1	18.2	17.7	17.0	16.5	16.4	16.0	15.6	15.1	14.3	12.9	12.4	11.4	9.7	8.3	6.4	5.5	4.6	3.9	3.5	2.8	2.7	2.6	1.8
公立小中高在籍者	1518	2.4	48.9	27.3	8.6	9.3	9.5	1.5	14.3	9.3	12.1	3.1	5.9	8.0	6.1	5.5	1.1	10.9	8.4	2.5	6.0	2.6	4.5	3.5	3.4	16.9	1.1	3.9	0.9	7.6
有意差が認められた項目		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*		*	*	*	*				*	*		*	*

2020



	n=	中高一貫校であり、内部進学が可能であること	自宅からの通学時間が適当であること	子どもが行きたいと言っていること	進学実績が良いこと	入試の内容や難易度が子どもに合っていること	校風・校則が家庭の方針に合っていること	大学附属校であること	学費が支払える範囲であること	学校行事・部活動が盛んであること	男女共学校であること	グローバル教育が充実していること	明確な教育目標に基づき、独自の教育をしていること	在学生の印象が良いこと	進路指導・就職支援などが充実していること	施設・設備や防災対策が充実していること	男子校・女子校であること	学校周辺の雰囲気が学習に適していること	教員が信頼できること	教育界の新しい動きに迅速に対応していること	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応していること	制服が魅力的であること	身近な人が在学中または卒業生であること	学費負担軽減制度が充実していること	専門分野に特化した学科があること	友人など、身近な人が進学すること	帰国子女に対する支援体制が整っていること	障がいやハンデを持つ子どもに対する支援体制が整っていること	宗教教育に力を入れていること	その他
私立小中高在籍者	760	41.4	44.9	42.9	29.7	39.1	24.9	22.6	22.5	17.5	17.6	19.1	21.1	19.6	16.3	18.2	14.1	12.4	13.2	12.5	10.3	6.1	5.3	4.7	4.1	3.3	1.3	2.4	2.1	2.0
公立小中高在籍者	1435	1.6	52.9	28.1	6.8	10.1	7.2	0.4	15.6	9.1	13.0	2.4	5.6	8.3	4.7	3.7	0.9	12.3	6.5	2.3	5.6	2.4	5.6	2.7	3.1	17.2	0.3	3.8	0.2	10.5
有意差が認められた項目		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*		*	*	*	*		*	*	*	*		*	*

2015



	n=	中高一貫校であり、内部進学が可能であること	自宅からの通学時間が適当であること	子どもが行きたいと言っていること	進学実績が良いこと	入試の内容や難易度が子どもに合っていること	校風・校則が家庭の方針に合っていること	大学附属校であること	学費が支払える範囲であること	学校行事・部活動が盛んであること	男女共学校であること	グローバル教育が充実していること	明確な教育目標に基づき、独自の教育をしていること	在学生の印象が良いこと	進路指導・就職支援などが充実していること	施設・設備や防災対策が充実していること	男子校・女子校であること	学校周辺の雰囲気が学習に適していること	教員が信頼できること	教育界の新しい動きに迅速に対応していること	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応していること	制服が魅力的であること	身近な人が在学中または卒業生であること	学費負担軽減制度が充実していること	専門分野に特化した学科があること	友人など、身近な人が進学すること	帰国子女に対する支援体制が整っていること	障がいやハンデを持つ子どもに対する支援体制が整っていること	宗教教育に力を入れていること	その他
私立小中高在籍者	684	15.9	41.8	36.5	26.5	31.3	31.6	13.5	27.3	18.9	16.7	20.5	32.6	19.0	18.1	18.9	12.6	13.0	13.3	14.0	12.4	5.4	4.2	5.1	4.7	2.0	2.3	1.8	1.8	2.3
私立小中高在籍者	1541	2.2	51.9	27.1	5.3	8.8	10.0	0.3	18.6	12.7	15.2	2.5	7.4	7.5	3.8	4.0	0.0	10.8	3.5	1.6	4.4	3.1	6.0	3.3	2.3	19.0	0.7	2.5	0.0	9.6
有意差が認められた項目		*	*	*	*	*	*	*	*	*		*	*	*	*	*	*		*	*	*	*		*	*	*	*		*	*

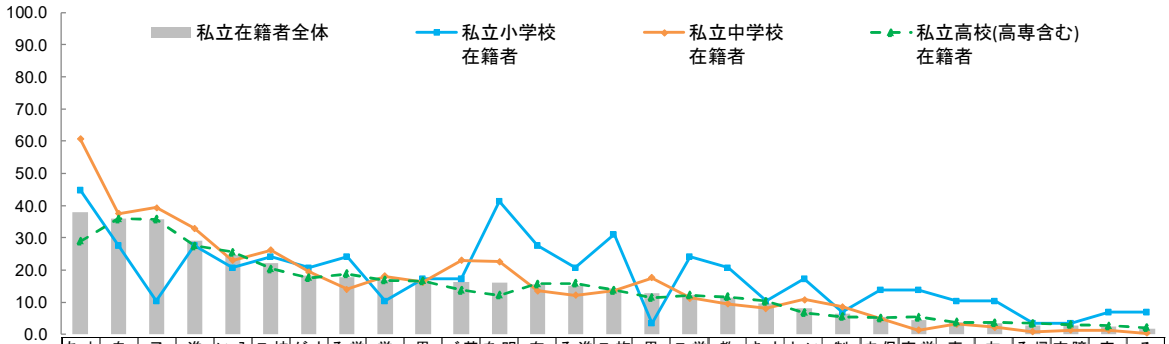
図表⑩-2　現在在籍している学校を選んだ際に、重視していた項目(順位表)

学校選びで重視した項目	2025 私立在籍者順位	2025 公立在籍者順位
中高一貫校（または小中高一貫校）であり、内部進学が可能であること	1	25
自宅からの通学時間が適当であること	2	1
子どもが行きたいと言っていること	3	2
進学実績が良いこと	4	10
入試の内容や難易度が子どもに合っていること	5	8
校風・校則が家庭の方針に合っていること	6	7
大学附属校であり、大学まで内部進学が可能であること	7	26
学費（授業料、入学金など）が支払える範囲であること	8	4
学校行事・部活動が盛んであること	9	8
男女共学校であること	10	5
英語教育や海外留学の支援等、グローバル教育が充実していること	11	22
明確な教育目標に基づき、独自の教育をしていること	12	16
在学生の印象が良いこと	13	12
進路指導・就職支援などが充実していること	14	14
施設・設備や防災対策が充実していること	15	17
男子校・女子校であること	16	27
学校周辺の雰囲気が学習に適していること	17	6
教員が信頼できること	18	11
大学入試改革など教育に係る新しい動きに迅速に対応していること	19	24
いじめやトラブルに対して、しっかりと対応していること	20	15
制服が魅力的であること	21	23
保護者や親類など、身近な人が在学中または卒業生であること	22	18
学費負担軽減制度（給付・貸付）が充実していること	23	20
専門分野に特化した学科があること	24	21
友人など、身近な人が進学すること	25	3
帰国子女に対する支援体制が整っていること	26	27
障がいやハンデを持つ子どもに対する支援体制が整っていること	27	19
宗教教育に力を入れていること	28	29
その他	29	13

学校選びで重視した項目	2020 私立在籍者 順位	2015 私立在籍者 順位	2020 公立在籍者 順位	2015 公立在籍者 順位
中高一貫校（または小中高一貫校）であり、内部進学が可能であること	4	14	25	24
自宅からの通学時間が適当であること	1	1	1	1
子どもが行きたいと言っていること	2	2	2	2
進学実績が良いこと	5	7	12	14
入試の内容や難易度が子どもに合っていること	3	5	6	10
校風・校則が家庭の方針に合っていること	6	4	10	8
大学附属校であり、大学まで内部進学が可能であること	8	16	27	27
学費（授業料、入学金など）が支払える範囲であること	7	6	3	4
学校行事・部活動が盛んであること	10	10	8	6
男女共学校であること	12	13	5	5
英語教育や海外留学の支援等、グローバル教育が充実していること	15	8	24	21
明確な教育目標に基づき、独自の教育をしていること	9	3	14	12
在学生の印象が良いこと	11	9	10	11
進路指導・就職支援などが充実していること	14	12	15	17
施設・設備や防災対策が充実していること	13	10	19	16
男子校・女子校であること	16	19	26	28
学校周辺の雰囲気が学習に適していること	19	18	7	7
教員が信頼できること	17	17	13	18
大学入試改革など教育に係る新しい動きに迅速に対応していること	18	15	22	25
いじめやトラブルに対して、しっかりと対応していること	20	20	16	15
制服が魅力的であること	21	21	23	20
保護者や親類など、身近な人が在学中または卒業生であること	24	24	17	13
学費負担軽減制度（給付・貸付）が充実していること	23	22	21	19
専門分野に特化した学科があること	22	23	18	23
友人など、身近な人が進学すること	25	27	4	3
帰国子女に対する支援体制が整っていること	29	25	28	26
障がいやハンデを持つ子どもに対する支援体制が整っていること	26	28	20	21
宗教教育に力を入れていること	28	28	29	28
その他	27	25	9	9

図表⑩-3　現在在籍している学校を選んだ際に、重視していた項目(私立小学校・中学校・高校別)

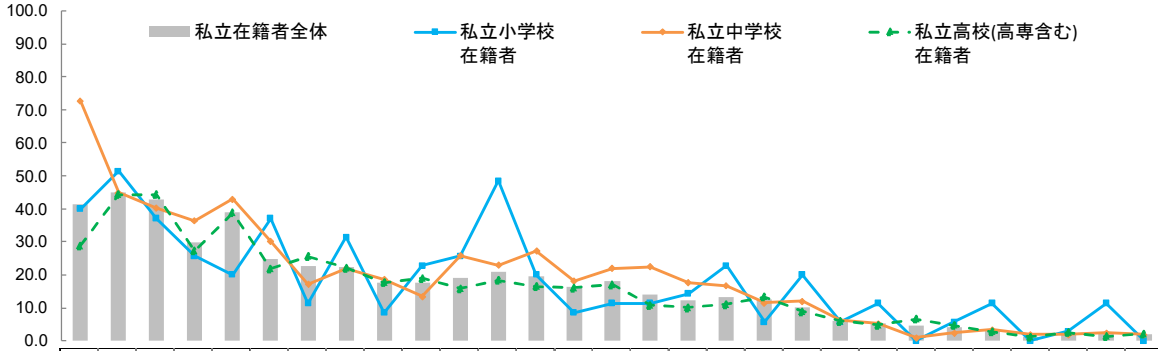
2025



	n=	中高一貫校（または小中高一貫校）であり、内部進学が可能であること	自宅からの通学時間が適当であること	子どもが行きたいと言っていること	進学実績が良いこと	入試の内容や難易度が子どもに合っていること	校風・校則が家庭の方針に合っていること	大学附属校であり、大学まで内部進学が可能であること	学費（授業料、入学金など）が支払える範囲であること	学校行事・部活動が盛んであること	男女共学であること	英語教育や海外留学の支援等、グローバル教育が充実していること	明確な教育目標に基づき、独自の教育をしていること	在学生の印象が良いこと	進路指導・就職支援などが充実していること	施設・設備や防災対策が充実していること	男子校・女子校であること	学校周辺の雰囲気が学習に適していること	教員が信頼できること	いじめやトラブルに対して、しっかり対応していること	大学入試改革など教育に係る新しい動きに迅速に対応していること	制服が魅力的であること	保護者や親類など、身近な人が在学中または卒業生であること	学費負担軽減制度（給付・貸付）が充実していること	専門分野に特化した学科があること	友人など、身近な人が進学すること	帰国子女に対する支援体制が整っていること	障がいやハンデを持つ子どもに対する支援体制が整っていること	宗教教育に力を入れていること	その他
私立在籍者全体	823	38.0	36.1	35.8	29.0	24.8	22.1	18.2	17.7	17.0	16.5	16.4	16.0	15.6	15.1	14.3	12.9	12.4	11.4	9.7	8.3	6.4	5.5	4.6	3.9	3.5	2.8	2.7	2.6	1.8
私立小学校在籍者	29	44.8	27.6	10.3	27.6	20.7	24.1	20.7	24.1	10.3	17.2	17.2	41.4	27.6	20.7	31.0	3.4	24.1	20.7	10.3	17.2	6.9	13.8	13.8	10.3	10.3	3.4	3.4	6.9	6.9
私立中学校在籍者	221	60.6	37.6	39.4	33.0	23.1	26.2	19.5	14.0	18.1	16.3	23.1	22.6	13.6	12.2	13.6	17.6	11.3	9.5	8.1	10.9	8.6	5.0	1.4	3.2	2.3	0.9	1.4	1.4	0.5
私立高校(高専含む)在籍者	573	29.0	36.0	35.8	27.6	25.7	20.4	17.6	18.8	16.9	16.6	13.8	12.2	15.7	15.9	13.8	11.5	12.2	11.7	10.3	6.8	5.6	5.2	5.4	3.8	3.7	3.5	3.1	2.8	2.1

網掛けは全体と有意な差があった項目

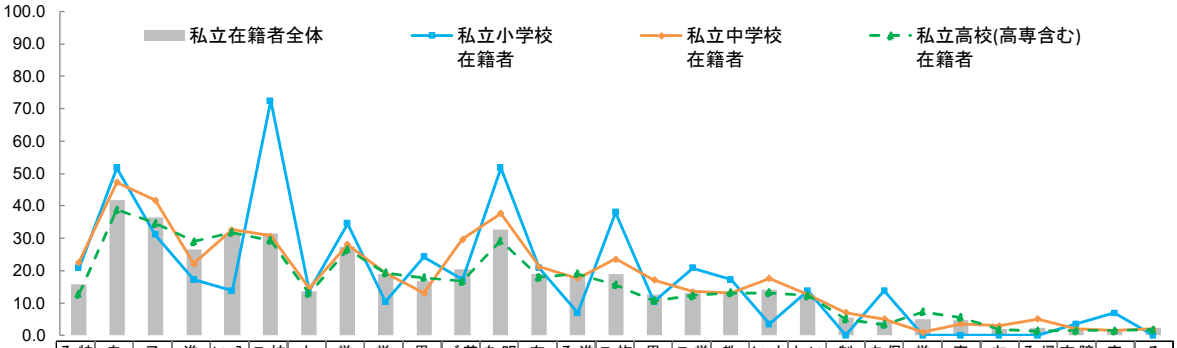
2020



	n=	中高一貫校であり、内部進学が可能であること	自宅からの通学時間が適当であること	子どもが行きたいと言っていること	進学実績が良いこと	入試の内容や難易度が子どもに合っていること	校風・校則が家庭の方針に合っていること	大学附属校であり、大学まで内部進学が可能であること	学費が支払える範囲であること	学校行事・部活動が盛んであること	男女共学であること	英語教育や海外留学の支援等、グローバル教育が充実していること	明確な教育目標に基づき、独自の教育をしていること	在学生の印象が良いこと	進路指導・就職支援などが充実していること	施設・設備や防災対策が充実していること	男子校・女子校であること	学校周辺の雰囲気が学習に適していること	教員が信頼できること	いじめやトラブルに対して、しっかり対応していること	大学入試改革など教育に係る新しい動きに迅速に対応していること	制服が魅力的であること	保護者や親類など、身近な人が在学中または卒業生であること	学費負担軽減制度が充実していること	専門分野に特化した学科があること	友人など、身近な人が進学すること	帰国子女に対する支援体制が整っていること	障がいやハンデを持つ子どもに対する支援体制が整っていること	宗教教育に力を入れていること	その他
私立在籍者全体	760	41.4	44.9	42.9	29.7	39.1	24.9	22.6	22.5	17.5	17.6	19.1	21.1	19.6	16.3	18.2	14.1	12.4	13.2	12.5	10.3	6.1	5.3	4.7	4.1	3.3	1.3	2.4	2.1	2.0
私立小学校在籍者	35	40.0	51.4	37.1	25.7	20.0	37.1	11.4	31.4	8.6	22.9	25.7	48.6	20.0	8.6	11.4	11.4	14.3	22.9	5.7	20.0	5.7	11.4	0.0	5.7	11.4	0.0	2.9	11.4	0.0
私立中学校在籍者	209	72.7	45.0	40.2	36.4	43.1	30.1	17.2	22.0	18.7	13.4	25.8	23.0	27.3	18.2	22.0	22.5	17.7	16.7	11.5	12.0	6.2	5.3	1.0	2.4	3.3	1.9	1.9	2.4	1.9
私立高校(高専含む)在籍者	516	28.9	44.4	44.4	27.3	38.8	21.9	25.6	22.1	17.6	19.0	15.9	18.4	16.5	16.1	17.1	10.9	10.1	11.0	13.4	8.9	6.0	4.8	6.6	4.7	2.7	1.2	2.5	1.4	2.1

網掛けは全体と有意な差があった項目

2015



	n=	特別な試験をせずに、内部進学ができること	自宅からの通学時間が適当であること	子どもが行きたいと言っていること	進学実績が良いこと	入試の内容や難易度が子どもに合っていること	校風・校則が家庭の方針に合っていること	大学付属校であること	学費が支払える範囲であること	学校行事・部活動が盛んであること	男女共学校であること	英語教育や海外留学の支援等、グローバル教育が充実していること	明確な教育目標に基づき、独自の教育をしていること	在校生の印象が良いこと	進路指導・就職支援などが充実していること	施設・設備や防災対策が充実していること	男子校・女子校であること	学校周辺の雰囲気が学習に適していること	教員が信頼できること	大学入試改革など教育界の新しい動きに迅速に対応していること	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応していること	制服が魅力的であること	保護者や親類など、身近な人が在学中または卒業生であること	学費負担軽減制度が充実していること	専門分野に特化した学科があること	友人など、身近な人が進学すること	帰国子女に対する支援体制が整っていること	障がいやハンデを持つ子どもに対する支援体制が整っていること	宗教教育に力を入れていること	その他
私立在籍者全体	684	15.9	41.8	36.5	26.5	31.3	31.6	13.5	27.3	18.9	16.7	20.5	32.6	19.0	18.1	18.9	12.6	13.0	13.3	14.0	12.4	5.4	4.2	5.1	4.7	2.0	2.3	1.8	1.8	2.3
私立小学校在籍者	29	20.7	51.7	31.0	17.2	13.8	72.4	13.8	34.5	10.3	24.1	17.2	51.7	20.7	6.9	37.9	10.3	20.7	17.2	3.4	13.8	0.0	13.8	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	6.9	0.0
私立中学校在籍者	199	22.6	47.2	41.7	22.1	32.7	30.7	14.6	28.1	19.1	13.1	29.6	37.7	21.1	17.6	23.6	17.1	13.6	13.1	17.6	12.6	7.0	5.0	1.0	3.5	3.0	5.0	2.0	1.5	2.0
私立高校(高専含む)在籍者	456	12.7	38.8	34.6	28.9	31.8	29.4	12.9	26.5	19.3	17.8	16.7	29.2	18.0	19.1	15.6	10.7	12.3	13.2	13.2	12.3	5.0	3.3	7.2	5.5	1.8	1.3	1.5	1.5	1.8

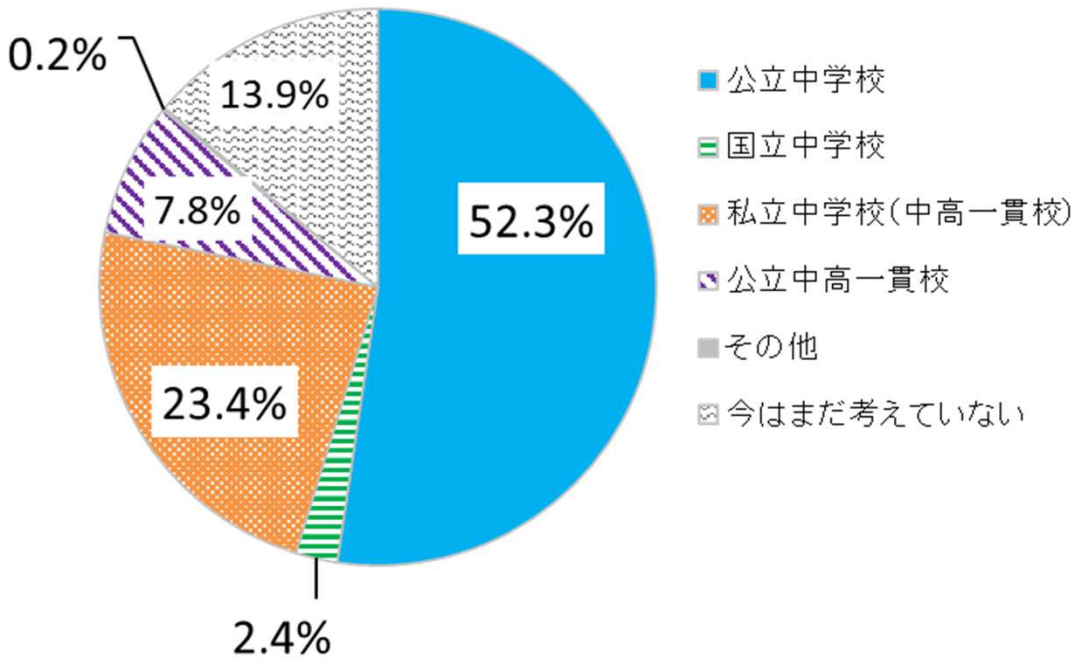
網掛けは全体と有意な差があった項目

６．公立在籍者の進学希望

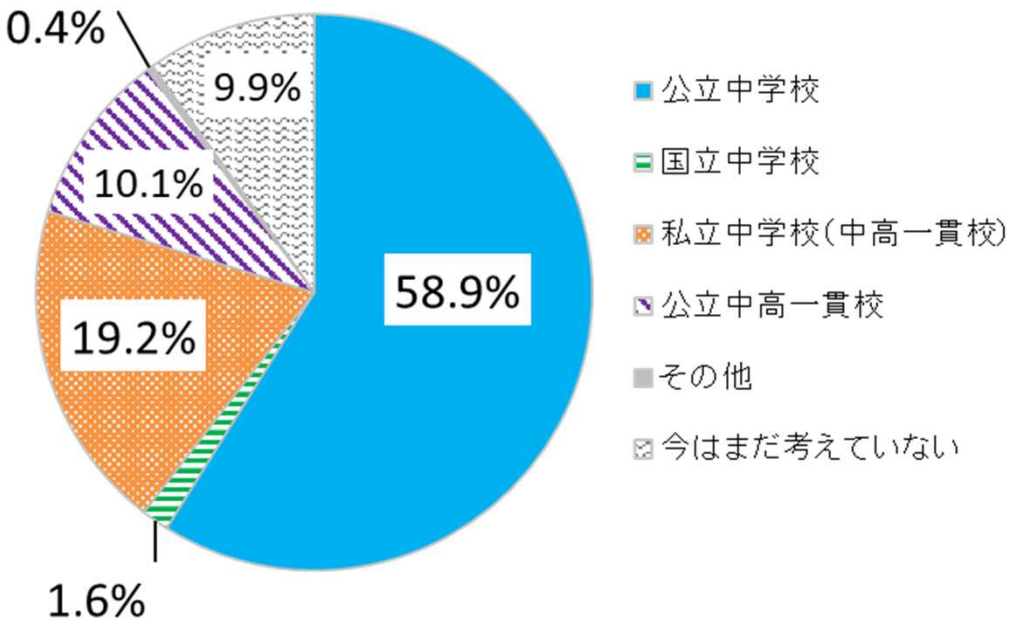
公立小学校在籍者に対し、どの中学校に通わせたいかを聞いた(図表⑪)。
最も多い希望進路は公立中学校で52.3%であった。私立中学校は23.4%で、2020年と比較すると4.2ポイント上昇している。
次に、公立中学校在籍者に対し、どの高校に通わせたいかを聞いた(図表⑫)。
最も多い希望進路は公立高校で58.6%であったが、2020年の69.5%、2015年の74.4%と比較すると回答率は下降している。一方で、私立高校は22.7%で、2020年の15.6%、2015年の8.4%から上昇した。
また、公立学校(中学校・高校)への進学を希望する保護者に対し、どのようなことが実現されれば私立への進学を検討するかを聞いた(図表⑬)。
全体で最も回答率が高かったのは「通学がしやすいこと」で60.0%であった。2020年に最も回答率が高かった「授業料などの学費が安いこと」は58.4%と、2020年と比較し19.1ポイント下降している。「どのようなことがあっても私立への進学は検討しない」と回答した割合は全体で5.8%で、「その他」を除いて最も低く、2020年、2015年と同様の結果であった。

図表⑪　公立小学校在籍者の子どもの進学希望(中学校)

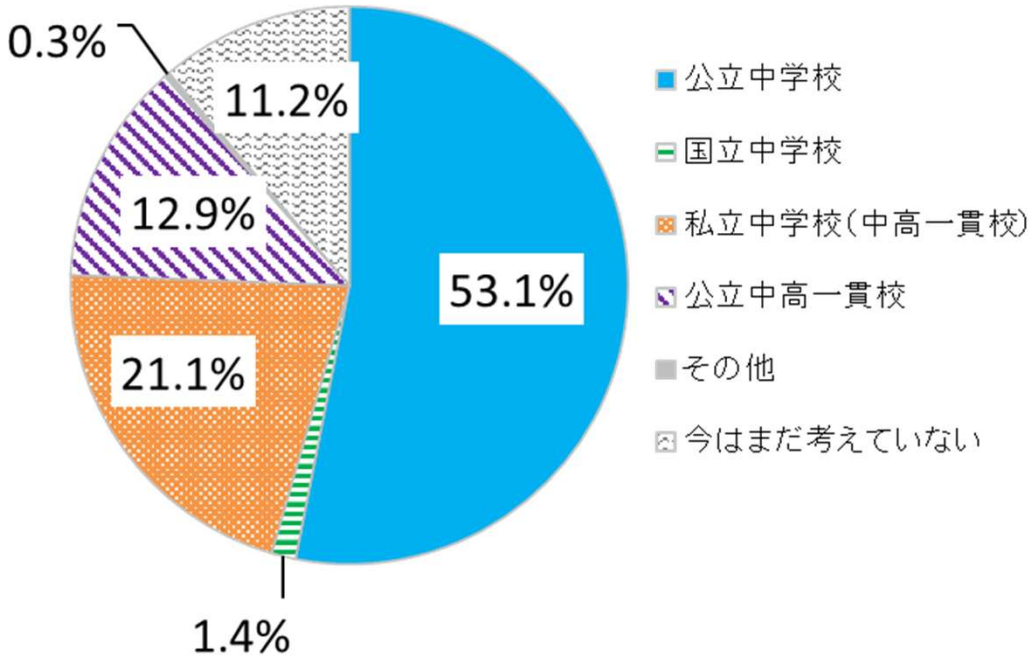
2025



2020

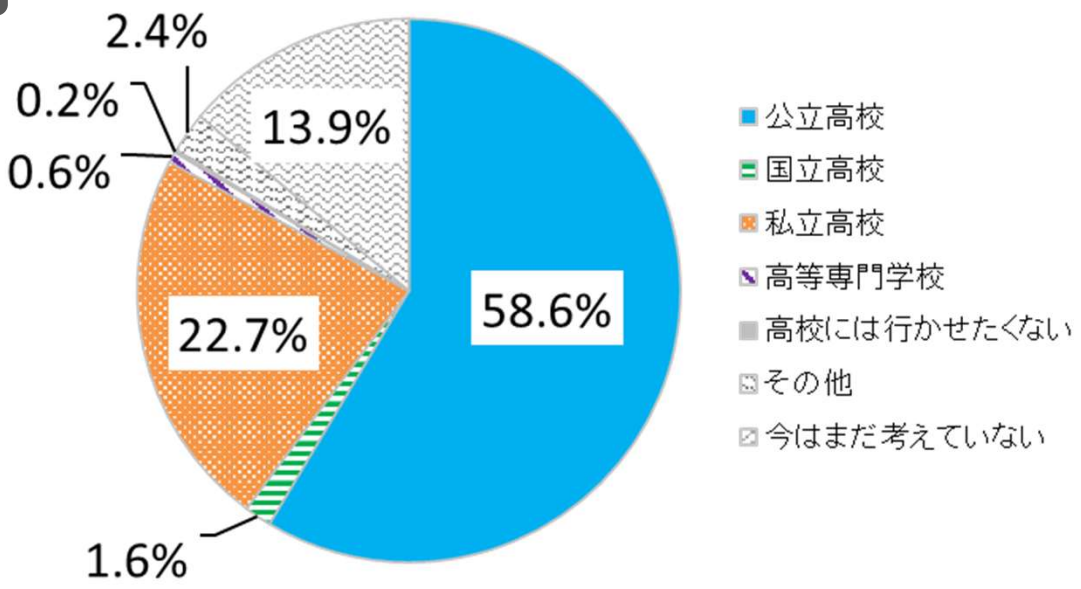

0.4%
9.9%
10.1%
58.9%
19.2%
1.6%
公立中学校
国立中学校
私立中学校（中高一貫校）
公立中高一貫校
その他
今はまだ考えていない

2015

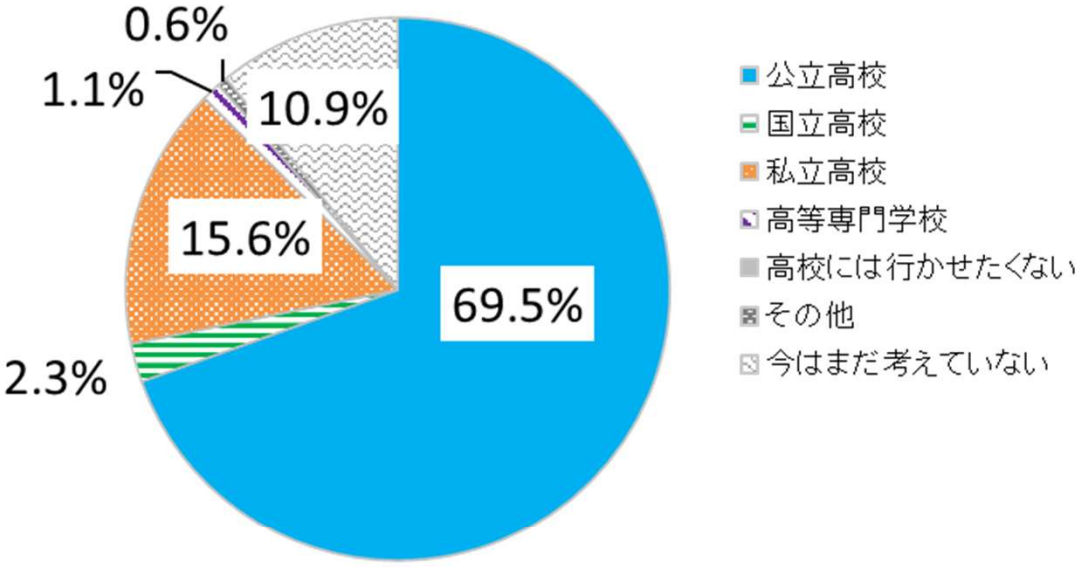

0.3%
11.2%
12.9%
53.1%
21.1%
1.4%
公立中学校
国立中学校
私立中学校（中高一貫校）
公立中高一貫校
その他
今はまだ考えていない

図表⑫　公立中学校在籍者の子どもの進学希望(高校)

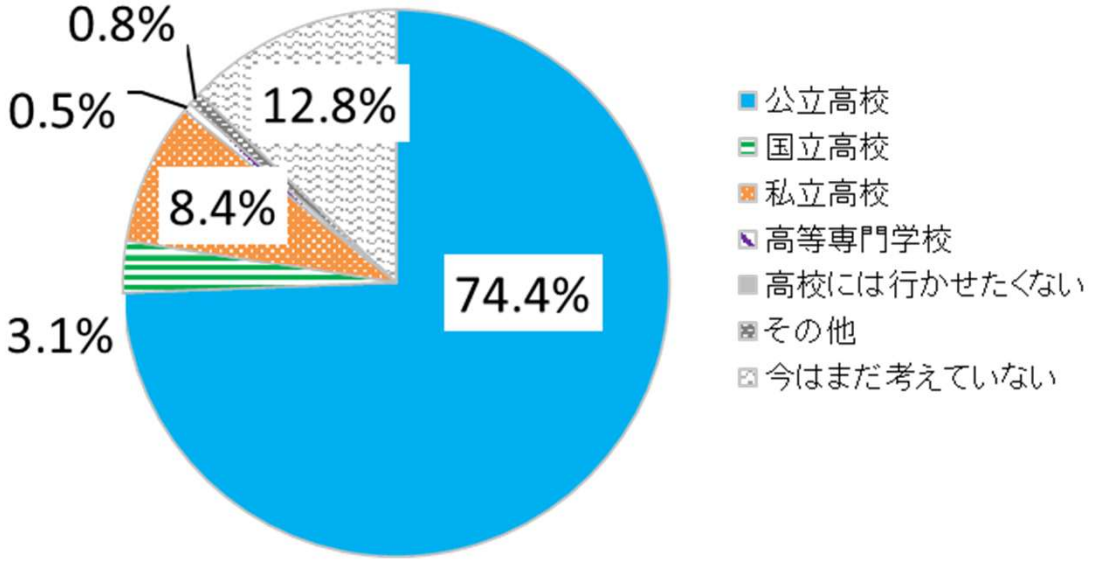
2025



2020

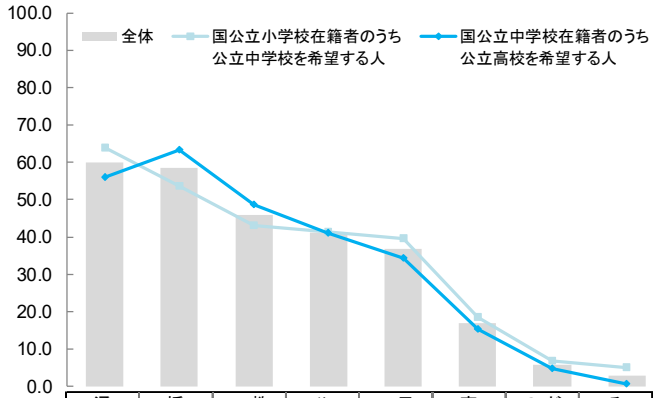


2015



図表⑬　どのようなことが実現されれば私立への進学を検討するか

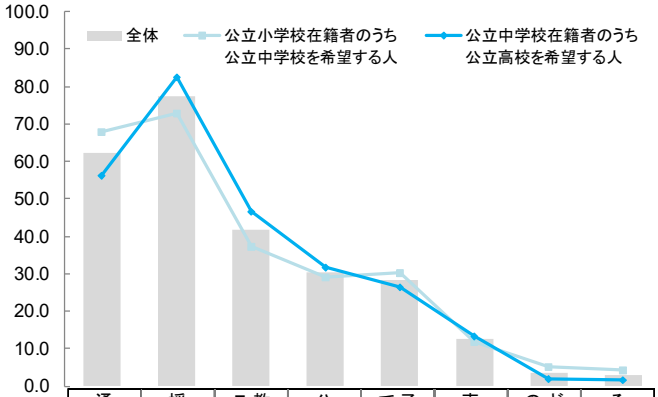
2025



	n=	通学がしやすいこと	授業料などの学費が安いこと	教育費負担を軽減する制度があること	公立学校を超える魅力があること	子どもの能力を引き出す教育をしていること	専門的な学科があること	どのようなことがあっても私立への進学は検討しない	その他
全体	712	60.0	58.4	45.9	41.2	36.9	16.9	5.8	2.9
国公立小学校在籍者のうち公立中学校を希望する人	353	64.0	53.5	43.1	41.4	39.7	18.4	6.8	5.1
国公立中学校在籍者のうち公立高校を希望する人	359	56.0	63.2	48.7	40.9	34.3	15.3	4.7	0.8

網掛けは全体と有意な差があった項目

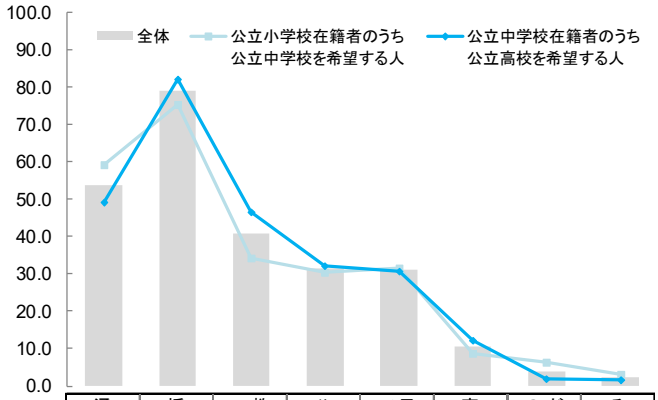
2020



	n=	通学がしやすいこと	授業料などの学費が安いこと	教育費負担を軽減する制度があること	公立学校を超える魅力があること	子どもの能力を引き出す教育をしていること	専門的な学科があること	どのようなことがあっても私立への進学は検討しない	その他
全体	770	62.2	77.5	41.8	30.4	28.4	12.6	3.6	3.0
公立小学校在籍者のうち公立中学校を希望する人	393	67.9	72.8	37.2	29.0	30.3	12.0	5.3	4.3
公立中学校在籍者のうち公立高校を希望する人	377	56.2	82.5	46.7	31.8	26.5	13.3	1.9	1.6

網掛けは全体と有意な差があった項目

2015



	n=	通学がしやすいこと	授業料などの学費が安いこと	教育費負担を軽減する制度があること	公立学校を超える魅力があること	子どもの能力を引き出す教育をしていること	専門的な学科があること	どのようなことがあっても私立への進学は検討しない	その他
全体	832	53.7	79.1	40.9	31.4	31.1	10.6	4.0	2.3
公立小学校在籍者のうち公立中学校を希望する人	378	59.3	75.4	34.1	30.4	31.5	8.7	6.3	3.2
公立中学校在籍者のうち公立高校を希望する人	454	49.1	82.2	46.5	32.2	30.8	12.1	2.0	1.5

網掛けは全体と有意な差があった項目

第2章　私立へのイメージと評価　まとめ

【私立学校】

(イメージ)

- 私立学校については、「施設・設備が整っている」、「進学指導が充実している」、「授業が充実している」、「教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる」などの項目で公立学校に比べて高い回答率が示された。この結果から、施設設備が整った環境で、日常の授業・学校生活から卒業後の進路まで、充実した教育とサポートを受けることができるというイメージを持たれていることがわかった。

(在籍している学校の評価)

- 私立学校在籍者の回答率が、公立学校在籍者の回答率を上回る項目のうち、特に「教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる」、「保護者に対する情報発信・連絡が行き届いている」、「安心して子どもを通わせられる」の項目で10ポイント以上の差があった。私立学校は、授業以外の教育活動やフォロー体制についても高く評価されている。

- 2025年と2020年で比較すると、私立学校に対する「授業料等の学費以外にもお金がかかる」というイメージは、公立学校在籍者と私立学校在籍者のいずれにおいても下降した。

- 私立中学校については、「グローバル教育」、「ＩＣＴ活用」の評価が公立学校より高く、先進プログラムへの評価が高いことがわかった。私立高校においては、「学習フォロー」に対する評価が高かった。

(イメージと評価の差)

- 私立学校在籍者は多くの項目で、一般に持たれている私立学校のイメージよりも高い評価をしていた。これは2020年も同様の結果であった。公立学校在籍者は、私立学校在籍者とは異なり、ほとんどの項目で一般に持たれている公立学校のイメージに近い評価となっていた。これらの結果から、私立学校は一般に持たれているイメージ以上に、実際の取組みに対する在籍者の評価が幅広い項目において公立学校よりも高いということが言える。

(今後学校に期待すること)

　多くの項目で私立に対する回答率の方が高くなっており、私立の方が様々な点について高い期待を寄せられていることがわかった。その中でも、「施設・設備が整っている」、「授業が充実している」、「進学指導が充実している」、「安心して子どもを通わせられる」の回答率は特に高く、私立学校は進路指導を含めた日々の学習指導と、学習環境および安心して子どもが通える学校であることを期待されていることがわかった。

(学校選択で重視した点)

- 私立学校在籍者が現在の学校を選択した理由としては、「中高一貫校(または小中高一貫校)であり、内部進学(中学校から高校または小学校から中学校)が可能であること」の回答率が最も高く、「自宅からの通学時間が適当であること」、「子どもが行きたいと言っていること」、「進学実績が良いこと」と続いた。

- 私立中学校在籍者では「中高一貫校(または小中高一貫校)であり、内部進学(中学校から高校または小学校から中学校)が可能であること」の回答率が60.6%で最も高い。

- 私立高校在籍者では「自宅からの通学時間が適当であること」が最も回答率が高いが、「子どもが行きたいと言っていること」もほぼ同程度の回答率となっている。次いで、「進学実績が良いこと」と続いている。

第2章　私立へのイメージと評価　まとめ

【公立学校】

(イメージ)

- 公立のイメージの回答率が高かったのは、「地域に根差した教育をしている」が最上位であり、次いで「生徒(児童)が自由でのびのびとしている」と続いた。この結果は2020年、2015年と同様の結果である。 その反面、「グローバル教育のプログラムが充実している」、「ＩＣＴを活用した教育が充実している」、「補習・講習など、フォロー体制が整っている」の回答率は低く、学習環境やプログラムの充実イメージは、私立のイメージと大きく乖離している点であった。

(在籍している学校の評価)

- 公立在籍者による公立学校の評価も、上記のイメージと近い結果となった。「地域に根差した教育をしている」、「生徒(児童)が自由でのびのびとしている」の回答率が高く、「グローバル教育のプログラムが充実している」、「ＩＣＴを活用した教育が充実している」、「職業意識(キャリア教育)を高める教育をしている」等の回答率は低かった。いずれも私立との回答率には有意な差があり、公立と私立で評価されるポイントが明確に違うと考えられる。

(学校選択で重視した点)

- 公立在籍者が、学校を選んだ際に重視していたことは、「自宅からの通学時間が適当であること」が最も高い回答率であり、次いで「子どもが行きたいと言っていること」、「友人など、身近な人が進学すること」の回答率が高い結果となった。つまり重視されいるのは、学校への魅力というよりも通いやすさや友人関係などの側面が大きい。この結果は、2020年でも同様のことが言える。

本章では、各家庭の教育費に焦点を当て、月々の許容教育費や教育費を確保するためにしていること、教育費負担軽減制度の認知度について私立・公立在籍者別、世帯年収別に分析した。また、子どもの教育に対する保護者の考え方の傾向を調べた。

1.　世帯年収と月々の許容教育費

まず、世帯年収について回答者全員に聞いた(図表⑭)。

各項目の金額の中央値をそれぞれの割合と掛け合わせると、調査対象者全体の世帯年収の平均は1003万円となった。私立在籍者の平均は1124万円、公立在籍者の平均は940万円で、184万円の差があった。

次に、子ども一人あたりにかけられる月々の教育費について回答者全員に聞いた(図表⑮)。

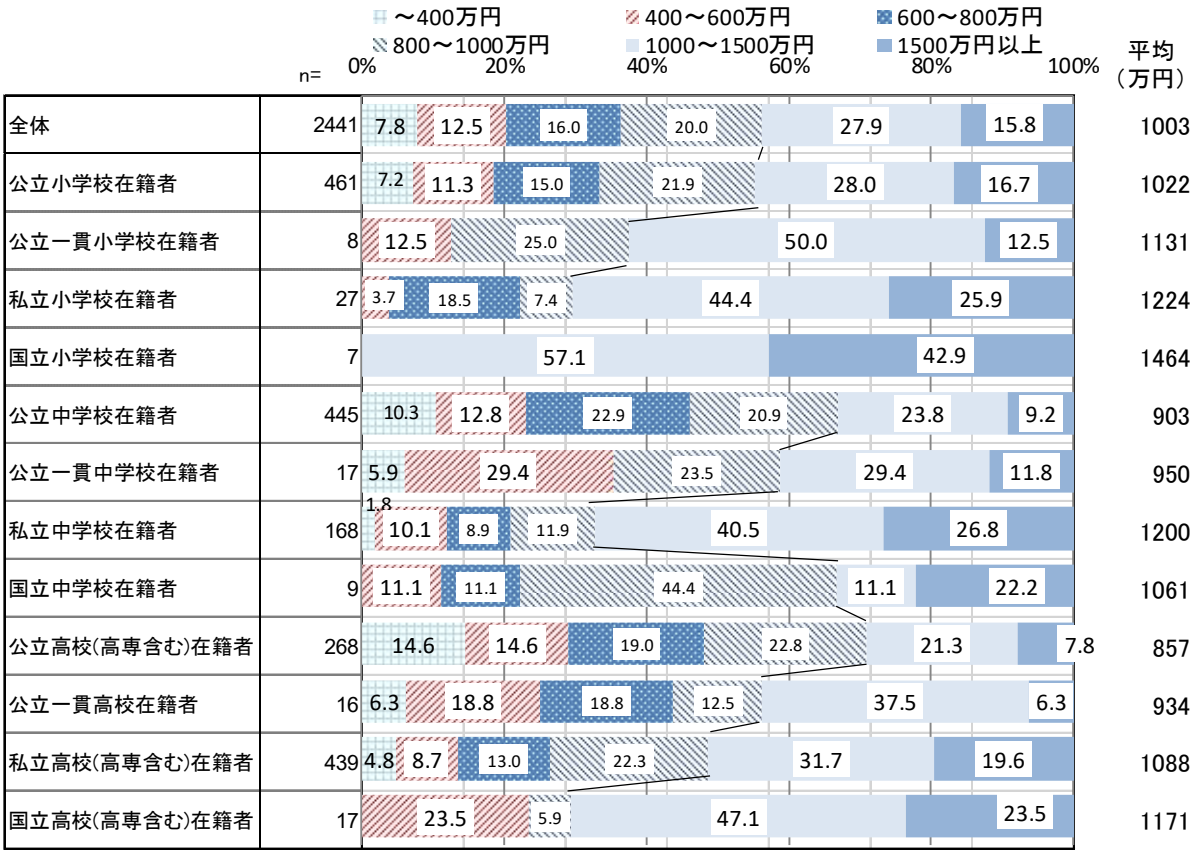
2025年の月々の許容教育費は、私立在籍者平均45,591円、公立在籍者平均35,863円であり、私立在籍者平均が公立在籍者平均を9,728円上回った。2020年は私立在籍者平均51,178円、公立在籍者平均29,512円で、21,666円上回っていた。2025年との差をみると、私立で5,587円低下している一方、公立では6,351円上昇している。私立在籍者平均と公立在籍者平均の差額は、21,666円から9,728円と11,938円縮小した。

図表⑭　世帯年収(税込)

2025

私立在籍者平均　1124万円

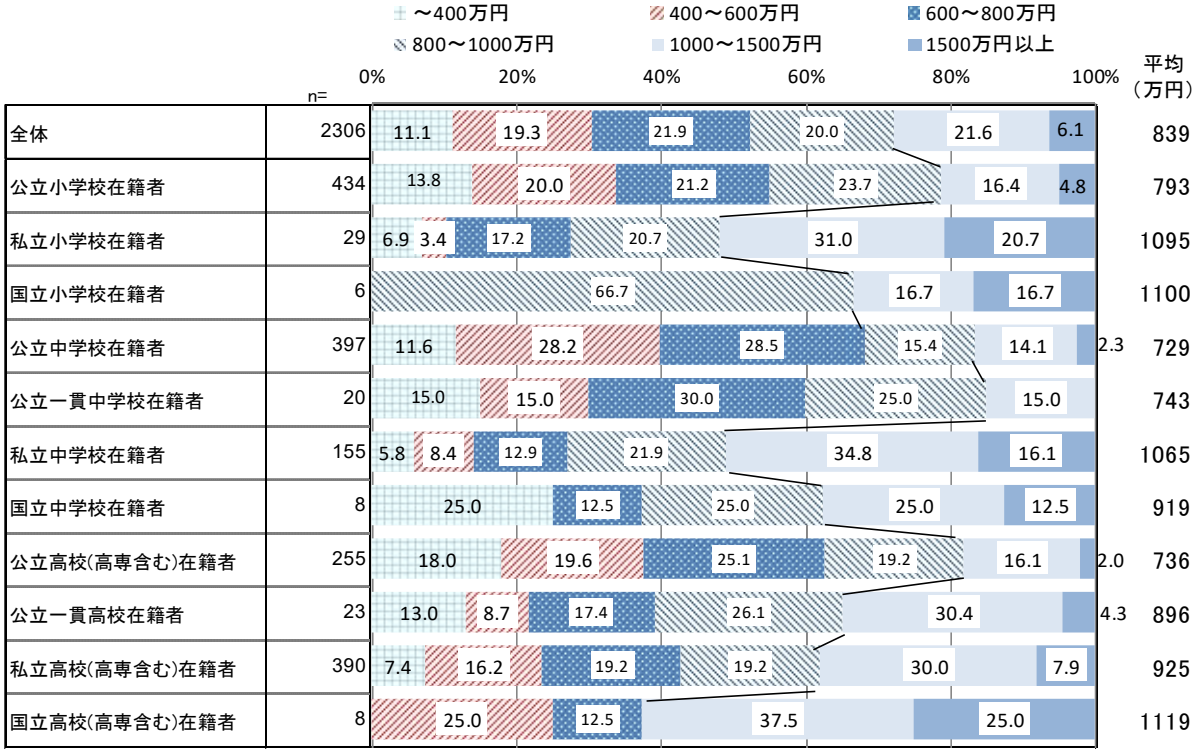
公立在籍者平均　940万円



2020

私立在籍者平均　971万円

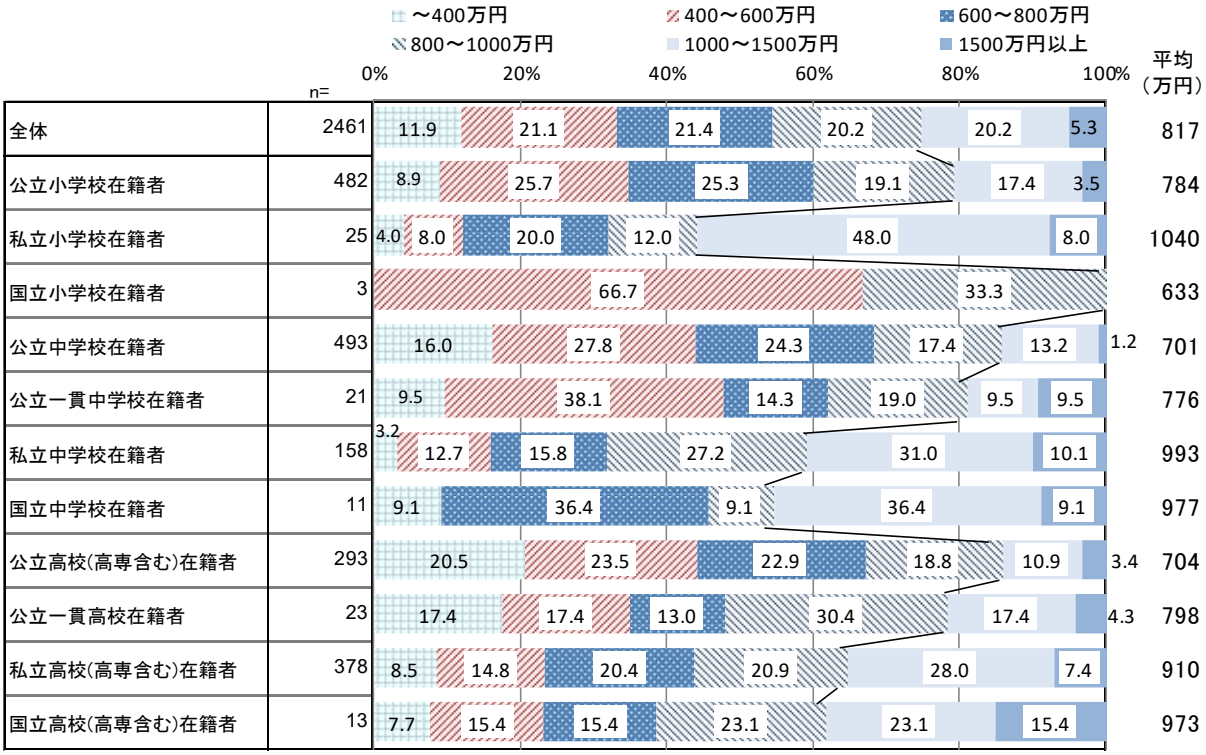
公立在籍者平均　756万円



2015

私立在籍者平均　939万円

公立在籍者平均　733万円

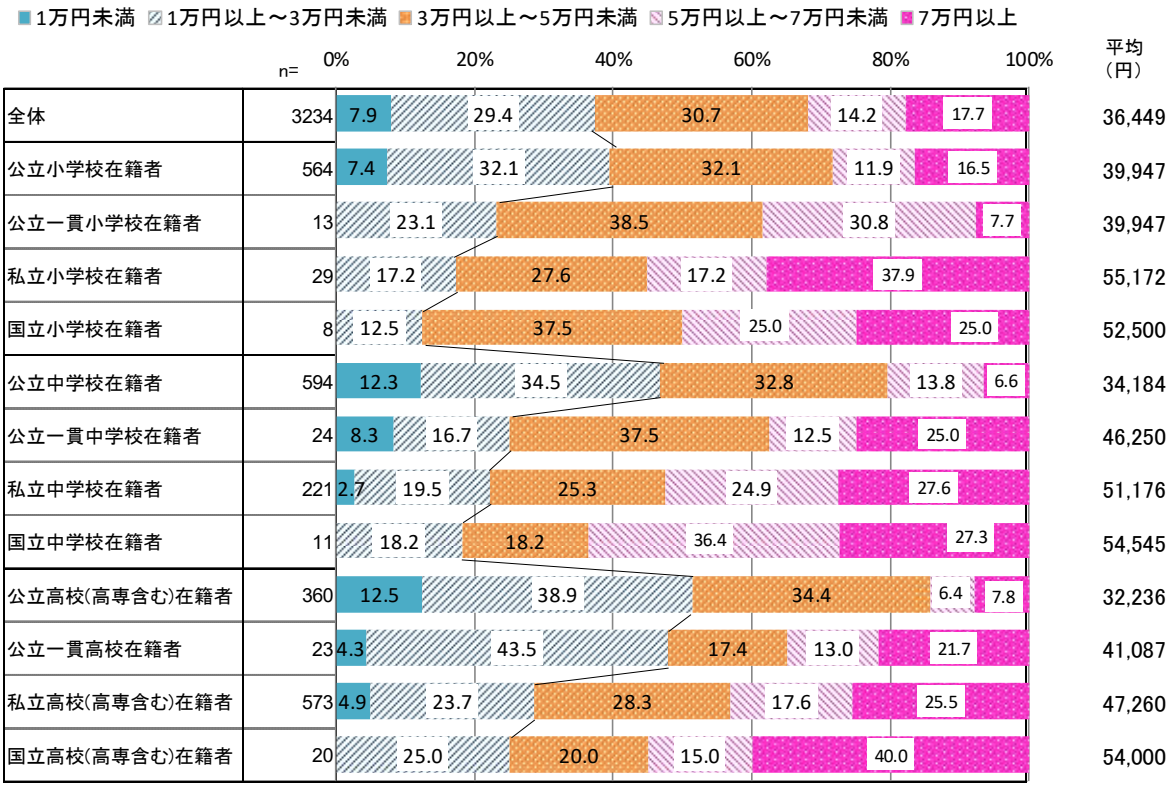


図表⑮　子ども一人あたりにかけられる月々の教育費

2025

私立在籍者平均　45,591円

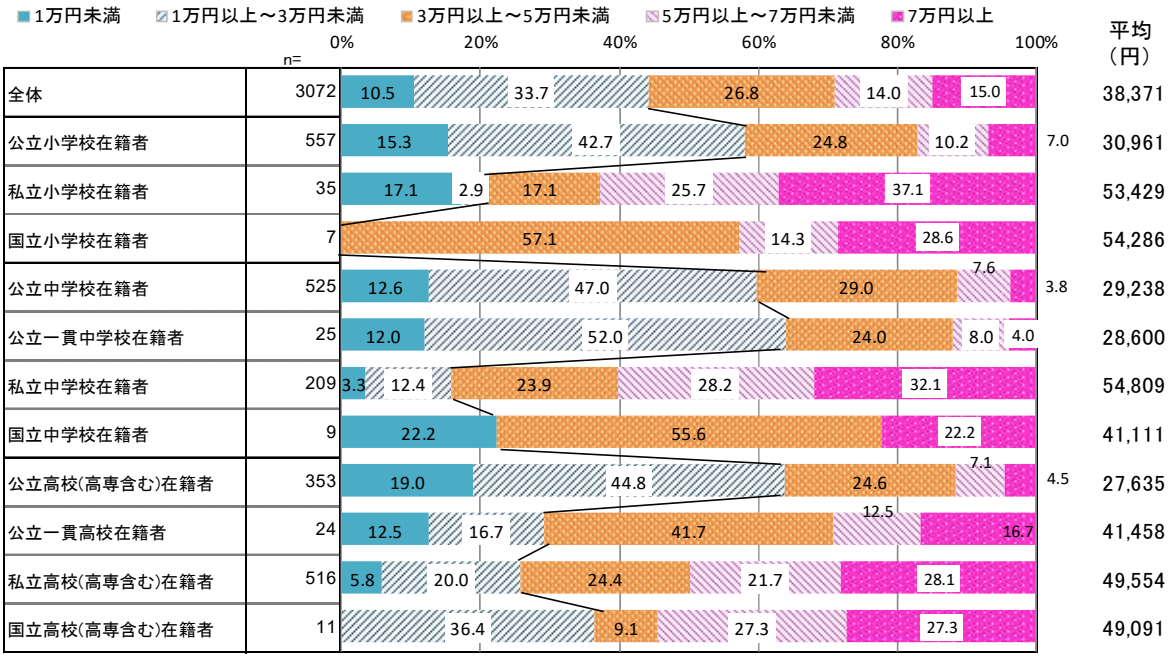
公立在籍者平均　35,863円



2020

私立在籍者平均　51,178円

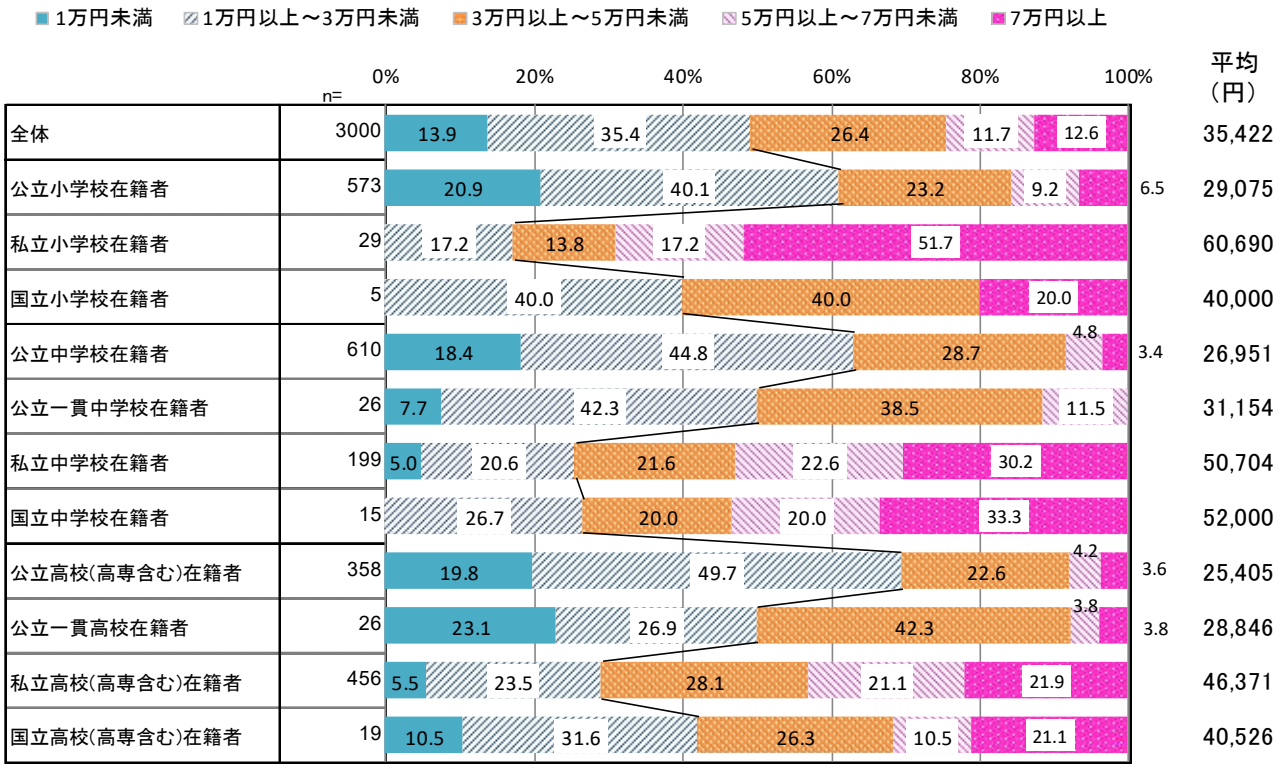
公立在籍者平均　29,512円



2015

私立在籍者平均　52,288円

公立在籍者平均　27,144円



２．教育費の確保と教育費負担軽減制度の認知度

教育費確保のために何をしているかを回答者全員に聞いた(図表⑯-1、図表⑯-2)。

全体では「特に何もしていない」が52.6%で最も高かった。次いで「積立預金・積立保険」の36.9%であった。小学校・中学校・高校別に回答結果をみると、小学校在籍者の「積立預金・積立保険」は41.4%と全体よりも高く、有意な差がみられた。中学校・高校では全体と有意差はなかったものの、「積立預金・積立保険」の割合が高かった。

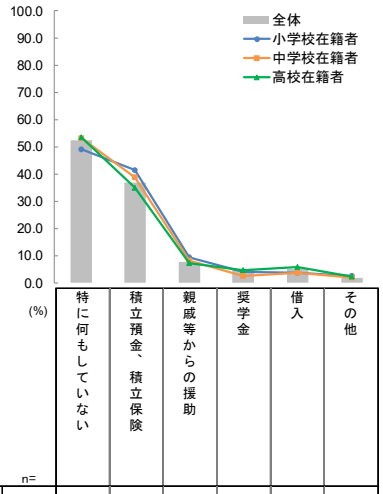
次に、高校の教育費負担軽減制度の認知度について回答者全員に聞いた(図表⑰-1、図表⑰-2)。

2025年は全体で「授業料軽減助成金」、「就学支援金」の順で回答率が高い結果となった。そのうち「授業料軽減助成金」は53.7%で、2020年と比較すると9.0ポイント上昇しており、中学校在籍者では13.5ポイント上昇している。私立在籍者の教育費軽減制度の認知度は高く、全体および公立在籍者を上回っている。

次に、私立中学の授業料負担を軽減する制度について回答者全員に聞いた（図表⑱-1、図表⑱-2）。その結果「よく知っている」、「ある程度知っている」の回答率が計43.7%であった。私立在籍者、公立在籍者別に比較したところ、私立在籍者の方が「よく知っている」と回答した割合が高かった。

図表⑯-1　教育費を確保するためにしていること(小学校・中学校・高校別)

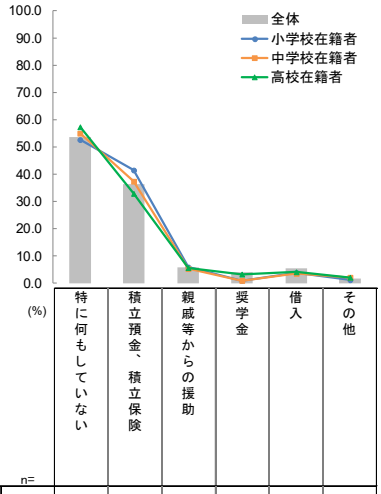
2025



	n=	特に何もしていない	積立預金、積立保険	親戚等からの援助	奨学金	借入	その他
全体	3234	52.6	36.9	7.8	5.1	5.1	1.9
小学校在籍者	614	49.2	41.4	9.3	4.1	3.7	2.4
中学校在籍者	850	53.3	38.7	8.2	2.5	3.9	2.0
高校在籍者	976	53.7	34.9	7.4	4.7	5.9	2.2

網掛けは全体と有意な差があった項目

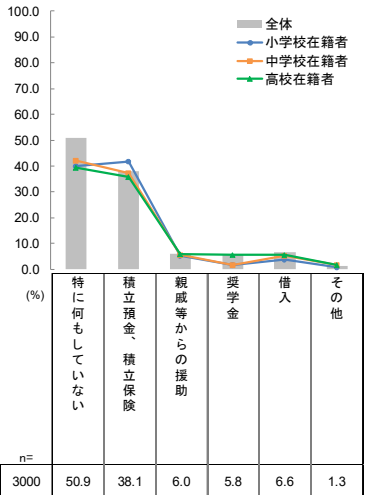
2020



	n=	特に何もしていない	積立預金、積立保険	親戚等からの援助	奨学金	借入	その他
全体	3072	53.7	36.4	5.9	4.0	5.6	1.8
小学校在籍者	599	52.8	41.4	6.0	1.0	3.8	1.3
中学校在籍者	768	55.1	37.5	5.5	0.9	3.5	2.1
高校在籍者	904	57.3	33.0	5.8	3.4	4.2	2.0

網掛けは全体と有意な差があった項目

2015

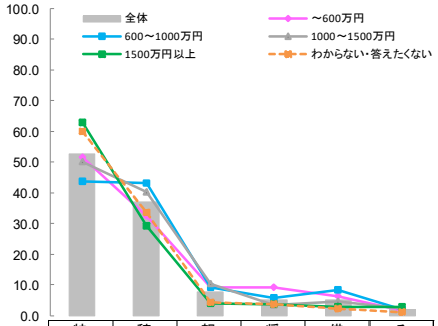


	n=	特に何もしていない	積立預金、積立保険	親戚等からの援助	奨学金	借入	その他
全体	3000	50.9	38.1	6.0	5.8	6.6	1.3
小学校在籍者	607	39.9	41.7	5.4	1.6	4.0	0.8
中学校在籍者	850	42.1	37.3	5.6	1.6	5.4	1.8
高校在籍者	859	39.5	35.9	6.1	5.7	5.6	1.9

網掛けは全体と有意な差があった項目

図表⑯-2　教育費を確保するためにしていること(年収別)

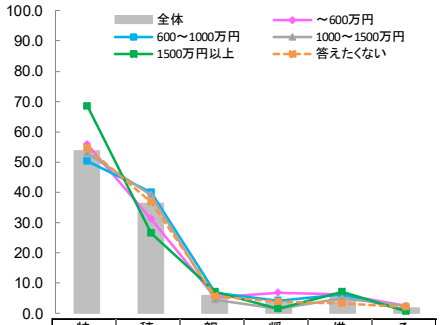
2025



	n=	特に何もしていない	積立預金、積立保険	親戚等からの援助	奨学金	借入	その他
全体	3234	52.6	36.9	7.8	5.1	5.1	1.9
～600万円	495	51.5	32.5	9.3	9.3	6.3	1.8
600～1000万円	878	43.8	43.2	9.3	5.8	8.3	2.1
1000～1500万円	682	50.1	40.3	10.6	3.5	4.5	2.3
1500万円以上	386	62.7	29.3	4.1	3.9	2.8	2.8
わからない・答えたくない	793	60.0	33.5	4.4	3.8	2.4	1.1

網掛けは、全体と有意な差があった項目

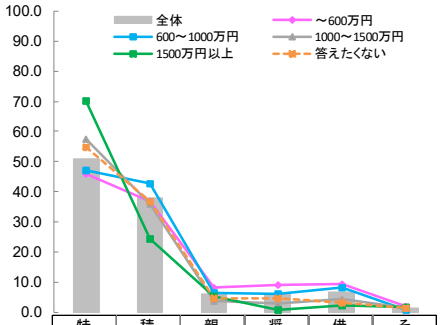
2020



	n=	特に何もしていない	積立預金、積立保険	親戚等からの援助	奨学金	借入	その他
全体	3072	53.7	36.4	5.9	4.0	5.6	1.8
～600万円	701	55.8	31.1	5.4	6.8	6.3	2.6
600～1000万円	967	50.2	39.9	6.7	4.2	6.3	0.9
1000～1500万円	498	52.8	39.2	4.6	1.6	5.0	2.4
1500万円以上	140	68.6	26.4	7.1	1.4	7.1	0.7
答えたくない	505	54.7	36.8	5.5	4.0	3.4	2.2

網掛けは、全体と有意な差があった項目

2015

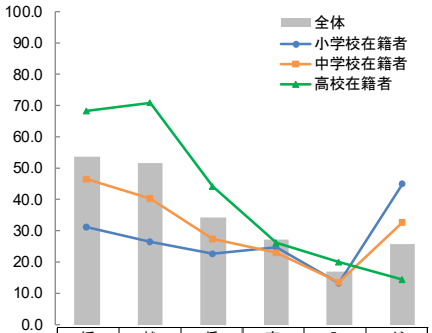


	n=	特に何もしていない	積立預金、積立保険	親戚等からの援助	奨学金	借入	その他
全体	3000	50.9	38.1	6.0	5.8	6.6	1.3
～600万円	812	45.9	36.8	8.0	9.0	9.4	1.8
600～1000万円	1022	47.1	42.7	6.4	6.0	8.0	0.9
1000～1500万円	496	57.5	35.9	3.6	2.8	4.2	1.4
1500万円以上	131	70.2	24.4	5.3	0.8	2.3	1.5
答えたくない	539	54.9	36.7	4.5	4.6	3.0	1.3

網掛けは、全体と有意な差があった項目

図表⑰-1　高校における教育費負担軽減制度の認知度(小学校・中学校・高校別)

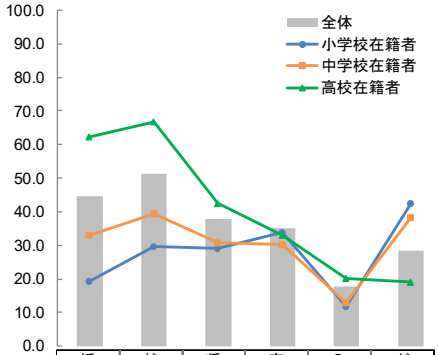
2025



	n=	授業料軽減助成金	就学支援金	奨学給付金	育英資金	入学支度金	どれも知らない
全体	3234	53.7	51.7	34.3	27.2	17.0	25.9
小学校在籍者	614	31.3	26.4	22.6	24.8	13.4	45.1
中学校在籍者	850	46.6	40.5	27.4	23.1	13.4	32.8
高校在籍者	976	68.3	71.0	44.3	26.3	20.1	14.3

網掛けは、全体と有意な差があった項目

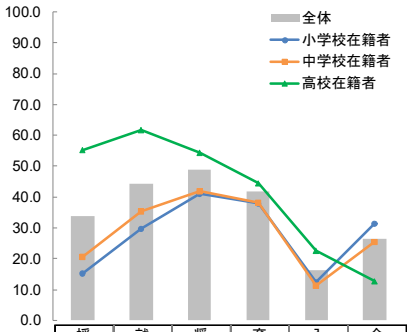
2020



	n=	授業料軽減助成金	就学支援金	奨学給付金	育英資金	入学支度金	どれも知らない
全体	3072	44.7	51.3	38.0	35.1	17.8	28.3
小学校在籍者	599	19.4	29.5	29.2	33.9	11.7	42.6
中学校在籍者	768	33.1	39.3	30.7	30.1	13.0	38.3
高校在籍者	904	62.2	66.8	42.5	33.0	20.2	19.0

網掛けは、全体と有意な差があった項目

2015

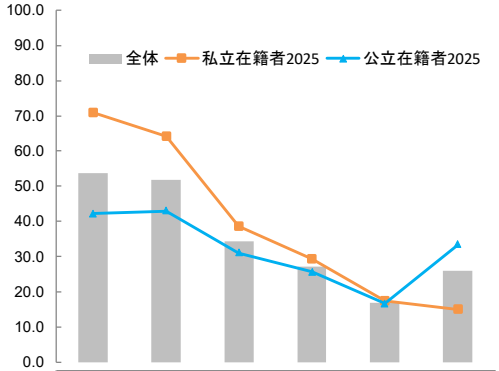


	n=	授業料軽減助成金	就学支援金	奨学給付金	育英資金	入学支度金	全く知らない
全体	3000	33.7	44.2	48.8	41.9	16.3	26.5
小学校在籍者	607	15.2	29.7	41.2	38.1	12.4	31.5
中学校在籍者	850	20.7	35.3	42.0	38.2	11.3	25.5
高校在籍者	859	55.2	61.7	54.5	44.4	22.7	12.8

網掛けは、全体と有意な差があった項目

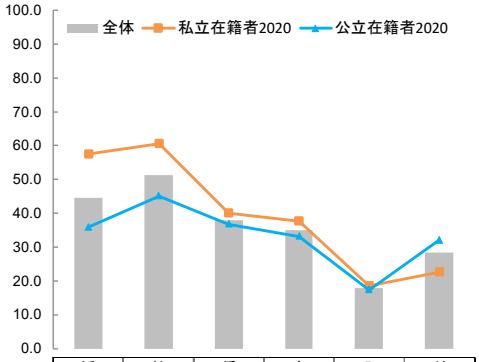
図表⑰-2　高校における教育費負担軽減制度の認知度(私立在籍者・公立在籍者別)

2025



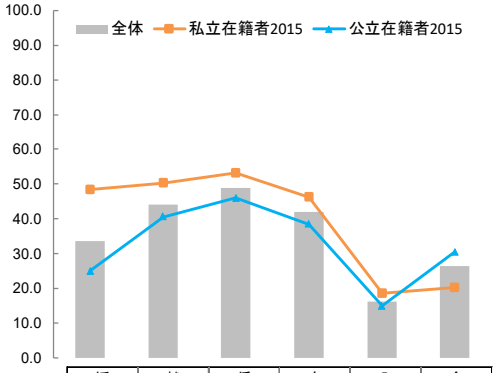
	n=	授業料軽減助成金	就学支援金	奨学給付金	育英資金	入学支度金	どれも知らない
全体	3234	53.7	51.7	34.3	27.2	17.0	25.9
私立在籍者2025	1285	70.9	64.2	38.7	29.3	17.4	15.1
公立在籍者2025	1807	42.2	43.0	31.0	25.6	16.7	33.5
有意差が認められた項目						*	

2020



	n=	授業料軽減助成金	就学支援金	奨学給付金	育英資金	入学支度金	どれも知らない
全体	3072	44.7	51.3	38.0	35.1	17.8	28.3
私立在籍者2020	1218	57.4	60.6	40.1	37.6	18.5	22.7
公立在籍者2020	1736	35.9	45.1	36.8	33.2	17.4	32.1
有意差が認められた項目		*	*		*		

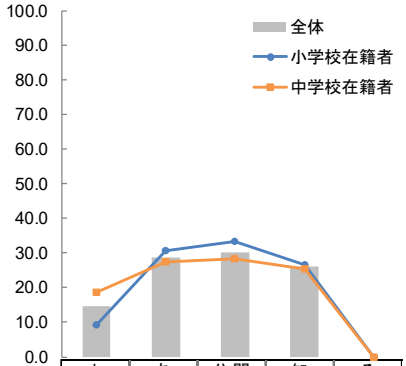
2015



	n=	授業料軽減助成金	就学支援金	奨学給付金	育英資金	入学支度金	全く知らない
全体	3000	33.7	44.2	48.8	41.9	16.3	26.5
私立在籍者2015	1093	48.4	50.3	53.2	46.3	18.5	20.3
公立在籍者2015	1790	25.0	40.6	46.0	38.4	14.9	30.4
有意差が認められた項目		*	*	*	*	*	

図表⑱-1　私立中学授業料負担制度の認知度(小学校・中学校)

2025

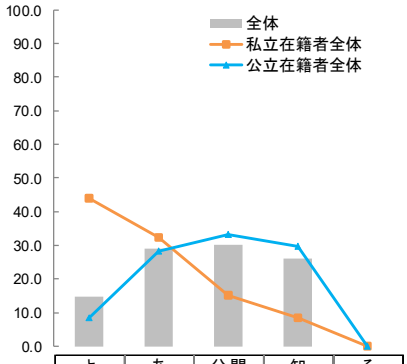


	n=	よく知っている	ある程度知っている	聞いたことはあるが詳細は分からない	知らない	その他
全体	1464	14.8	28.9	30.3	26.0	0.0
小学校在籍者	614	9.3	30.8	33.2	26.7	0.0
中学校在籍者	850	18.7	27.5	28.2	25.5	0.0

網掛けは、全体と有意な差があった項目

図表⑱-2　私立中学授業料負担制度の認知度(私立在籍者・公立在籍者別)

2025



	n=	よく知っている	ある程度知っている	聞いたことはあるが詳細は分からない	知らない	その他
全体	1464	14.8	28.9	30.3	26.0	0.0
私立在籍者全体	250	44.0	32.4	15.2	8.4	0.0
公立在籍者全体	1158	8.5	28.2	33.3	29.9	0.0
有意差が認められた項目		*		*	*	

３．保護者の価値観

子どもの教育に対する考え方について、私立在籍者と公立在籍者に聞いた(図表⑲)。

私立在籍者では「子どもの将来のために、よい教育環境を与えることが親としての努めだ」が71.0%と回答率が最も高く、次いで「高校卒業後、できれば大学に進学させたい」が53.8%と続いた。公立在籍者においても上記2つの回答率が1位、2位となっていた。次いで「より高い学歴を得ることは子どもの将来にとって重要だと思う」「勉強は本人の自覚次第で、親があまり口を出す必要はない」と続き、上記を含め多くの項目で私立学校が公立在籍者の回答率を上回った。「母親は子どもの教育に積極的に取り組むことがよい」は、私立在籍者・公立在籍者ともに前回より大きくポイントが下降し、順位も下がっている。

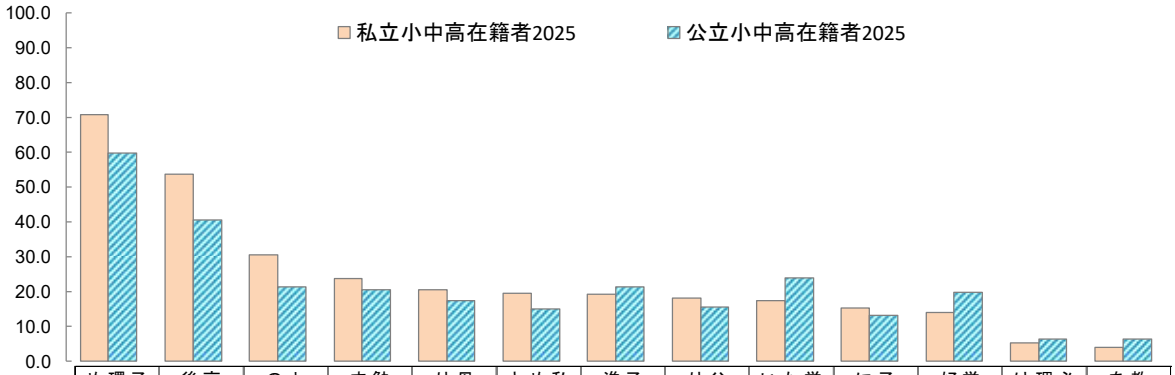
次に、子どもを留学させたいかどうかを回答者全員に聞いた(図表⑳)。

その結果、「すぐに留学させたい」、「いずれは留学させたい」の回答率は、私立中学校在籍者で71.0%、私立高校在籍者が56.0%となっており、いずれも公立学校を上回っていた。

また、私立中学校在籍者・私立高校在籍者ともに、2020年と比べて若干上昇している。

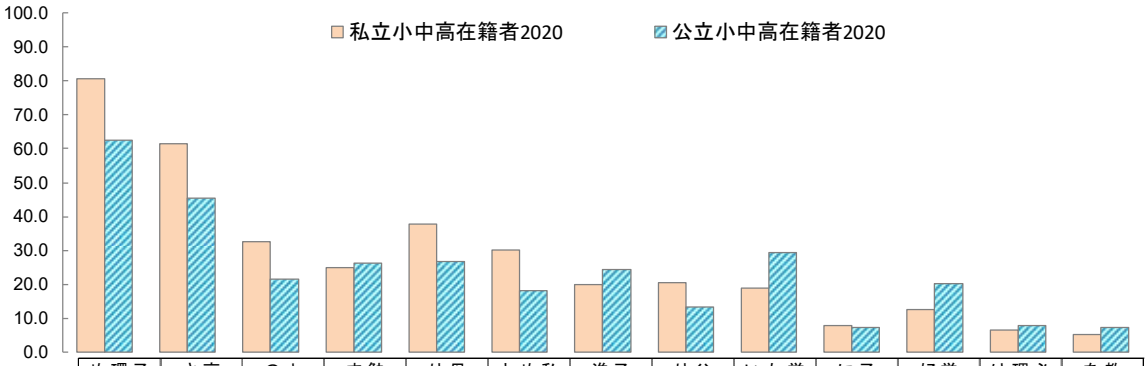
図表⑲　子どもの教育に対する保護者の考え方

2025



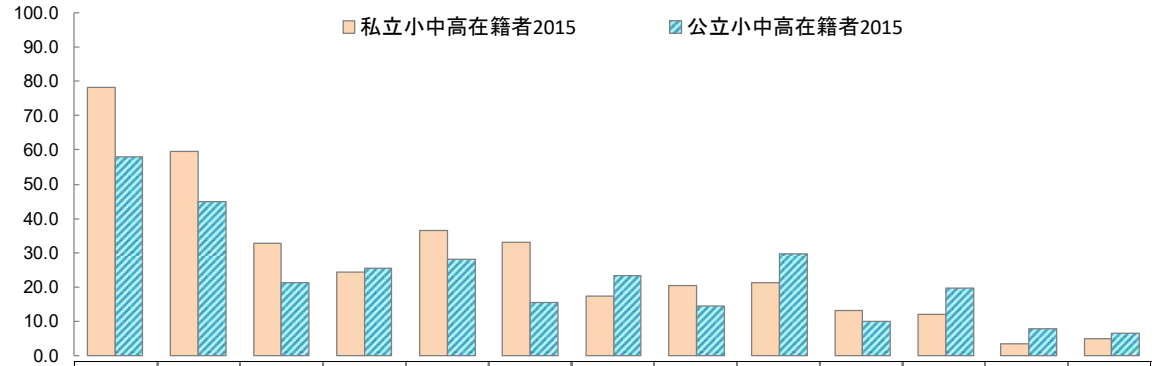
	n=	子どもの将来のために、よい教育環境を与えることが親としての努めだ	高校（専修学校高等課程）卒業後、できれば大学に進学させたい	より高い学歴を得ることは子どもの将来にとって重要だと思う	勉強は本人の自覚次第で、親があまり口を出す必要はない	母親は子どもの教育に積極的に取り組むことがよい	私立でも、塾などに行かなくてすめば、公立で塾や予備校に行くのと経済的には変わらない	子どもが勉強嫌いなら、無理して進学させる必要はない	父親は子どもの教育に積極的に取り組むことがよい	学歴よりも子どもの特性を伸ばしたり、手に職をつけさせる方がよい	子どもの数が減るので、今後大学には入りやすくなると思う	学生のうちは、勉強よりも自由に好きなことをやらせたい	必要最低限の教育は必要だが、無理して高等教育を受けさせる必要はない	教育はすべての子どもが同じ内容を学ばせるべきだと思う
私立小中高在籍者2025	823	71.0	53.8	30.5	23.7	20.5	19.4	19.3	18.3	17.4	15.4	14.0	5.5	4.1
公立小中高在籍者2025	1518	59.8	40.6	21.4	20.6	17.5	15.2	21.4	15.5	24.0	13.3	19.8	6.3	6.4
有意差が認められた項目		*	*	*			*			*		*		*

2020



	n=	子どもの将来のために、よい教育環境を与えることが親としての努め だ	高校卒業後、できれば大学に進学させたい	より高い学歴を得ることは子どもの将来にとって重要だと思う	勉強は本人の自覚次第で、親があまり口を出す必要はない	母親は子どもの教育に積極的に取り組んでいる	私立でも、塾などに行かなくてすめば、公立で塾や予備校に行くのと経済的には変わらない	子どもが勉強嫌いなら、無理して進学させる必要はない	父親は子どもの教育に積極的に取り組んでいる	学歴よりも子どもの特性を伸ばしたり、手に職をつけさせる方がよい	子どもの数が減るので、今後大学には入りやすくなると思う	学生のうちは、勉強よりも自由に好きなことをやらせたい	必要最低限の教育は必要だが、無理して高等教育を受けさせる必要はない	教育はすべての子どもが同じ内容を学ばせるべきだと思う
私立小中高在籍者2020	760	80.5	61.4	32.5	25.0	37.9	30.1	20.0	20.4	18.9	8.0	12.5	6.6	5.4
公立小中高在籍者2020	1435	62.6	45.5	21.5	26.3	26.9	18.1	24.5	13.3	29.3	7.4	20.3	7.9	7.4
有意差が認められた項目		*	*	*		*	*	*	*	*		*		

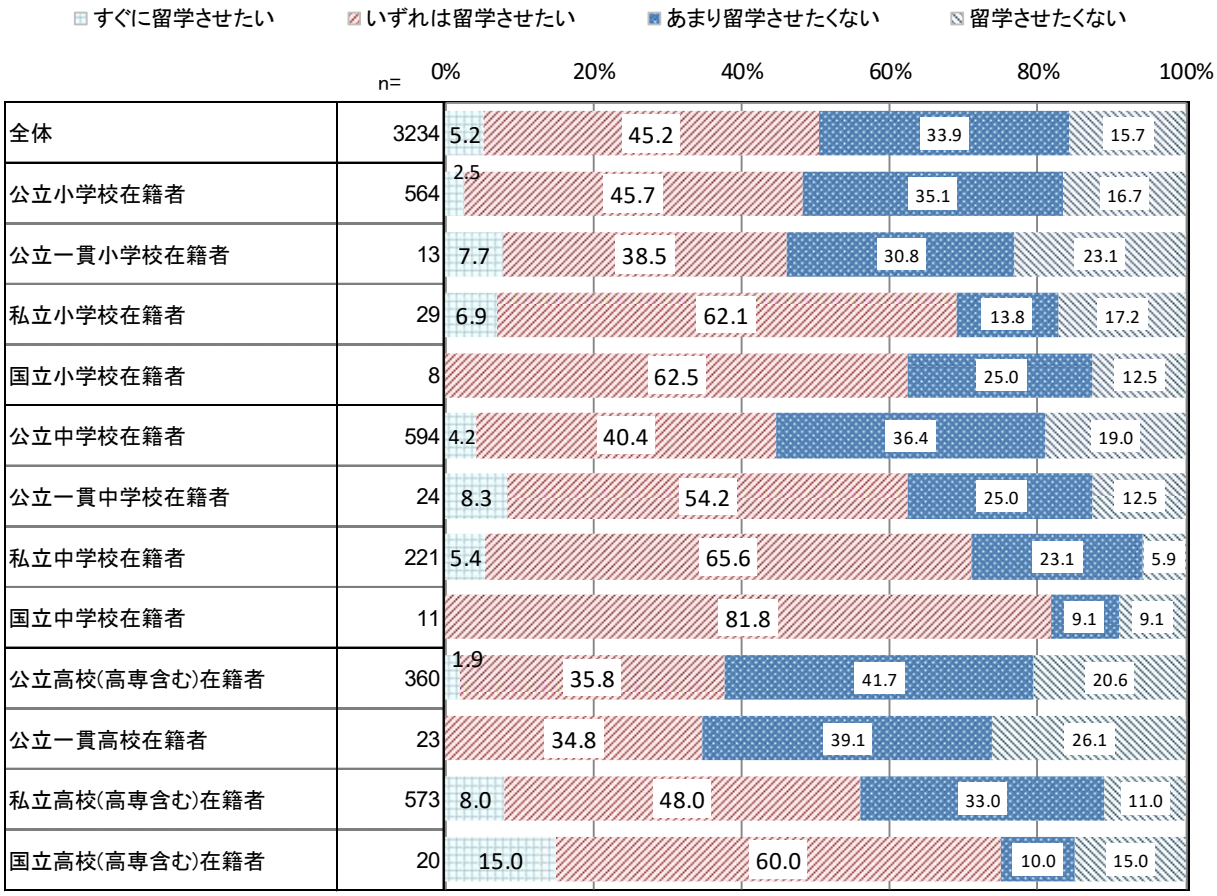
2015



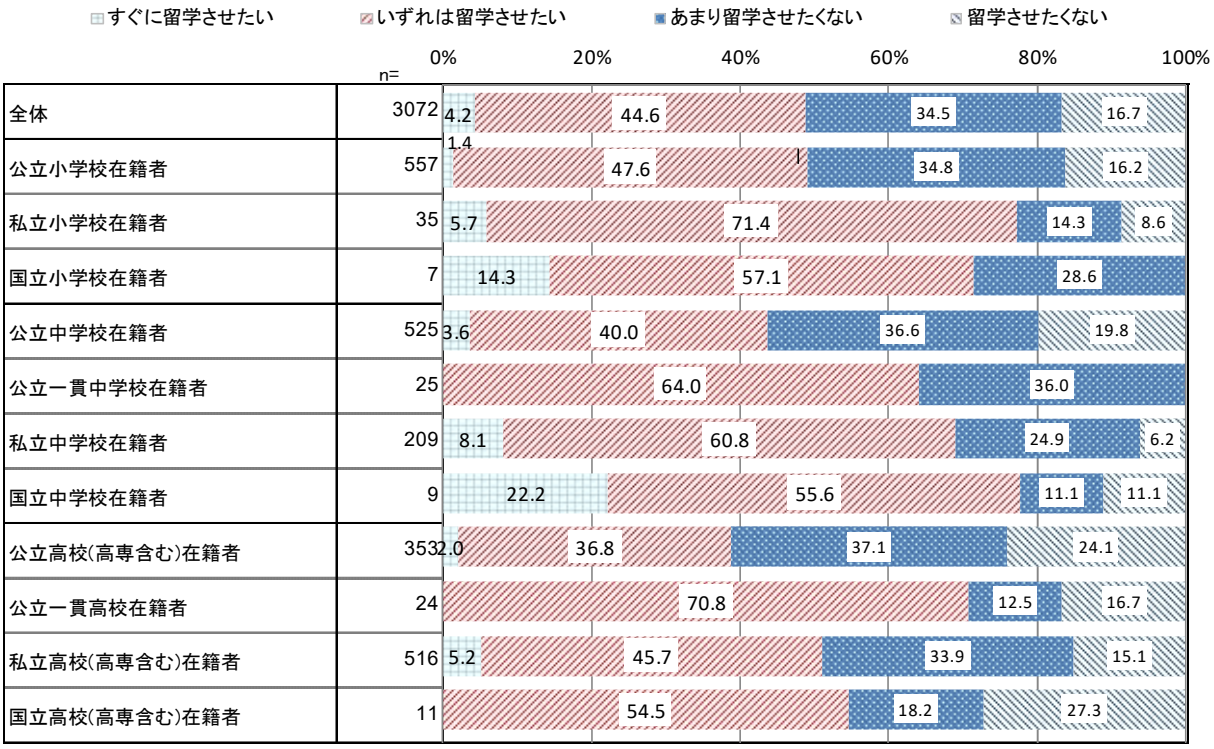
	n=	子どもの将来のために、よい教育環境を与えることが親としての努め だ	高校卒業後、できれば大学に進学させたい	より高い学歴を得ることは子どもの将来にとって重要だと思う	勉強は本人の自覚次第で、親があまり口を出す必要はない	母親は子どもの教育に積極的に取り組んでいる	私立でも、塾などに行かなくてすめば、公立で塾や予備校に行くのと経済的には変わらない	子どもが勉強嫌いなら、無理して進学させる必要はない	父親は子どもの教育に積極的に取り組んでいる	学歴よりも子どもの特性を伸ばしたり、手に職をつけさせる方がよい	子どもの数が減るので、今後大学には入りやすくなると思う	学生のうちは、勉強よりも自由に好きなことをやらせたい	必要最低限の教育は必要だが、無理して高等教育を受けさせる必要はない	教育はすべての子どもが同じ内容を学ばせるべきだと思う
私立小中高在籍者2015	684	78.1	59.5	32.9	24.4	36.5	33.0	17.4	20.5	21.2	13.2	12.0	3.5	5.1
公立小中高在籍者2015	1541	58.0	45.0	21.2	25.4	28.0	15.5	23.4	14.5	29.7	9.9	19.8	8.0	6.7
有意差が認められた項目		*	*	*		*	*	*	*	*		*	*	

図表⑳　子どもを留学させたいか

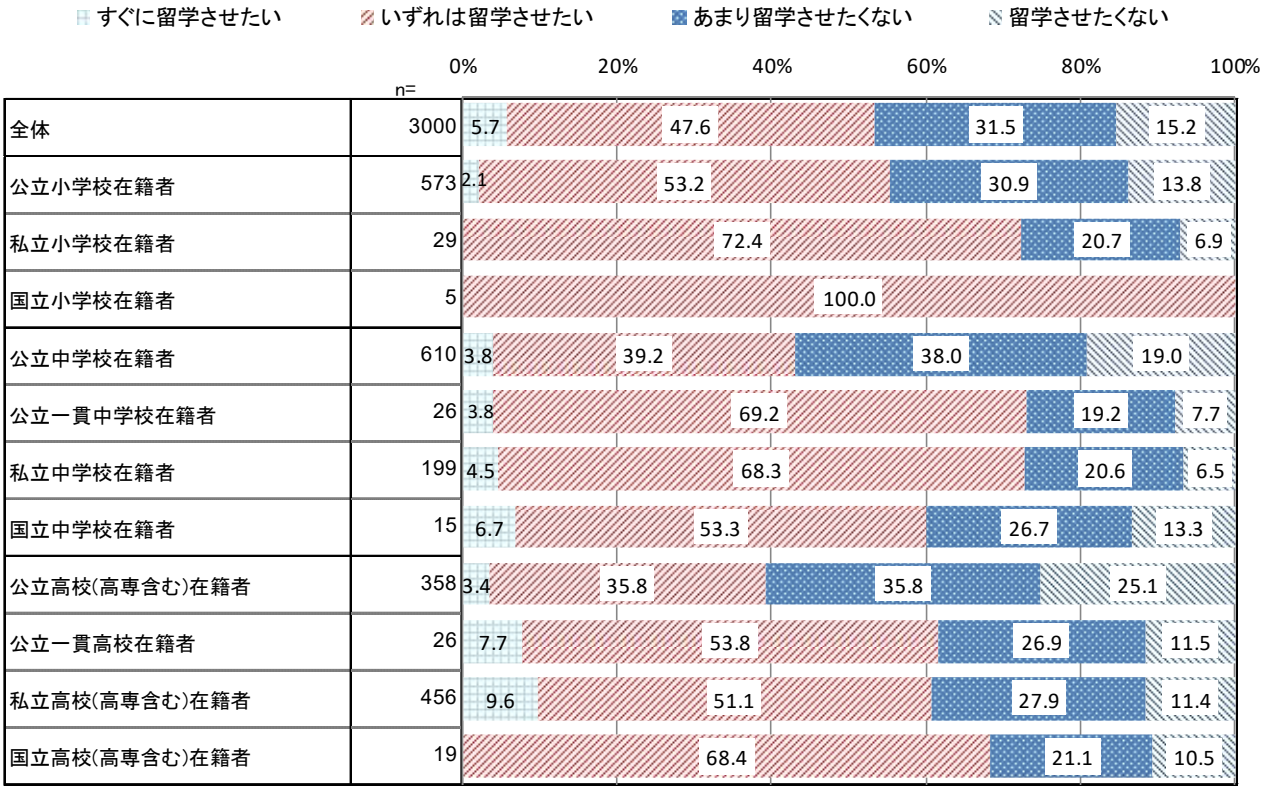
2025



2020



2015


すぐに留学させたい
いずれは留学させたい
あまり留学させたくない
留学させたくない
0%
20%
40%
60%
80%
100%
n=
全体 3000 5.7 47.6 31.5 15.2
公立小学校在籍者 573 2.1 53.2 30.9 13.8
私立小学校在籍者 29 72.4 20.7 6.9
国立小学校在籍者 5 100.0
公立中学校在籍者 610 3.8 39.2 38.0 19.0
公立一貫中学校在籍者 26 3.8 69.2 19.2 7.7
私立中学校在籍者 199 4.5 68.3 20.6 6.5
国立中学校在籍者 15 6.7 53.3 26.7 13.3
公立高校(高専含む)在籍者 358 3.4 35.8 35.8 25.1
公立一貫高校在籍者 26 7.7 53.8 26.9 11.5
私立高校(高専含む)在籍者 456 9.6 51.1 27.9 11.4
国立高校(高専含む)在籍者 19 68.4 21.1 10.5

第3章　教育費･保護者の価値観　まとめ

【教育費】
（世帯年収と月々の許容教育費）

- 世帯年収を私立在籍者と公立在籍者で比較すると、私立在籍者の方が184万円高かった。

- 子ども一人当たりにかけられる月々の教育費についても、9,728円私立在籍者の方が高くなった。この結果は2020年、2015年も同様であったが差は縮小している。

- 教育費の確保については、「特に何もしていない」と答えた割合が最も高くなった。この結果は、この結果は2020年、2015年も同様であった。

- 対応としては、「積立預金・積立保険」の割合が高かった。

（教育費の確保と教育費負担軽減制度の認知度）

- 高校の教育費負担軽減制度については、「授業料軽減助成金」の認知度が上昇していることがわかった。特に中学校在籍者の認知度は、2025年と2020年を比較すると13.5ポイント上昇している。

- 私立中学校の授業料負担軽減制度については、「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した割合が全体で43.7％となっている。

【保護者の価値観】
（子どもの教育に対する考え方）

- 私立在籍者も公立在籍者も「子どもの将来のために、よい教育環境を与えたい」と考える割合が高く、特に私立在籍者では71.0%となっている。

（子どもの留学）

- 「子どもに留学をさせたいか」に対しての回答も私立と公立では、回答率に大きく差がみえた。特に私立中学校と公立中学校の回答率には「すぐに留学させたい」、「いずれは留学させたい」と留学に対して肯定的な回答をした割合に26.4ポイントの差があった。

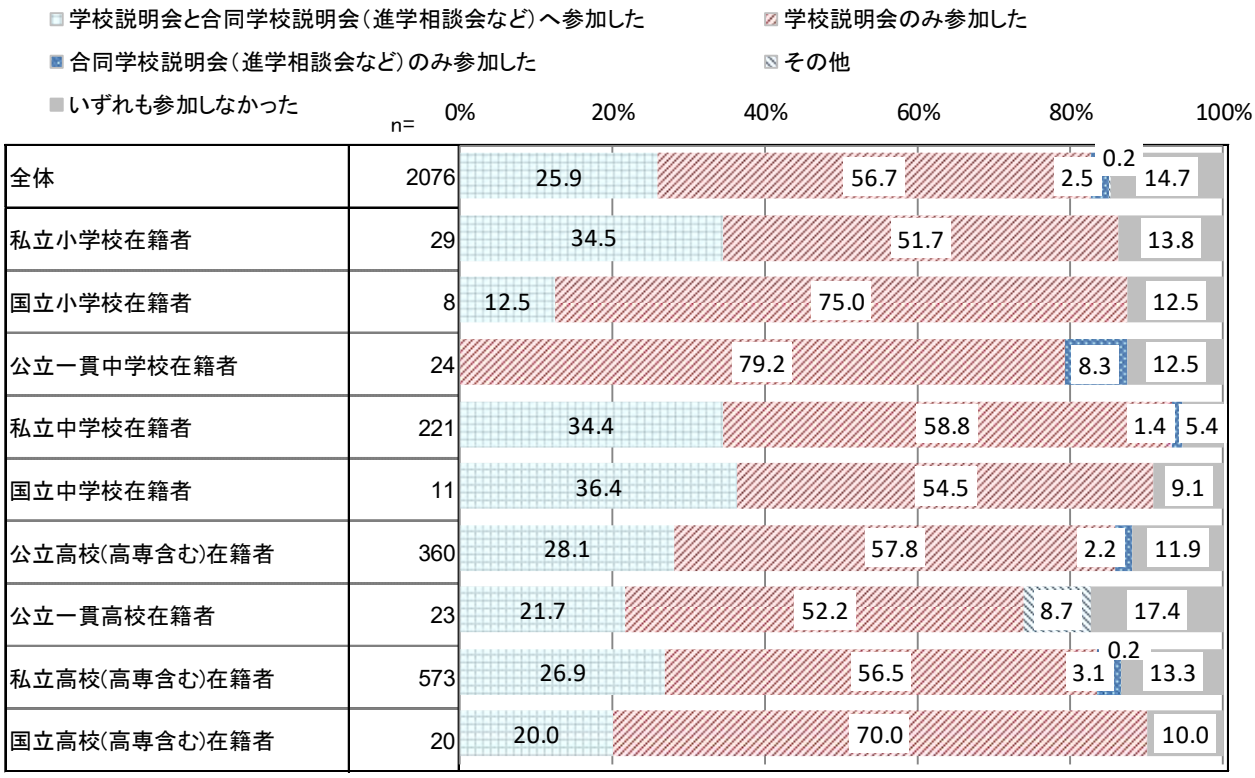
本章では、第２章「私立へのイメージ・評価」における「学校選択で重視した点」の結果をふまえ、学校選びには欠かせない「学校説明会」、「合同学校説明会」について、参加の有無と、それぞれで注目した点を調べた。また、現在在籍している学校に進学した理由も併せて聞き、最終的に何が進学の決め手になったかを探った。

1.　学校説明会/合同学校説明会の参加有無

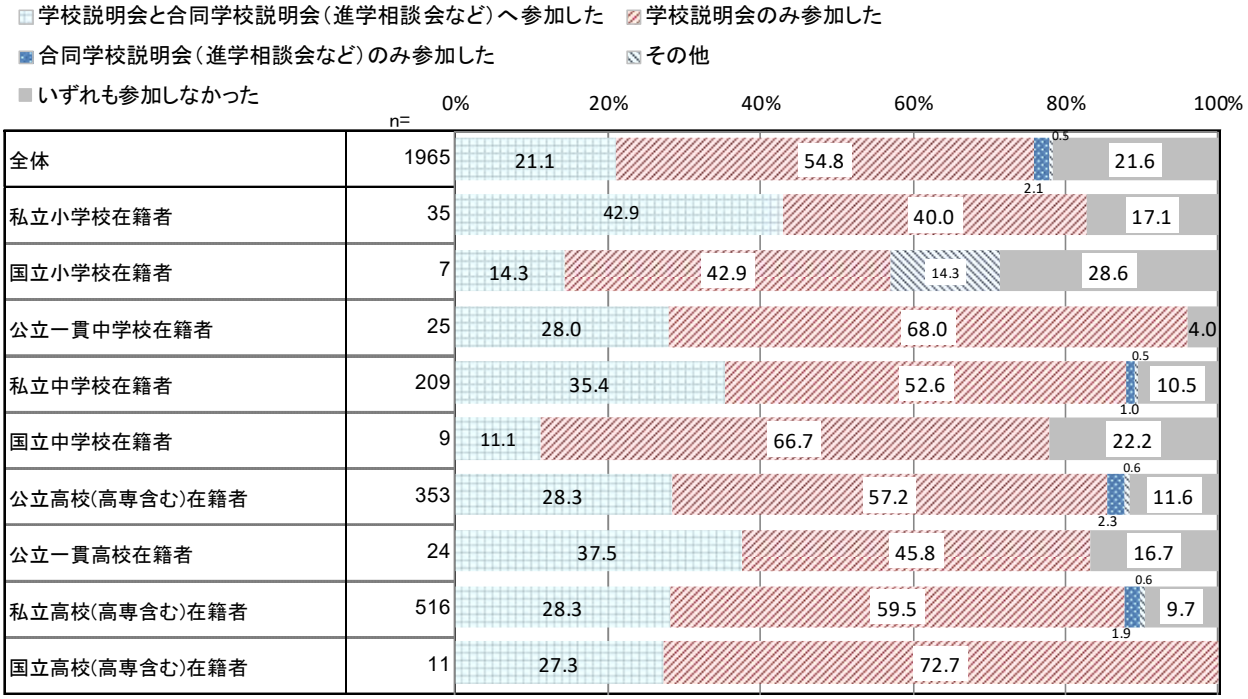
学校説明会への参加有無について、公立小学校・公立中学校を除く全員に聞いた（図表㉑）。
私立在籍者では、小学校・中学校・高校のすべての学校段階において、80%以上が「学校説明会と合同学校説明会へ参加」または「学校説明会のみ参加」と回答した。
また、2020年と比較すると、私立在籍者は小学校・中学校において、「学校説明会と合同学校説明会へ参加」または「学校説明会のみ参加」の割合が上昇している。

図表㉑　学校説明会・合同学校説明会の参加有無

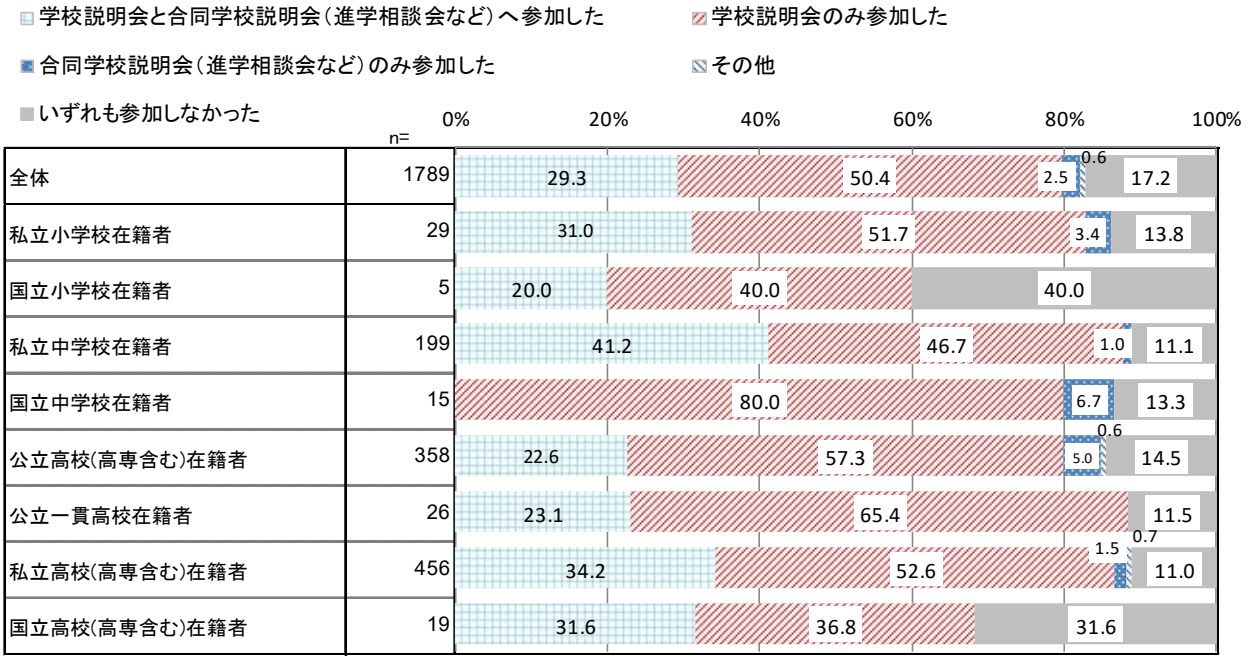
2025



2020


学校説明会と合同学校説明会（進学相談会など）へ参加した
学校説明会のみ参加した
合同学校説明会（進学相談会など）のみ参加した
その他
いずれも参加しなかった
0%
20%
40%
60%
80%
100%
n=
全体 1965 21.1 54.8 0.5 2.1 21.6
私立小学校在籍者 35 42.9 40.0 17.1
国立小学校在籍者 7 14.3 42.9 14.3 28.6
公立一貫中学校在籍者 25 28.0 68.0 4.0
私立中学校在籍者 209 35.4 52.6 0.5 1.0 10.5
国立中学校在籍者 9 11.1 66.7 22.2
公立高校(高専含む)在籍者 353 28.3 57.2 0.6 2.3 11.6
公立一貫高校在籍者 24 37.5 45.8 16.7
私立高校(高専含む)在籍者 516 28.3 59.5 0.6 1.9 9.7
国立高校(高専含む)在籍者 11 27.3 72.7

2015


学校説明会と合同学校説明会（進学相談会など）へ参加した
学校説明会のみ参加した
合同学校説明会（進学相談会など）のみ参加した
その他
いずれも参加しなかった
0%
20%
40%
60%
80%
100%
n=
全体 1789 29.3 50.4 2.5 0.6 17.2
私立小学校在籍者 29 31.0 51.7 3.4 13.8
国立小学校在籍者 5 20.0 40.0 40.0
私立中学校在籍者 199 41.2 46.7 1.0 11.1
国立中学校在籍者 15 80.0 6.7 13.3
公立高校(高専含む)在籍者 358 22.6 57.3 5.0 0.6 14.5
公立一貫高校在籍者 26 23.1 65.4 11.5
私立高校(高専含む)在籍者 456 34.2 52.6 1.5 0.7 11.0
国立高校(高専含む)在籍者 19 31.6 36.8 31.6

２．学校説明会で参考になった点

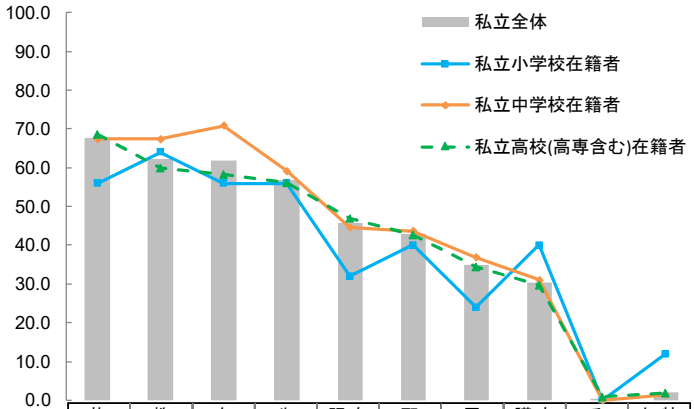
「学校説明会・合同学校説明会に参加した」または「学校説明会のみ参加した」と回答した人に対し、学校説明会で参考になった点を聞いた(図表㉒-1、図表㉒-2)。

私立学校在籍者全体では、「施設・設備の状況」の回答率が67.8%と最も高く、「教育内容」、「在校生の様子」が続いた。これは、2020年・2015年と同様の傾向である。

一方で、公立在籍者は、公立一貫高校と公立高校で「教育内容」、「自宅から学校までの距離や通学路の様子」の回答率に差が見られた。

図表㉒-1　学校説明会で参考になった点(私立)

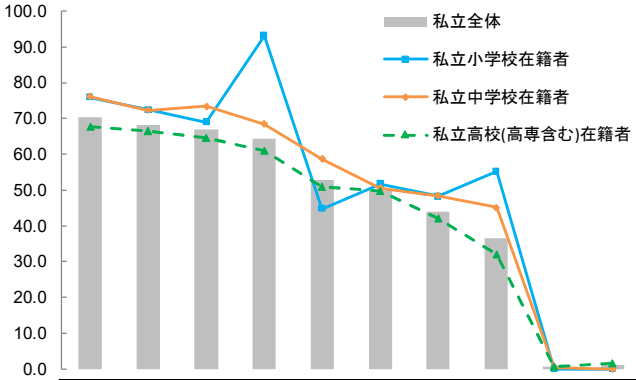
2025



	n=	施設・設備の状況	教育内容	在校生の様子	先生の様子	自宅から学校までの距離や通学路の様子	配付された資料	周辺の環境や治安	来場している他の保護者・生徒の様子	その他	特に参考になる点はなかった
私立全体	709	67.8	62.3	61.9	57.0	45.8	42.9	34.8	30.5	0.6	2.1
私立小学校在籍者	25	56.0	64.0	56.0	56.0	32.0	40.0	24.0	40.0	0.0	12.0
私立中学校在籍者	206	67.5	67.5	70.9	59.2	44.7	43.7	36.9	31.1	0.0	1.5
私立高校(高専含む)在籍者	478	68.6	60.0	58.4	56.1	47.1	42.7	34.5	29.7	0.8	1.9

網掛けは、全体と有意な差があった項目

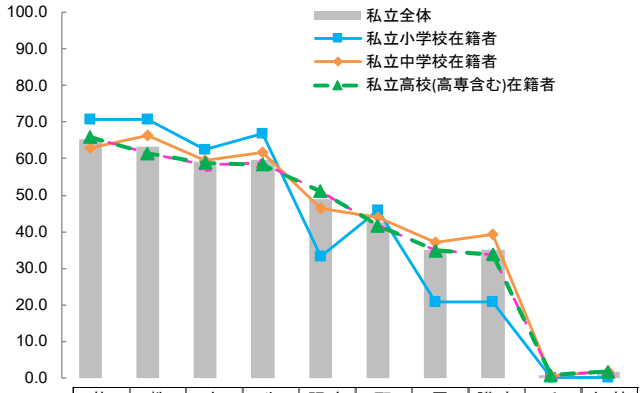
2020



(%)	n=	施設・設備の状況	教育内容	在校生の様子	先生の様子	自宅から学校までの距離や道路の様子	配付された資料	周辺の環境や治安	来場している他の保護者・生徒の様子	その他	特に参考になる点はなかった
私立全体	666	70.4	68.3	67.1	64.4	52.9	50.0	44.1	36.6	0.6	1.2
私立小学校在籍者	29	75.9	72.4	69.0	93.1	44.8	51.7	48.3	55.2	0.0	0.0
私立中学校在籍者	184	76.1	72.3	73.4	68.5	58.7	50.5	48.4	45.1	0.5	0.0
私立高校(高専含む)在籍者	453	67.8	66.4	64.5	60.9	51.0	49.7	42.2	32.0	0.6	1.6

網掛けは、全体と有意な差があった項目

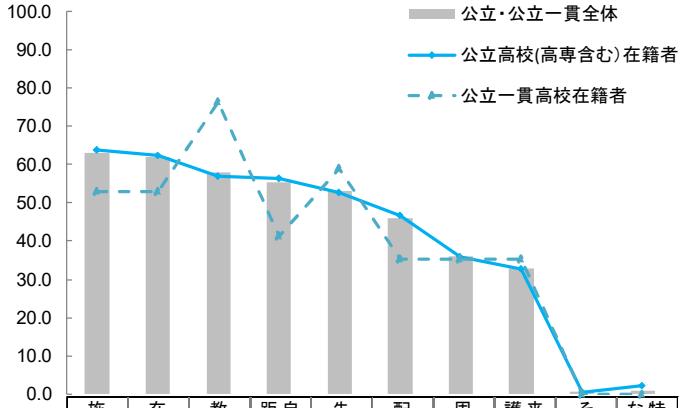
2015



(%)	n=	施設・設備の状況	教育内容	在校生の様子	先生の様子	自宅から学校までの距離や道路の様子	配付された資料	周辺の環境や治安	来場している他の保護者・生徒の様子	その他	特に参考になる点はなかった
私立全体	595	65.2	63.2	59.2	59.7	48.9	42.5	35.0	35.0	0.7	1.7
私立小学校在籍者	24	70.8	70.8	62.5	66.7	33.3	45.8	20.8	20.8	0.0	0.0
私立中学校在籍者	175	62.9	66.3	59.4	61.7	46.3	44.0	37.1	39.4	0.6	1.7
私立高校(高専含む)在籍者	396	65.9	61.4	58.8	58.3	51.0	41.7	34.8	33.8	0.8	1.8

図表㉒-2　学校説明会で参考になった点（公立）

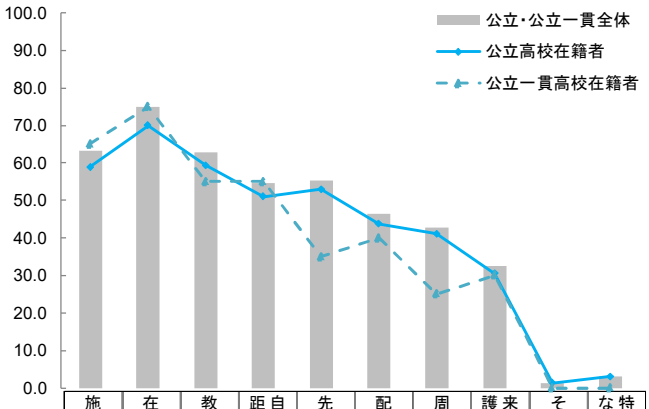
2025



	n=	施設・設備の状況	在校生の様子	教育内容	自宅から学校までの距離や通学路の様子	先生の様子	配付された資料	周辺の環境や治安	来場している他の保護者・生徒の様子	その他	特に参考になる点はなかった
公立・公立一貫全体	326	63.2	62.0	58.0	55.5	53.1	46.0	35.9	32.8	0.6	0.9
公立高校(高専含む)在籍者	309	63.8	62.5	57.0	56.3	52.8	46.6	35.9	32.7	0.6	2.3
公立一貫高校在籍者	17	52.9	52.9	76.5	41.2	58.8	35.3	35.3	35.3	0.0	0.0

網掛けは、全体と有意な差があった項目

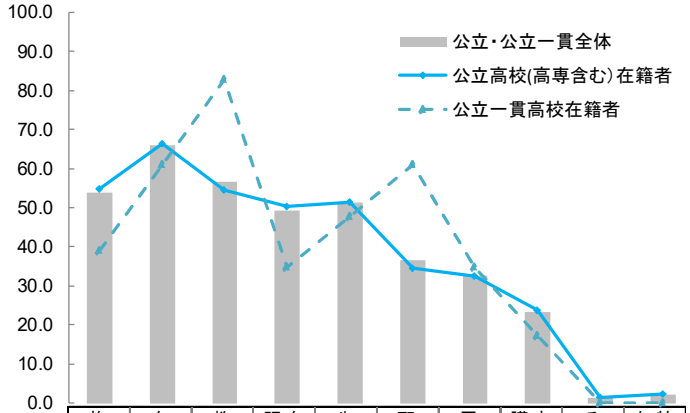
2020



	n=	施設・設備の状況	在校生の様子	教育内容	自宅から学校までの距離や道路の様子	先生の様子	配付された資料	周辺の環境や治安	来場している他の保護者・生徒の様子	その他	特に参考になる点はなかった
公立・公立一貫全体	322	63.2	74.8	62.9	54.6	55.3	46.4	42.7	32.5	1.3	3.0
公立高校在籍者	302	58.9	69.9	59.3	51.0	53.0	43.7	41.1	30.5	1.3	3.0
公立一貫高校在籍者	20	65.0	75.0	55.0	55.0	35.0	40.0	25.0	30.0	0.0	0.0

網掛けは、全体と有意な差があった項目

2015



	n=	施設・設備の状況	在校生の様子	教育内容	自宅から学校までの距離や道路の様子	先生の様子	配付された資料	周辺の環境や治安	来場している他の保護者・生徒の様子	その他	特に参考になる点はなかった
公立・公立一貫全体	309	53.7	66.0	56.6	49.2	51.1	36.6	32.7	23.3	1.3	2.3
公立高校(高専含む)在籍者	286	54.9	66.4	54.5	50.3	51.4	34.6	32.5	23.8	1.4	2.4
公立一貫高校在籍者	23	39.1	60.9	82.6	34.8	47.8	60.9	34.8	17.4	0.0	0.0

網掛けは、全体と有意な差があった項目

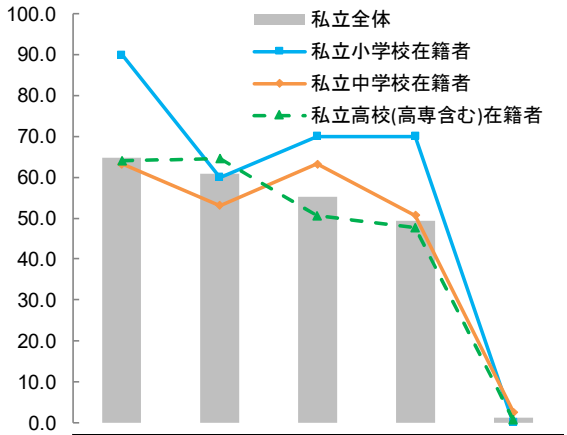
３．合同学校説明会で参考になった点

「学校説明会・合同学校説明会に参加した」または「合同学校説明会のみ参加した」と回答した人に、合同学校説明会で参考になった点を聞いた(図表㉓-1、図表㉓-2)。

私立学校在籍者全体では、「先生の様子(熱心か、活気があるか)」の回答率が64.8%と最も高く、2020年・2015年と同様の結果であった。また、公立在籍者全体でも「先生の様子(熱心か、活気があるか)」 の回答率が62.3%と最も高かった。

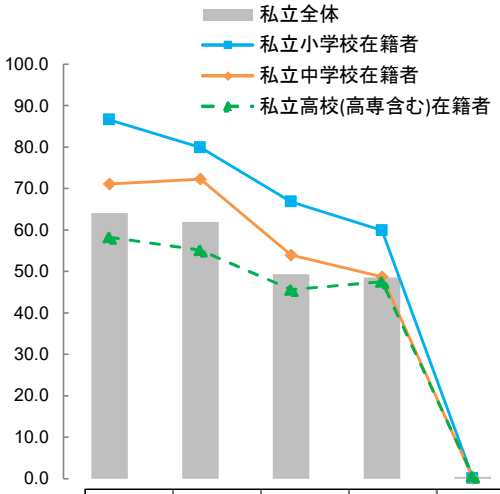
図表㉓-1　合同学校説明会で参考になった点(私立)

2025



	n=	先生の様子	配付された資料	生徒の様子	教育内容	その他
私立全体	261	64.8	60.9	55.2	49.4	1.1
私立小学校在籍者	10	90.0	60.0	70.0	70.0	0.0
私立中学校在籍者	79	63.3	53.2	63.3	50.6	2.5
私立高校(高専含む)在籍者	172	64.0	64.5	50.6	47.7	0.6

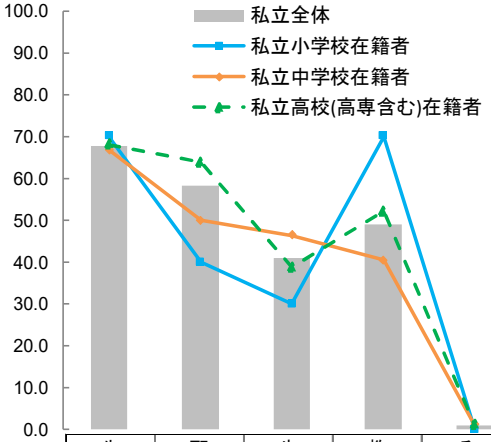
2020



(%)	n=	先生の様子	配付された資料	生徒の様子	教育内容	その他
私立全体	247	64.0	61.9	49.4	48.6	0.4
私立小学校在籍者	15	86.7	80.0	66.7	60.0	0.0
私立中学校在籍者	76	71.1	72.4	53.9	48.7	0.0
私立高校(高専含む)在籍者	156	58.3	55.1	45.5	47.4	0.6

網掛けは、全体と有意な差があった項目

2015

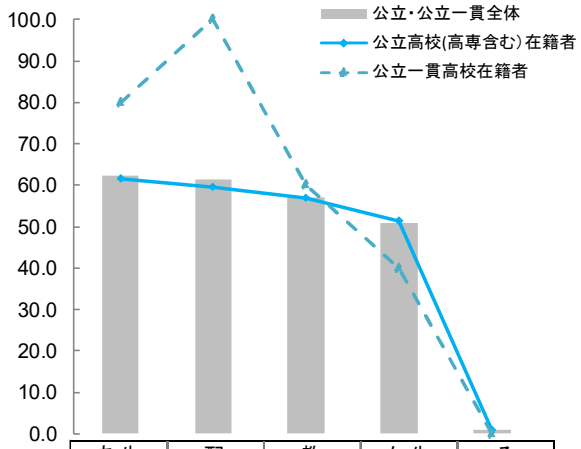


(%)	n=	先生の様子	配付された資料	生徒の様子	教育内容	その他
私立全体	257	67.7	58.4	40.9	49.0	1.2
私立小学校在籍者	10	70.0	40.0	30.0	70.0	0.0
私立中学校在籍者	84	66.7	50.0	46.4	40.5	1.2
私立高校(高専含む)在籍者	163	68.1	63.8	38.7	52.1	1.2

網掛けは、全体と有意な差があった項目

図表㉓-2　合同学校説明会で参考になった点（公立）

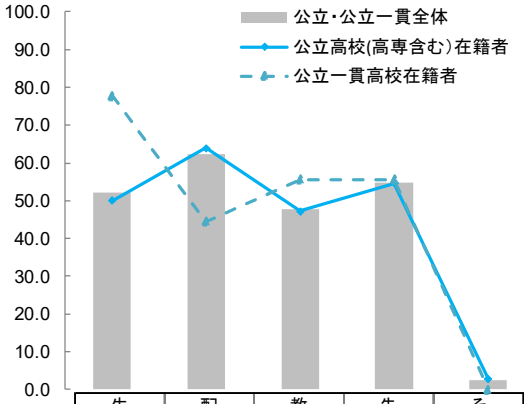
2025



	n=	生徒の様子（活気があるか）	配付された資料	教育内容	先生の様子（熱心か、活気があるか）	その他
公立・公立一貫全体	114	62.3	61.4	57.0	50.9	0.9
公立高校(高専含む)在籍者	109	61.5	59.6	56.9	51.4	0.9
公立一貫高校在籍者	5	80.0	100.0	60.0	40.0	0.0

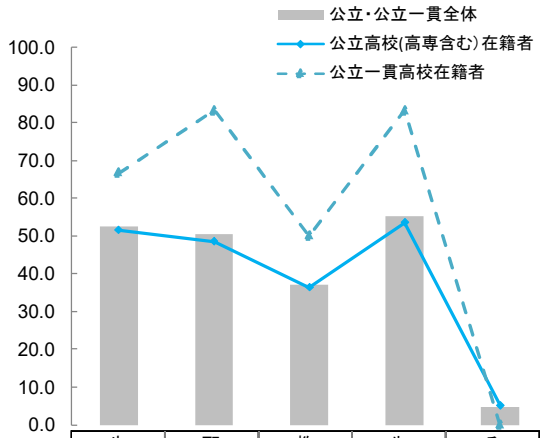
網掛けは、全体と有意な差があった項目

2020



	n=	生徒の様子	配付された資料	教育内容	先生の様子	その他
公立・公立一貫全体	117	52.1	62.4	47.9	54.7	2.6
公立高校(高専含む)在籍者	108	50.0	63.9	47.2	54.6	2.8
公立一貫高校在籍者	9	77.8	44.4	55.6	55.6	0.0

2015



	n=	生徒の様子	配付された資料	教育内容	先生の様子	その他
公立・公立一貫全体	105	52.4	50.5	37.1	55.2	4.8
公立高校(高専含む)在籍者	99	51.5	48.5	36.4	53.5	5.1
公立一貫高校在籍者	6	66.7	83.3	50.0	83.3	0.0

４．進学理由

現在在籍している学校への進学理由について、私立在籍者と公立在籍者に聞いた(図表㉔-1)。

私立学校への進学理由は「子どもが行きたいと言っているから」が最も回答率が高く、「中高一貫校であり、内部進学が可能であるから」、「明確な教育目標に基づき、独自の教育をしているから」と続いた。明確な教育目標に基づく独自の教育に関しては、私立在籍者の方が公立在籍者よりも14.6ポイント高い割合で進学理由として挙げていた。

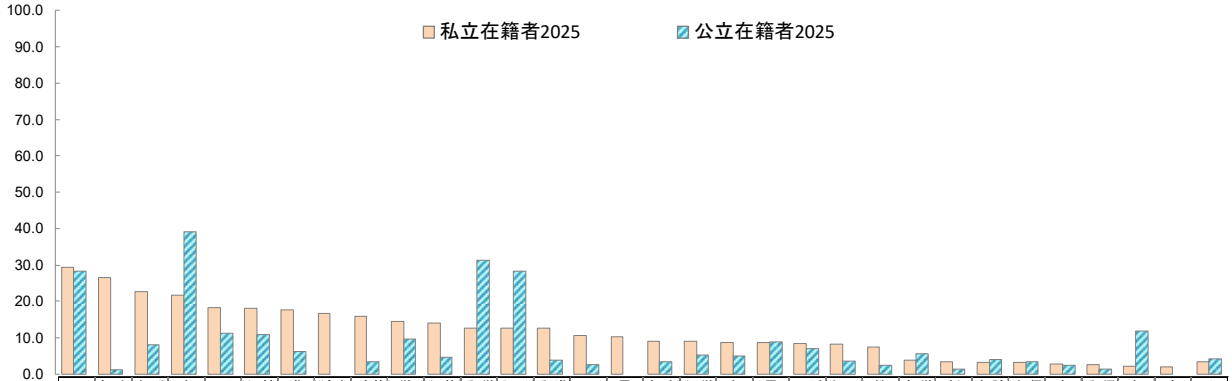
一方で、公立在籍者は「自宅からの通学時間が適当だから」が最も高い回答率で、「学費（授業料、入学金など）が支払える範囲であるから」と続いた。この結果は2020年・2015年も同様であり、私立学校と公立学校では進学理由が大きく異なっていることがわかった。

次に、現在在籍している学校への進学理由を私立の学校段階別に比較した(図表㉔-2)。

小学校在籍者は「明確な教育目標に基づき、独自の教育をしているから」、中学校在籍者は「中高一貫校であり、内部進学が可能であるから」、高校在籍者は「子どもが行きたいと言っているから」の回答率が最も高い結果となった。

図表㉔-1　私立学校と公立学校の進学理由の差

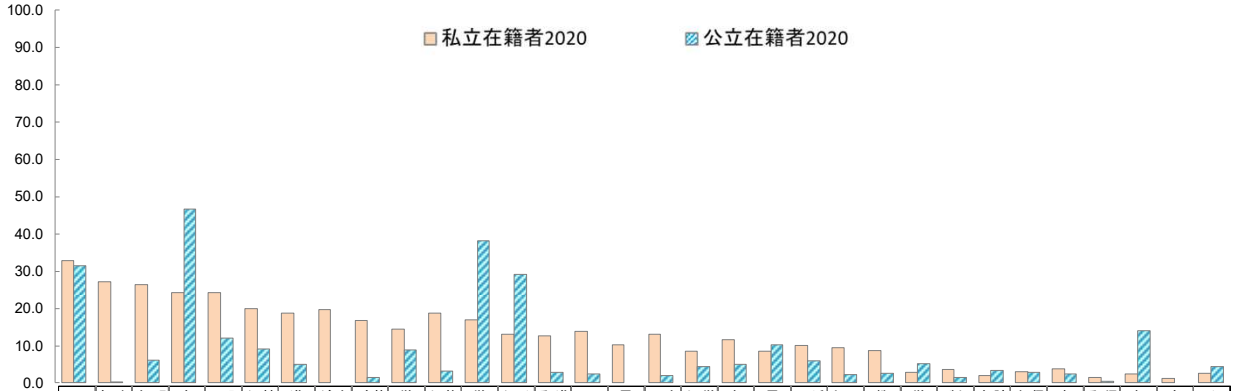
2025



	n=	子どもが行きたいと言っているから	中高一貫校であり、内部進学が可能であるから	明確な教育目標に基づき、独自の教育をしているから	自宅からの通学時間が適当だから	入試の内容や難易度が子どもに合っていたから	校風・校則が家庭の方針に合っているから	進学実績が良いから	大学附属校であり、大学まで内部進学が可能であるから	英語教育や海外留学の支援等、グローバル教育が充実しているから	学校行事・部活動が盛んだから	施設・設備や防災対策が充実しているから	学費（授業料、入学金など）が支払える範囲であるから	そもそも公立に進学させるつもりはなかったから※1	進路指導・就職支援などが充実しているから	公立には合格しなかったから※1	男子校・女子校だから	大学入試改革など教育に係る新しい動きに迅速に対応しているから	学校周辺の雰囲気が学習に適しているから	在学生の印象が良いから	男女共学校だから	近くの公立に行かせたくなかったから※2	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応しているから	教員が信頼できると思ったから	学費負担軽減制度（給付・貸付）が充実しているから	制服が魅力的だったから	障がいやハンデを持つ子どもに対する支援体制が整っているから	保護者や親類など、身近な人が在学中または卒業生であるから	専門分野に特化した学科があるから	帰国子女に対する支援体制が整っているから	友人など、身近な人が進学するから	宗教教育に力を入れているから	その他
私立在籍者2025	1285	29.4	26.5	22.6	21.7	18.4	18.1	17.7	16.7	15.8	14.4	14.2	12.8	12.8	12.7	10.7	10.2	9.1	9.0	8.7	8.6	8.4	8.3	7.4	3.7	3.3	3.2	3.2	2.8	2.6	2.3	2.1	3.5
公立在籍者2025	1807	28.4	1.2	8.0	39.2	11.3	10.8	6.1	-	3.4	9.7	4.6	31.3	28.3	3.8	2.7	-	3.4	5.3	5.1	8.9	7.1	3.6	2.5	5.5	1.5	3.9	3.4	2.5	1.4	11.8	-	4.3
有意差が認められた項目			*	*	*	*	*	*		*	*	*	*	*	*	*		*	*	*			*	*	*	*				*	*		

※1公立の質問文は「公立」→「私立」とした。
※2公立の質問文は「近くに通わせたい私立がなかったから」
※3公立には該当しない選択肢は「－」とした。

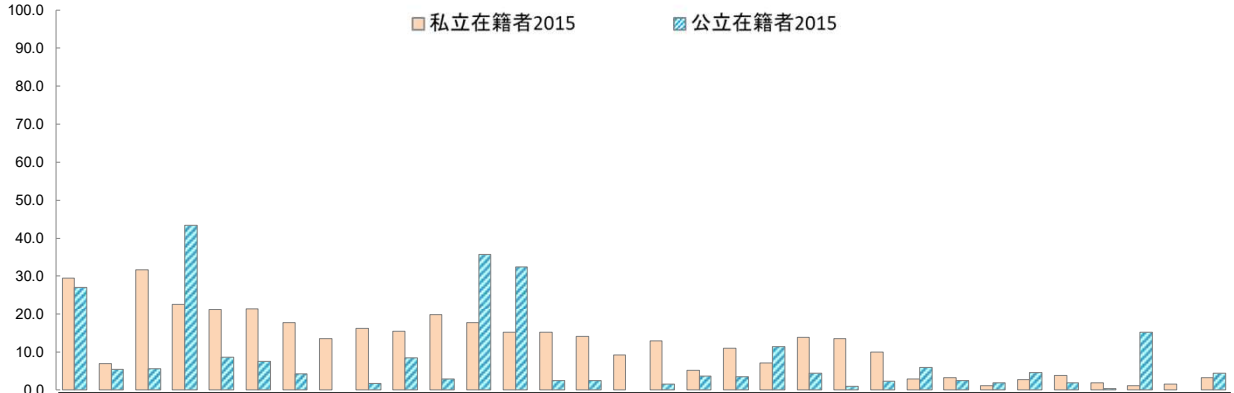
2020



n=	子どもが行きたいと言っているから	中高一貫校であり、内部進学が可能であるから	明確な教育目標に基づき、独自の教育をしているから	自宅からの通学時間が適当だから	入試の内容や難易度が子どもに合っていたから	校風・校則が家庭の方針に合っているから	進学実績が良いから	大学附属校であり、大学まで内部進学が可能であるから	英語教育や海外留学の支援等、グローバル教育が充実しているから	学校行事・部活動が盛んだから	施設・設備や防災対策が充実しているから	学費が支払える範囲であるから	そもそも公立に進学させるつもりはなかったから※1	進路指導・就職支援などが充実しているから	公立には合格しなかったから※1	男子校・女子校だから	大学入試改革など教育界の新しい動きに迅速に対応しているから	学校周辺の雰囲気が学習に適しているから	在学生の印象が良いから	男女共学校だから	近くの公立に行かせたくなかったから※2	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応しているから	教員が信頼できると思ったから	学費負担軽減制度が充実しているから	制服が魅力的だったから	障がいやハンデを持つ子どもに対する支援体制が整っているから	保護者や親類など、身近な人が在学中または卒業生であるから	専門分野に特化した学科があるから	帰国子女に対する支援体制が整っているから	友人など、身近な人が進学するから	宗教教育に力を入れているから	その他
私立在籍者2020	1218	32.9	27.3	26.4	24.3	24.3	19.9	18.7	19.8	16.7	14.4	18.7	16.9	13.1	12.6	13.8	10.3	13.1	8.5	11.7	8.5	10.0	9.6	8.7	2.9	3.6	2.1	3.1	3.8	1.4	2.4	1.3	2.7
公立在籍者2020	1745	31.5	0.3	6.1	46.7	12.1	9.2	5.0	－	1.5	8.9	3.2	38.2	29.2	2.8	2.4	－	2.1	4.5	5.0	10.3	6.0	2.2	2.6	5.1	1.5	3.4	2.8	2.5	0.5	14.1	－	4.4
有意差が認められた項目			*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*		*	*	*	*	*

※1公立の質問文は「公立」→「私立」とした。
※2公立の質問文は「近くに通わせたい私立がなかったから」
※3公立には該当しない選択肢は「－」とした。

2015

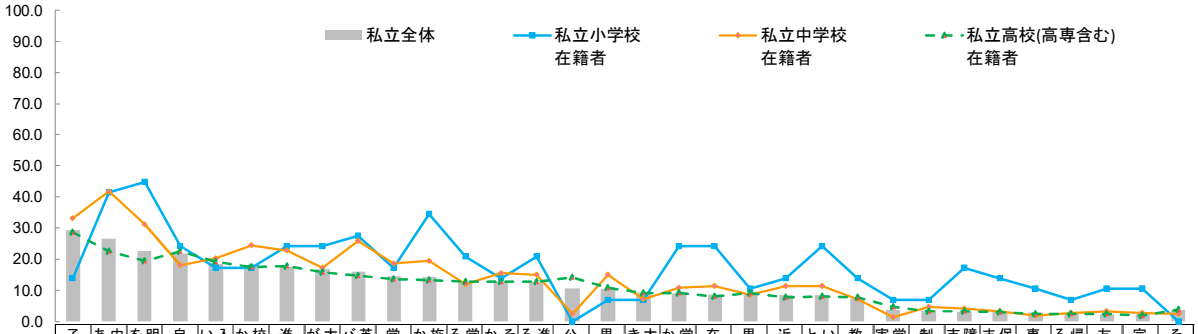


n=	子どもが行きたいと言っているから	特別な試験をせずに進学することができるから	明確な教育目標に基づき、独自の教育をしているから	自宅からの通学時間が適当だから	入試の内容や難易度が子どもに合っていたから	校風・校則が家庭の方針に合っているから	進学実績が良いから	大学附属校であり、大学まで内部進学が可能であるから	英語教育や海外留学の支援等、グローバル教育が充実しているから	学校行事・部活動が盛んだから	施設・設備や防災対策が充実しているから	学費が支払える範囲であるから	そもそも公立に進学させるつもりはなかったから※1	進路指導・就職支援などが充実しているから	公立には合格しなかったから※1	男子校・女子校だから	大学入試改革など教育界の新しい動きに迅速に対応しているから	学校周辺の雰囲気が学習に適しているから	在学生の印象が良いから	男女共学校だから	近くの公立に行かせたくなかったから※2	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応しているから	教員が信頼できると思ったから	学費負担軽減制度が充実しているから	制服が魅力的だったから	障がいやハンデを持つ子どもに対する支援体制が整っているから	保護者や親類など、身近な人が在学中または卒業生であるから	専門分野に特化した学科があるから	帰国子女に対する支援体制が整っているから	友人など、身近な人が進学するから	宗教教育に力を入れているから	その他
私立在籍者2015	1093	29.6	6.9	31.6	22.6	21.2	21.5	17.7	13.6	16.2	15.5	19.9	17.8	15.2	15.2	14.1	9.3	13.0	5.2	11.0	7.1	14.0	13.6	10.1	2.9	3.3	1.2	2.8	3.8	1.9	1.1	1.5	3.3
公立在籍者2015	1790	26.9	5.4	5.6	43.5	8.7	7.5	4.2	－	1.7	8.5	3.0	35.6	32.5	2.5	2.5	－	1.6	3.7	3.5	11.3	4.5	1.1	2.3	6.1	2.5	1.9	4.7	2.0	0.5	15.3	－	4.4
有意差が認められた項目		*	*	*	*	*		*				*		*	*	*					*	*	*		*	*		*	*	*		*	

※1公立の質問文は「公立」→「私立」とした。
※2公立の質問文は「近くに通わせたい私立がなかったから」
※3公立には該当しない選択肢は「－」とした。

図表㉔-2　私立学校への進学理由（小学校・中学校・高校別）

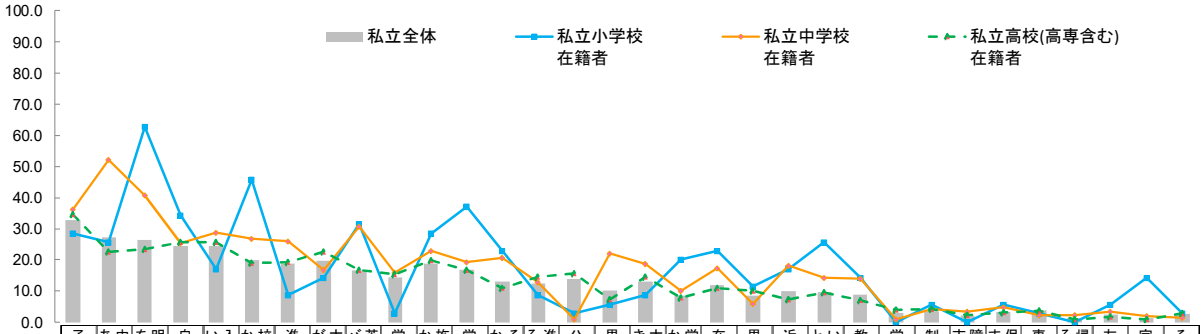
2025



	n=	子どもが行きたいと言っているから	中高一貫校であり、内部進学が可能であるから	明確な教育目標に基づき、独自の教育をしているから	自宅からの通学時間が適当だから	入試の内容や難易度が子どもに合っていたから	校風・校則が家庭の方針に合っているから	進学実績が良いから	大学附属校であり、大学まで内部進学が可能であるから	英語教育や海外留学の支援等、グローバル教育が充実しているから	学校行事・部活動が盛んだから	施設・設備や防災対策が充実しているから	学費（授業料、入学金など）が支払える範囲であるから	そもそも公立に進学させるつもりはなかったから	進路指導・就職支援などが充実しているから	公立には合格しなかったから	男子校・女子校だから	大学入試改革など教育に係る新しい動きに迅速に対応しているから	学校周辺の雰囲気が学習に適しているから	在学生の印象が良いから	男女共学校だから	近くの公立に行かせたくなかったから	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応しているから	教員が信頼できると思ったから	学費負担軽減制度（給付・貸付）が充実しているから	制服が魅力的だったから	保護者や親類など、身近な人が在学中または卒業生であるから	障がいやハンデを持つ子どもに対する支援体制が整っているから	専門分野に特化した学科があるから	帰国子女に対する支援体制が整っているから	友人など、身近な人が進学するから	宗教教育に力を入れているから	その他
私立全体	1285	29.4	26.5	22.6	21.7	18.4	18.1	17.7	16.7	15.8	14.4	14.2	12.8	12.8	12.7	10.7	10.2	9.1	9.0	8.7	8.6	8.4	8.3	7.4	3.7	3.3	3.2	3.2	2.8	2.6	2.3	2.1	3.5
私立小学校在籍者	29	13.8	41.4	44.8	24.1	17.2	17.2	24.1	24.1	27.6	17.2	34.5	20.7	13.8	20.7	0.0	6.9	6.9	24.1	24.1	10.3	13.8	24.1	13.8	6.9	6.9	17.2	13.8	10.3	6.9	10.3	10.3	0.0
私立中学校在籍者	221	33.0	41.6	31.2	18.1	20.4	24.4	22.6	17.2	25.8	18.6	19.5	11.8	15.4	14.9	2.3	14.9	7.2	10.9	11.3	8.6	11.3	11.3	7.2	1.4	4.5	4.1	3.2	1.8	2.7	3.2	2.7	2.3
私立高校(高専含む)在籍者	573	28.6	22.5	19.4	22.3	19.2	17.5	17.8	15.7	14.7	13.4	13.3	12.7	12.6	12.7	14.1	10.6	9.1	9.1	7.9	9.1	7.7	7.9	7.7	4.5	3.3	3.1	3.0	2.4	2.4	2.3	1.7	3.8

網掛けは、全体と有意な差があった項目

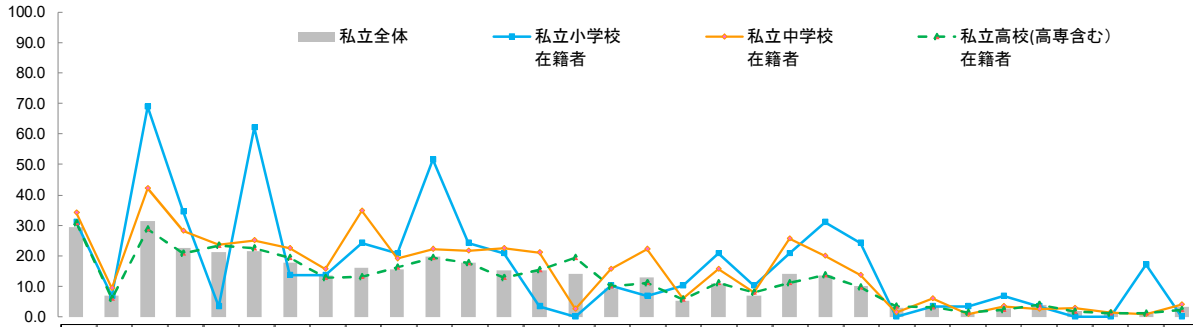
2020



	n=	子どもが行きたいと言っているから	中高一貫校であり、内部進学が可能であるから	明確な教育目標に基づき、独自の教育をしているから	自宅からの通学時間が適当だから	入試の内容や難易度が子どもに合っていたから	校風・校則が家庭の方針に合っているから	進学実績が良いから	大学附属校であり、大学まで内部進学が可能であるから	英語教育や海外留学の支援等、グローバル教育が充実しているから	学校行事・部活動が盛んだから	施設・設備や防災対策が充実しているから	学費が支払える範囲であるから	そもそも公立に進学させるつもりはなかったから	進路指導・就職支援などが充実しているから	公立には合格しなかったから	男子校・女子校だから	大学入試改革など教育に係る新しい動きに迅速に対応しているから	学校周辺の雰囲気が学習に適しているから	在学生の印象が良いから	男女共学校だから	近くの公立に行かせたくなかったから	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応しているから	教員が信頼できると思ったから	学費負担軽減制度が充実しているから	制服が魅力的だったから	保護者や親類など、身近な人が在学中または卒業生であるから	障がいやハンデを持つ子どもに対する支援体制が整っているから	専門分野に特化した学科があるから	帰国子女に対する支援体制が整っているから	友人など、身近な人が進学するから	宗教教育に力を入れているから	その他
私立全体	1218	32.9	27.3	26.4	24.3	24.3	19.9	18.7	19.8	16.7	14.4	18.7	16.9	13.1	12.6	13.8	10.3	13.1	8.5	11.7	8.5	10.0	9.6	8.7	2.9	3.6	2.1	3.1	3.8	1.4	2.4	1.3	2.7
私立小学校在籍者	35	28.6	25.7	62.9	34.3	17.1	45.7	8.6	14.3	31.4	2.9	28.6	37.1	22.9	8.6	2.9	5.7	8.6	20.0	22.9	11.4	17.1	25.7	14.3	0.0	5.7	0.0	5.7	2.9	0.0	5.7	14.3	2.9
私立中学校在籍者	209	36.4	52.2	40.7	25.4	28.7	26.8	25.8	16.7	30.6	15.8	23.0	19.1	20.6	12.9	1.0	22.0	18.7	10.0	17.2	5.7	18.2	14.4	13.9	1.0	4.3	3.3	4.8	2.4	2.4	3.3	1.9	1.4
私立高校(高専含む)在籍者	516	34.5	22.7	23.4	25.8	25.6	19.0	19.2	22.7	16.9	15.3	20.0	16.9	10.9	14.5	15.5	7.2	14.5	7.9	10.9	10.1	7.2	9.5	7.0	3.9	4.3	2.3	3.1	3.7	1.0	1.7	0.8	2.7

網掛けは、全体と有意な差があった項目

2015



	n=	子どもが行きたいと言っているから	特別な試験をせずに進学することができるから	明確な教育目標に基づき、独自の教育をしているから	自宅からの通学時間が適当だから	入試の内容や難易度が子どもに合っていたから	校風・校則が家庭の方針に合っているから	進学実績が良いから	大学附属校であるから	英語教育や海外留学の支援等、グローバル教育が充実しているから	学校行事・部活動が盛んだから	施設・設備や防災対策が充実しているから	学費が支払える範囲であるから	そもそも公立に進学させるつもりはなかったから	進路指導・就職支援などが充実しているから	公立には合格しなかったから	男子校・女子校だから	大学入試改革など教育界の新しい動きに迅速に対応しているから	学校周辺の雰囲気が学習に適しているから	在学生の印象が良いから	男女共学校だから	近くの公立に行かせたくなかったから	いじめやトラブルに対して、しっかりと対応しているから	教員が信頼できると思ったから	学費負担軽減制度が充実しているから	制服が魅力的だったから	障がいやハンデを持つ子どもに対する支援体制が整っているから	保護者や親類など、身近な人が在学中または卒業生であるから	専門分野に特化した学科があるから	帰国子女に対する支援体制が整っているから	友人など、身近な人が進学するから	宗教教育に力を入れているから	その他
私立全体	1093	29.6	6.9	31.6	22.6	21.2	21.5	17.7	13.6	16.2	15.5	19.9	17.8	15.2	15.2	14.1	9.3	13.0	5.2	11.0	7.1	14.0	13.6	10.1	2.9	3.3	1.2	2.8	3.8	1.9	1.1	1.5	3.3
私立小学校在籍者	29	31.0	6.9	69.0	34.5	3.4	62.1	13.8	13.8	24.1	20.7	51.7	24.1	20.7	3.4	0.0	10.3	6.9	10.3	20.7	10.3	20.7	31.0	24.1	0.0	3.4	3.4	6.9	3.4	0.0	0.0	17.2	0.0
私立中学校在籍者	199	34.2	9.5	42.2	28.1	23.6	25.1	22.6	15.6	34.7	19.1	22.1	21.6	22.6	21.1	2.5	15.6	22.1	6.0	15.6	8.0	25.6	20.1	13.6	1.5	6.0	1.0	3.5	2.5	3.0	1.5	1.0	4.0
私立高校(高専含む)在籍者	456	30.9	5.9	28.9	20.8	23.5	22.4	19.5	12.9	13.2	16.4	19.5	17.8	12.9	15.4	19.3	10.1	11.0	5.7	11.2	7.9	11.2	13.8	9.6	3.5	3.1	1.5	2.2	3.9	1.8	1.3	1.3	2.2

網掛けは、全体と有意な差があった項目

５．通学時間

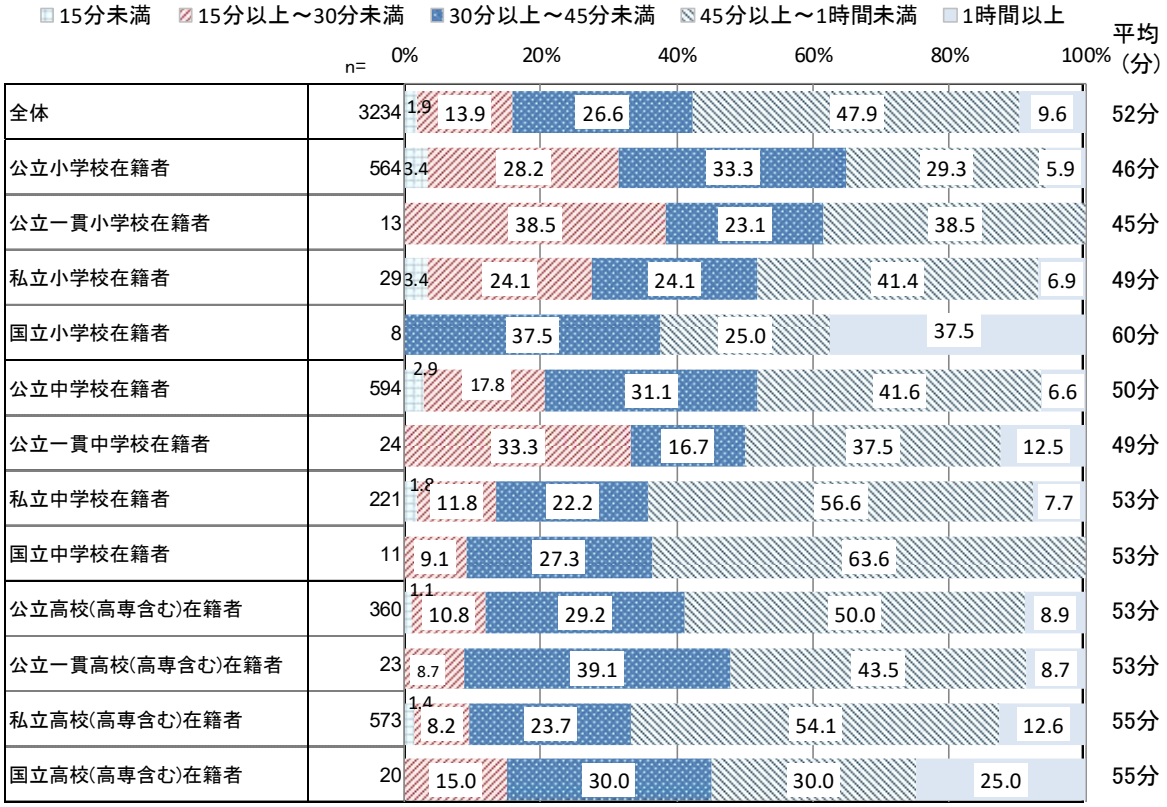
通学時間の許容範囲について、回答者全員に聞いた(図表㉕)。
全体平均は52分であり、2020年と比較し4分長くなっている。最も回答率が高いのは「45分以上～1時間未満」で47.9%、次いで「30分以上～45分未満」で26.6%であった。
私立在籍者の平均は55分、公立在籍者の平均は49分で、それぞれ2020年と比較し長くなっている。私立在籍者と公立在籍者の平均の差は6分で、2020年の差の3分よりも長くなっている。

図表㉕　通学に最大かけられる時間

2025

私立在籍者平均　55分

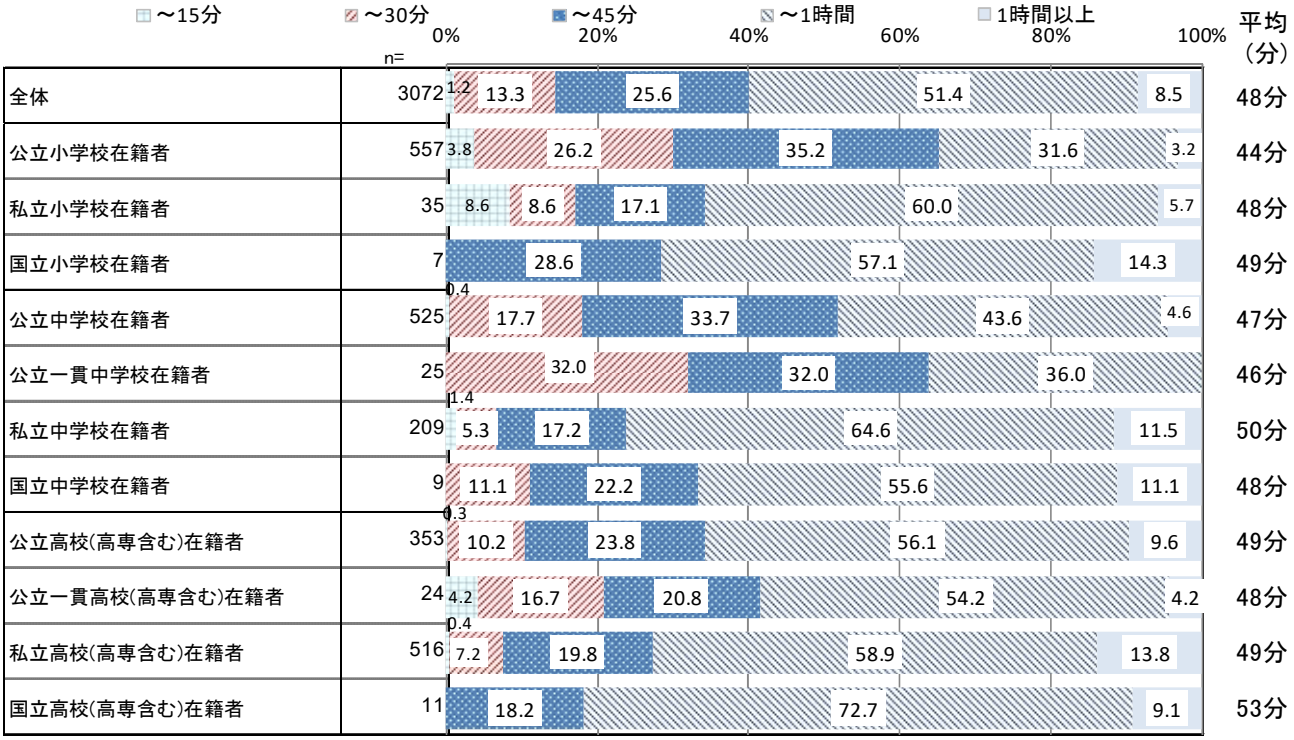
公立在籍者平均　49分



2020

私立在籍者平均　49分

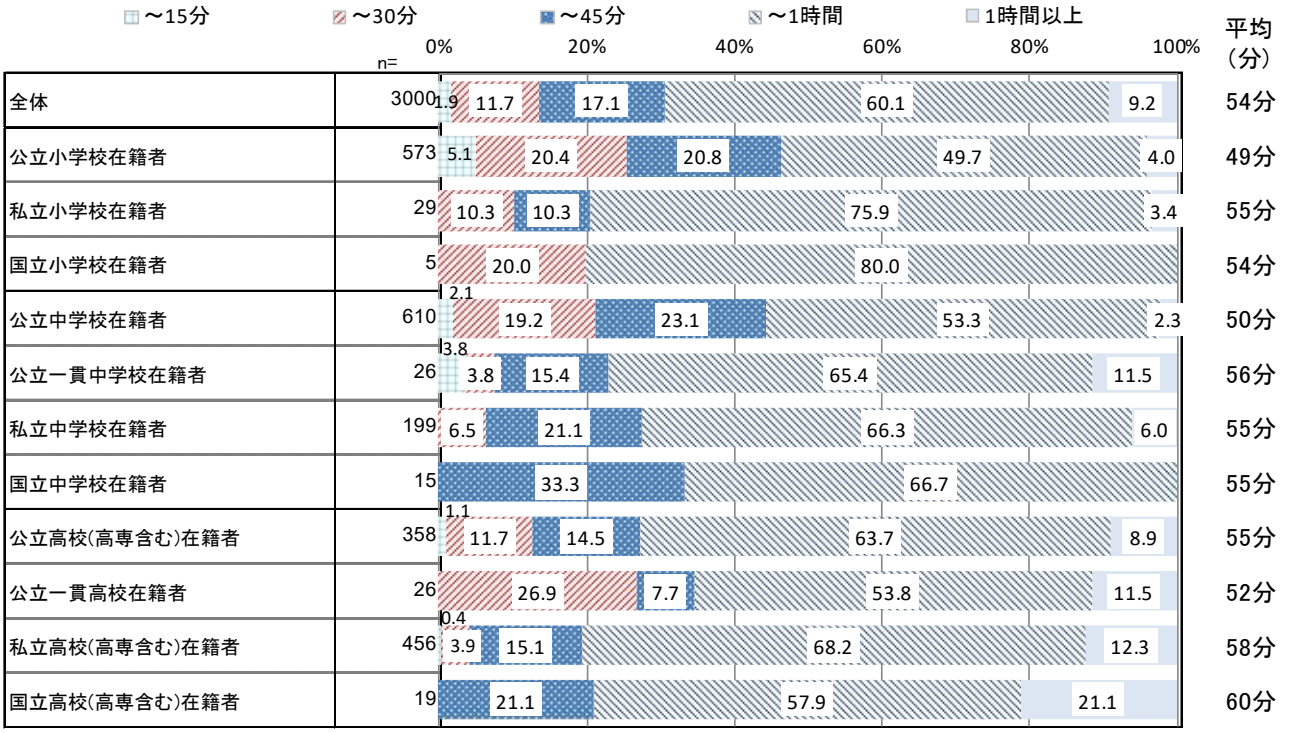
公立在籍者平均　46分



2015

私立在籍者平均　56分

公立在籍者平均　51分



第4章　私立の情報発信と進学理由　まとめ

【私立の情報発信】
（学校説明会等への参加有無、参考になった点）

- 私立在籍者は、小学校・中学校・高校すべての学校段階において、80%以上が学校説明会や合同学校説明会に参加していたことがわかった。

- 私立在籍者は、学校説明会で「施設・設備の状況」、「教育内容」、「在校生の様子」「先生の様子」を特に参考にしており、合同学校説明会では「先生の様子（熱心か、活気があるか）」を参考にしていることがわかった。ＨＰやパンフレット等の学校案内ではわからない雰囲気や、先生・生徒の振る舞いに直接触れることで、子どもの学校生活や成長をより具体的にイメージして、進学を考えるのではないか。

【進学理由】

- 進学理由を私立在籍者と公立在籍者で比較すると、多くの項目で私立在籍者の回答率が高い結果となった。私立在籍者は幅広い観点から私立への進学を決めていたことがわかる。

- 特に「明確な教育目標に基づき、独自の教育をしているから」、「進学実績が良いから」「英語教育や海外留学の支援等、グローバル教育が充実しているから」に関しては、私立在籍者が公立在籍者よりも10ポイント以上高い割合で進学理由として挙げていた。

- これらのことから私立在籍者の多くは、各私学独自の教育プログラムやカリキュラムなどに魅力を感じ進学を決めたことがわかる。

【通学時間】
（許容できる通学時間）

- 私立在籍者の平均通学許容時間は55分で、2020年から6分長くなった。また、公立在籍者の平均通学許容時間は49分で、2020年から3分長くなった。

- 自宅から通学の許容範囲は2020年よりも広くなったと考えられる。

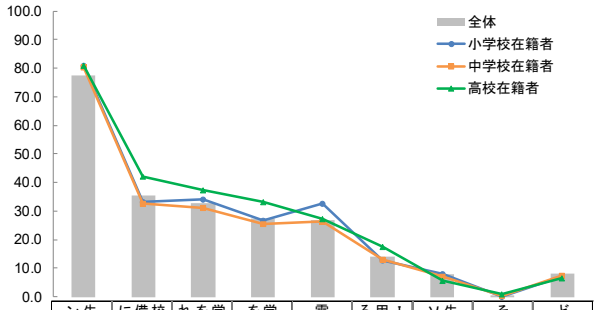
本章では、学校環境の変化に焦点を当て、ＩＣＴ環境およびパソコン・タブレットの環境、ＡＩの利活用状況、部活動の外部委託・地域移行の認知度について着目した点を調べた。

1.　ＩＣＴ環境

まず、在籍している学校のＩＣＴ環境について、学校段階別に聞いた(図表㉖-1)。
「生徒は1人1台、学習用のパソコン・タブレットを持っている」は、全体では2020年と比較すると、53.3ポイント上昇した。また、「生徒は1人1台、学習用のパソコン・タブレットを持っている」は、2020年では学校段階により回答率に差がみられたが、2025年は小学校・中学校・高校すべてにおいて、回答率が80%以上であった。
次に、在籍している学校のＩＣＴ環境について、私立と公立を比較した(図表㉖-2)。
私立学校と公立学校を比較したところ、「生徒は1人1台、学習用のパソコン・タブレットを持っている」の回答率に差はなかったものの「校内でWi-Fi(ワイファイ)が整備され、どこにいてもインターネットに接続できる」、「学校が管理するホームページやアプリを使用して、学校と家庭間で連絡がとれる」、「学習支援ツール(デジタル教材)を活用している」の回答率は私立が公立を10ポイント以上上回った。

図表㉖-1　私立学校、公立学校におけるICT環境（小学校・中学校・高校別）

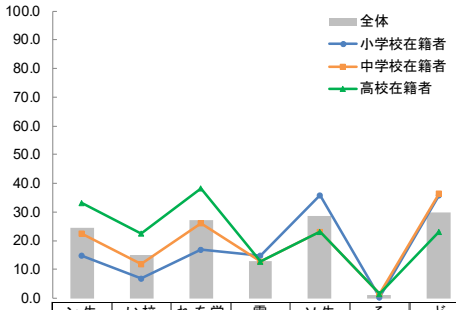
2025



	n=	生徒は、1人1台、学習用のパソコン・タブレットを持っている	校内でWi-Fi（ワイファイ）が整備され、どこにいてもインターネットに接続できる	学校が管理するホームページやアプリを使用して、学校と家庭間で連絡がとれる	学習支援ツール（デジタル教材など）を活用している	電子黒板や大型モニター等がある	ICT支援員（教員や学校のICT活用をサポートする人）が配置されている	生徒は、1人1台ではなく、学校のパソコン・タブレットを共用している	その他	どれにもあてはまらない
全体	3234	77.6	35.3	32.8	27.3	26.8	14.0	7.9	0.5	8.2
小学校在籍者	614	80.8	33.1	34.2	26.7	32.7	12.7	8.1	0.0	7.0
中学校在籍者	850	80.2	32.5	31.1	25.4	26.5	12.9	7.2	0.2	7.5
高校在籍者	976	80.8	42.2	37.5	33.3	27.3	17.6	5.7	0.9	6.7

網掛けは、全体と有意な差があった項目

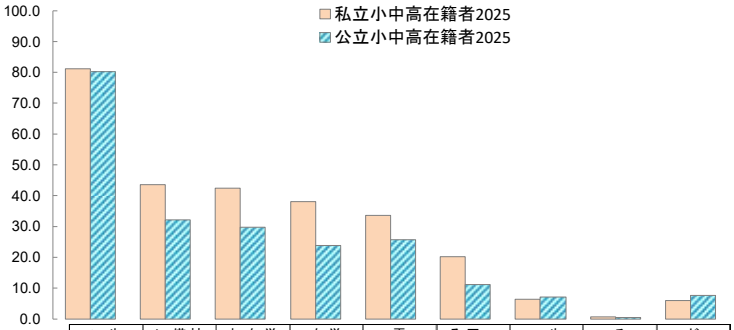
2020



	n=	生徒は、1人1台、学習用のパソコン・タブレットを持っている	校内でWi-Fiが整備され、どこにいてもインターネットに接続できる	学校が管理するホームページやアプリを使用して、学校と家庭間で連絡がとれる	電子黒板がある	生徒は、1人1台ではなく、学校のパソコン・タブレットを共用している	その他	どれにもあてはまらない
全体	3072	24.3	15.1	27.3	12.9	28.7	1.1	29.7
小学校在籍者	599	14.7	6.8	17.0	14.7	35.7	0.3	35.9
中学校在籍者	768	22.5	12.0	26.0	12.9	23.2	1.4	36.5
高校在籍者	904	33.1	22.7	38.2	12.8	23.2	1.5	23.0

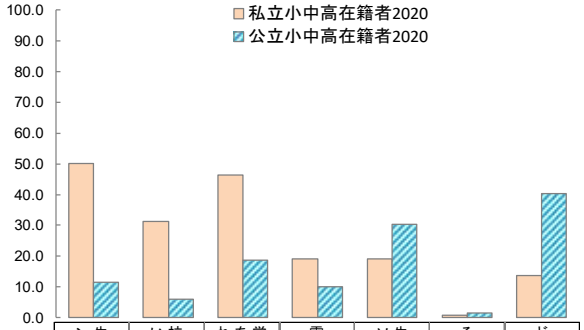
図表㉖-2　私立学校、公立学校におけるICT環境（私立・公立別）

2025



	n=	生徒は、1人1台、学習用のパソコン・タブレットを持っている	校内でWi-Fi（ワイファイ）が整備され、どこにいてもインターネットに接続できる	学校が管理するホームページやアプリを使用して、学校と家庭間で連絡がとれる	学習支援ツール（デジタル教材など）を活用している	電子黒板や大型モニター等がある	ICT支援員（教員や学校のICT活用をサポートする人）が配置されている	生徒は、1人1台ではなく、学校のパソコン・タブレットを共用している	その他	どれにもあてはまらない
私立小中高在籍者2025	823	81.3	43.6	42.3	38.2	33.7	20.3	6.3	0.6	5.8
公立小中高在籍者2025	1518	80.2	32.2	29.8	23.8	25.6	11.3	7.1	0.4	7.7
有意差が認められた項目			*	*	*	*	*			

2020



	n=	生徒は、1人1台、学習用のパソコン・タブレットを持っている	校内でWi-Fiが整備され、どこにいてもインターネットに接続できる	学校が管理するホームページやアプリを使用して、学校と家庭間で連絡がとれる	電子黒板がある	生徒は、1人1台ではなく、学校のパソコン・タブレットを共用している	その他	どれにもあてはまらない
私立小中高在籍者2020	760	50.1	31.2	46.3	19.2	19.2	0.8	13.7
公立小中高在籍者2020	1435	11.4	5.9	18.7	10.0	30.3	1.4	40.3
有意差が認められた項目		*	*	*	*	*		

２．パソコン・タブレットの活用状況

前問（ＩＣＴ環境の整備状況についての質問）において、「生徒は、1人1台、学習用のパソコン・タブレットを持っている」または「生徒は、1人1台ではなく、学校のパソコン・タブレットを共用している」とした回答者に対し、パソコン・タブレットを授業でどの程度使用しているかを聞いた（図表㉗-1）。

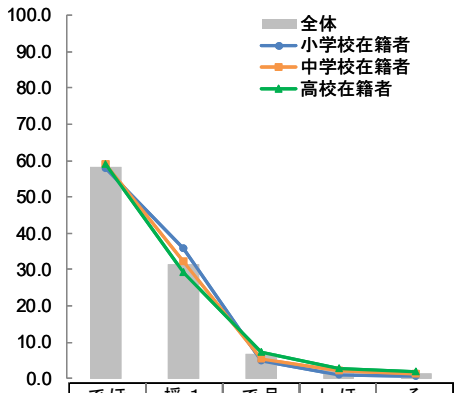
「ほとんど毎日、授業で使用している」は、全体の回答率が58.3%で、2020年と比較すると32.3ポイント上昇した。

次にパソコン・タブレットの活用状況について、私立と公立を比較した（図表㉗-2）。

「ほとんど毎日、授業で使用している」は、私立の回答率が66.8%で、公立と比較すると私立が12.9ポイント高い割合となった。

図表㉗-1　パソコン・タブレットの活用状況（小学校・中学校・高校別）

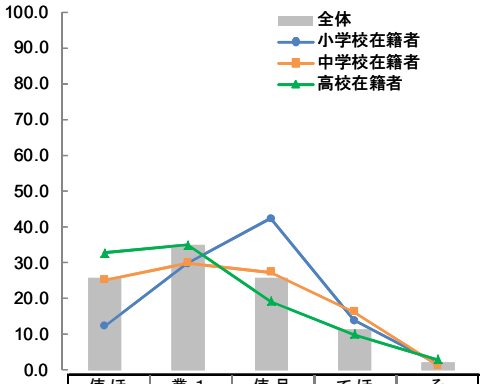
2025



	n=	ほとんど毎日、授業で使用している	1週間に数日程度は授業で使用している	月に数回程度は授業で使用している	ほとんど授業で使用していない	その他
全体	2709	58.3	31.3	6.7	2.3	1.4
小学校在籍者	532	57.7	35.7	4.9	1.1	0.6
中学校在籍者	729	59.0	32.2	5.3	2.2	1.2
高校在籍者	830	58.9	29.2	7.2	2.8	1.9

網掛けは、全体と有意な差があった項目

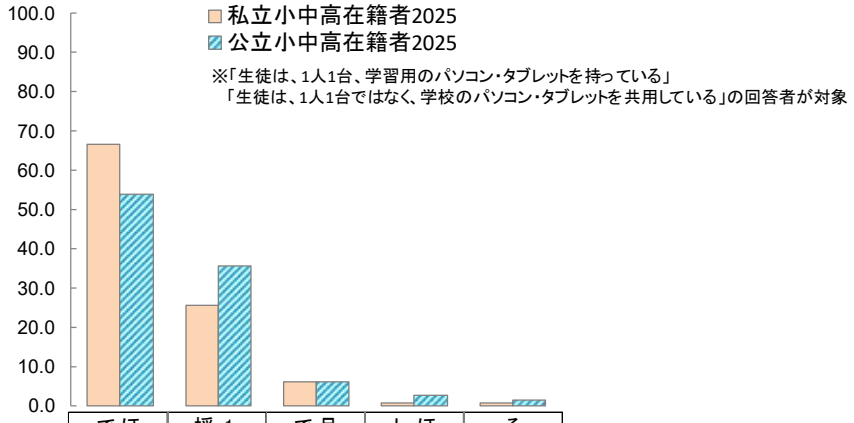
2020



	n=	ほとんど毎日、授業で使用している。	1週間に数日程度は授業で使用している。	月に数回程度は授業で使用している	ほとんど授業で使用していない。	その他
全体	1629	26.0	34.9	25.7	11.3	2.2
小学校在籍者	302	12.3	29.8	42.4	13.9	1.7
中学校在籍者	351	25.1	29.9	27.4	16.2	1.4
高校在籍者	509	32.8	35.0	19.3	10.0	2.9

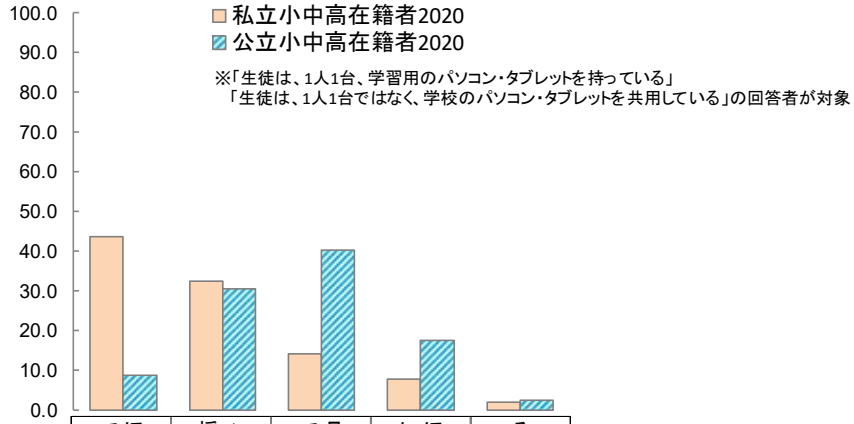
図表㉗-2　パソコン・タブレットの活用状況（私立・公立別）

2025



	n=	ほとんど毎日、授業で使用している	1週間に数日程度は授業で使用している	月に数回程度は授業で使用している	ほとんど授業で使用していない	その他
私立小中高在籍者2025	707	66.8	25.6	6.1	0.8	0.7
公立小中高在籍者2025	1299	53.9	35.6	6.2	2.8	1.5
有意差が認められた項目		*	*		*	

2020



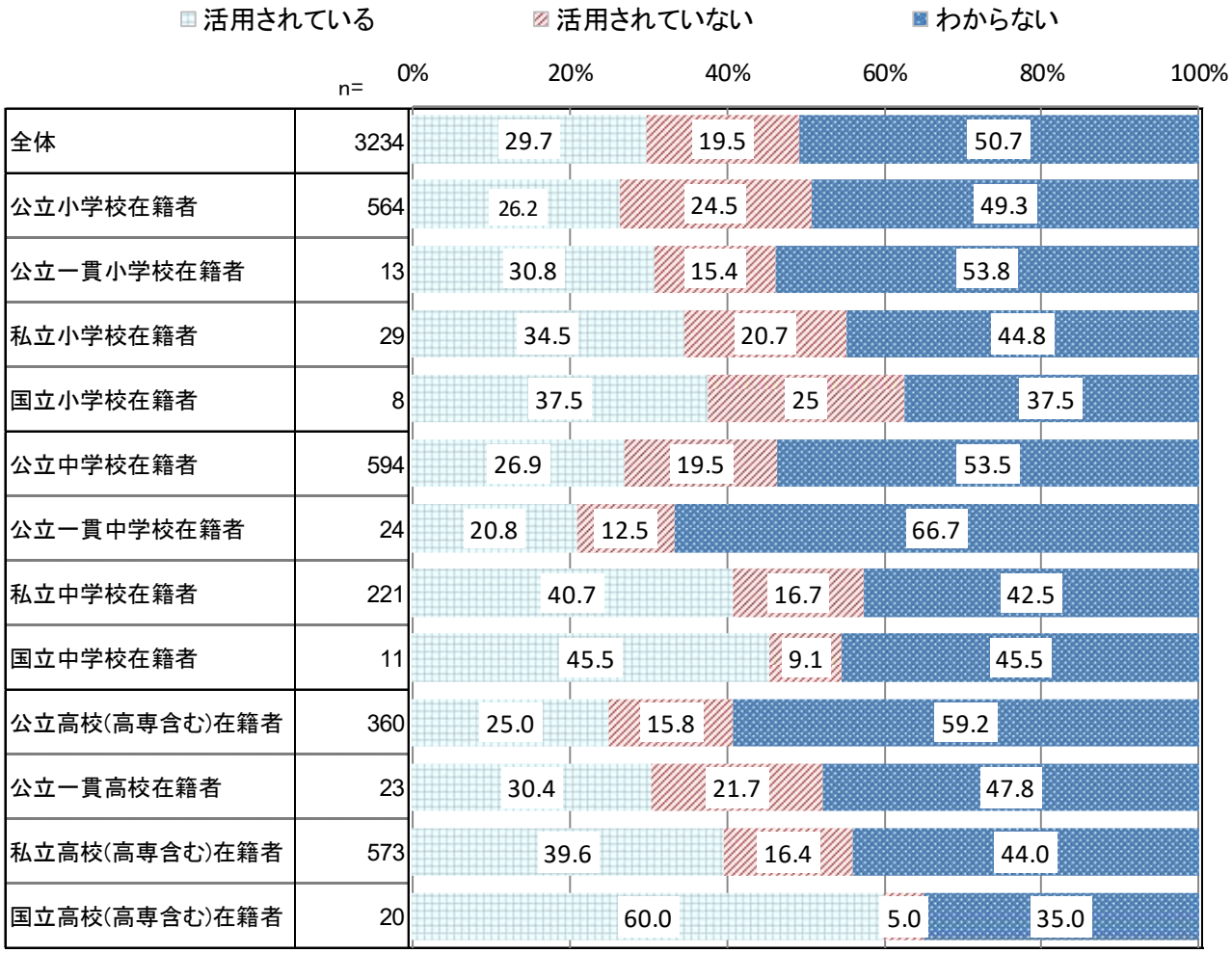
	n=	ほとんど毎日、授業で使用している	1週間に数日程度は授業で使用している	月に数回程度は授業で使用している	ほとんど授業で使用していない	その他
私立小中高在籍者2020	527	43.6	32.4	14.2	7.8	1.9
公立小中高在籍者2020	598	8.9	30.6	40.3	17.7	2.5
有意差が認められた項目		*		*	*	

３．ＡＩ活用

学校段階別・学校種別における、ＡＩ活用状況について聞いた（図表㉘）。
2025年は全体で29.7%が「活用されている」と回答した。学校種別に比較したところ、公立に比べ私立の方が「活用されている」と回答した割合が高かった。

図表㉘　AIの活用状況

2025

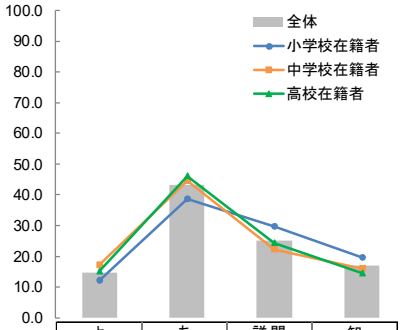


４．部活動の外部委託・地域移行

学校種別、学校段階別における、部活動の外部委託・地域移行の認知度について聞いた(図表㉙)。
全体では「よく知っている」14.7%、「ある程度知っている」43.3%、を合わせた58.0%が認知していることがわかった。

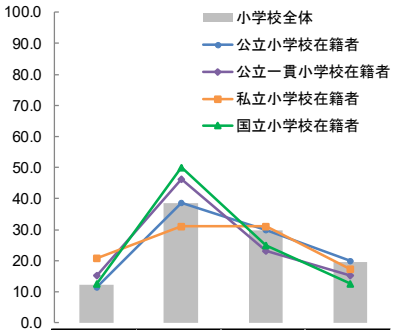
図表㉙　部活動の外部委託・地域移行の認知度

2025



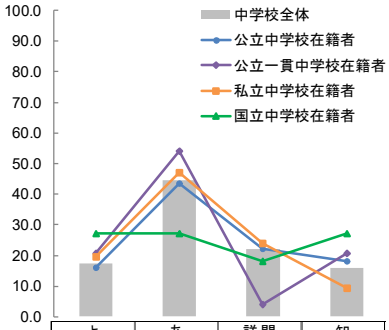
	n=	よく知っている	ある程度知っている	聞いたことはあるが詳細は分からない	知らない
全体	3234	14.7	43.3	25.0	17.0
小学校在籍者	614	12.1	38.6	29.8	20
中学校在籍者	850	17.3	44.6	22.1	16.0
高校在籍者	976	15.2	46	24.3	14.4

網掛けは、全体と有意な差があった項目



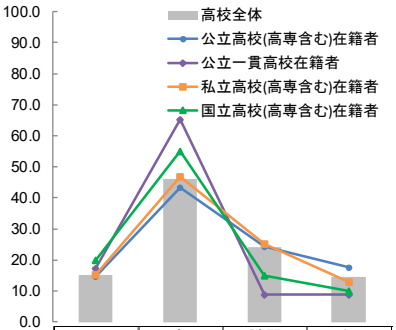
	n=	よく知っている	ある程度知っている	聞いたことはあるが詳細は分からない	知らない
小学校全体	614	12.1	38.6	29.8	19.5
公立小学校在籍者	564	11.5	38.7	30.0	19.9
公立一貫小学校在籍者	13	15.4	46.2	23.1	15.4
私立小学校在籍者	29	20.7	31.0	31.0	17.2
国立小学校在籍者	8	12.5	50.0	25.0	12.5

網掛けは、全体と有意な差があった項目



	n=	よく知っている	ある程度知っている	聞いたことはあるが詳細は分からない	知らない
中学校全体	850	17.3	44.6	22.1	16.0
公立中学校在籍者	594	16.2	43.6	22.2	18.0
公立一貫中学校在籍者	24	20.8	54.2	4.2	20.8
私立中学校在籍者	221	19.5	47.1	24.0	9.5
国立中学校在籍者	11	27.3	27.3	18.2	27.3

網掛けは、全体と有意な差があった項目



	n=	よく知っている	ある程度知っている	聞いたことはあるが詳細は分からない	知らない
高校全体	976	15.2	46.1	24.3	14.4
公立高校(高専含む)在籍者	360	14.7	43.3	24.4	17.5
公立一貫高校在籍者	23	17.4	65.2	8.7	8.7
私立高校(高専含む)在籍者	573	15.2	46.8	25.1	12.9
国立高校(高専含む)在籍者	20	20.0	55.0	15.0	10.0

網掛けは、全体と有意な差があった項目

第5章 ICT環境・AI活用・部活動 まとめ

【ＩＣＴ環境】
（私立学校と公立学校におけるＩＣＴ環境比較）

- 「生徒は、1人1台、学習用のパソコン・タブレットを持っている」の回答率が、2020年に比べ大きく上昇した。それに伴い、「校内でWi-Fi(ワイファイ)が整備され、どこにいてもインターネットに接続できる」「学校が管理するホームページやアプリを使用して、学校と家庭間で連絡がとれる」などICTインフラの整備も進んだことがわかった。

- Wi-Fi環境について、私立の方が「校内でWi-Fi(ワイファイ)が整備され、どこにいてもインターネットに接続できる」と回答した割合が高く、私立と公立ではインターネットの接続環境自体にも大きな違いがあることがわかった。

- 私立在籍者は「電子黒板や大型モニター等がある」と回答した割合も高く、私立では多くの授業でパソコン・タブレットが活用しやすい環境が整備されているとも考えられる。

【パソコン・タブレットの活用状況】
（私立学校と公立学校におけるパソコン・タブレット活用状況）

- 「ほとんど毎日、授業で使用している」の回答率は、2020年と比較すると全体で32.3ポイント上昇しており、コロナ禍を経て授業でのＩＣＴ活用状況が大きく変化していることがわかる。さらに「ほとんど毎日、授業で使用している」の割合が、私立では66.8%と最も高く、私立学校と公立学校で差がみられた。

【ＡＩ活用状況】

- ＡＩの活用状況については全体での回答率が「活用されている」29.7%、「活用されていない」19.5%に対し、「わからない」が50.7%と過半であり、導入の有無以上に「見えにくさ」が課題であると考えられる。

- ＡＩの活用状況を学校段階別に私立と公立を比較したところ、小学校、中学校、高校すべてにおいて、「活用されている」と答えた割合が私立の方が高かった。この結果は、第２章でも取り上げた「ＩＣＴを活用した教育が充実している」イメージと評価が高かったこととも関係が深いと考えられる。

【部活動の外部委託・地域移行】

- 部活動の外部委託・地域移行に関する認知については、「よく知っている」が14.7%、「ある程度知っている」が43.3%で、計58.0%となった。一定の浸透は見られるものの、「聞いたことはあるが詳細は分からない」が25.0%、「知らない」が17.0%と比較的高く、制度理解は途上段階にあると考えられる。

私立への評価・期待まとめ

【私立在籍者の評価】

私立学校在籍者の評価は、公立学校在籍者を上回る項目が多く、特に「施設・設備が整っている」、「歴史・伝統がある」、「進学指導が充実している」、「グローバル教育（英語教育・留学等）のプログラムが充実している」、「教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる」では10ポイント以上の差がみられた。授業にとどまらず、日常のフォローや進学指導,先進教育プログラムまで含めた体制が高く評価されている。

【私立学校への期待】

私立学校に対しては、私立在籍、公立在籍を問わず多くの項目で高い期待が寄せられていた。特に私立在籍者においては公立在籍者よりもさらに高い期待をもっており、学校の教育や対応を評価するとともに、今後のさらなる充実を期待していた。

【私立在籍者の学校選択基準】

私立在籍者が学校選択で最も重視したのは「中高一貫校（または小中高一貫）で内部進学が可能」であり、次いで「通学時間が適当であること」、「子どもが行きたいと言っていること」、「進学実績が良い」が続いた。特に私立中学校では内部進学の重視が突出しており、高校受験の負担を減らし、6年間を発展的学習や挑戦に充てたいという期待がうかがえる。この点は私立学校の大きな魅力といえる。

【費用に対する考え方】

「授業料等の学費以外にもお金がかかる」という項目は、「私立学校のイメージ」と「在籍者の評価」の双方で回答率が高かったが、「在籍者の評価」に比べ「イメージ」の方が7.9ポイント回答率が高くなった。また、同項目は、2020年に比べ「イメージ」・「在籍者の評価」ともに回答率が下降していた。つまりイメージでは学費以外でも費用がかかると思っているが、実際の評価ではそこまで費用がかからないと考えている実態がみえる。

【教育費の確保と教育費負担軽減制度の認知度】

高校の教育費負担軽減制度については、2020年と比較すると「授業料軽減助成金」の認知度が上昇しており、特に中学校在籍者の認知度が上昇していた。授業料軽減助成金は令和6年から所得制限が撤廃となり都内全世帯が対象となったことが認知度上昇の一つの要因であると考えられる。一方、2025年の結果からは、高校在籍者に比べると小学校、中学校在籍者の認知度は低くなっている。つまり「授業料軽減助成金」の認知度は上昇の傾向にあるが、小学校・中学校在籍時からより高めることで私立高校への進学に際して選択肢を広げることに繋がると考えられる。

また、私立中学校の授業料負担軽減制度について、全体では「よく知っている」、「ある程度知っている」の回答率が計43.7%であったが、公立在籍者について言えば36.7%にとどまっており、私立在籍者に比べると認知度は低くなっている。今後は公立在籍者への認知度向上の取組みを行っていくことが重要であると考えられる。

私立を取り巻く状況

【公立在籍者の私立への進学意欲】
　公立在籍者による公立学校のイメージは「地域に根差した教育」、「自由でのびのび」が上位であり、評価も概ねそのイメージに沿う結果であった。一方で「グローバル教育」、「ＩＣＴ活用」、「補習・講習などのフォロー体制」は回答率が低く、私立学校が評価を得ている領域(学習・生活面の手厚い支援、進学指導、施設設備の充実)との差が大きいことがわかった。私立学校は、学習環境や先進プログラム、進学支援など公立学校では満たしにくい教育環境がある進学先として視野に入ってくると考えられる。
　また、公立在籍者の学校選択の理由は「通学のしやすさ」、「友人が進学すること」が上位であることから、学校の魅力そのものより生活圏・人間関係を重視する傾向も考えられる。

【子どもにかける教育費】
　私立在籍者では、公立在籍者に比べて平均世帯年収、月々の許容教育費が高いという結果であった。子どもによい教育環境を与えたいと考える保護者の回答も公立在籍者に比べて高かったことから、教育にはお金をかけてもよいと考える家庭が私立学校を選択しているともいえる。私立学校への進学の裾野をより一層広げるためには、引き続き教育費負担軽減制度等の認知度向上の取り組みを行っていくことが重要である。

【保護者の考え】
　保護者の教育観では、私立学校・公立学校いずれの在籍者も「子どもの将来のために、よい教育環境を与えることが親の努めだ」の回答率が最上位であり、特に、私立在籍者では約7割が回答していた。次いで「高校卒業後、できれば大学に進学させたい」が続き、将来を見据えた進学志向が共通して確認できる。また、多くの項目で私立在籍者の回答率が公立在籍者を上回り、よりよい教育環境を求めて私立学校という選択があったと考えられる。さらに留学意向では私立中学校・私立高校で肯定的な回答が多く、特に、中学校では公立学校との差が大きい。私立在籍者の保護者は、日々の学習環境に加え、海外経験など将来の選択肢を広げる教育機会まで含めて子どもに与えたいと考えている可能性が高い。

【進学理由】
　現在の学校への進学理由としては、私立在籍者では多くの項目で公立学校に比べ高い回答率となっていた。特に「明確な教育目標に基づく独自の教育」、「進学実績が良いから」、「英語教育や海外留学の支援等、グローバル教育が充実しているから」に関しては、私立在籍者が公立在籍者よりも10ポイント以上高い割合で進学理由として挙げていた。
　公立在籍者では「自宅からの通学時間が適当だから」が最も高い回答率で、「学費（授業料、入学金など）が支払える範囲であるから」が続いた。
　私立在籍者は、各私学独自の教育プログラムや教育目標などに魅力を感じ、私立学校で教育を受けるメリットを明確に認識して進路選択をしていた。

私立への関心を高めるために

私立学校への関心を高めるためには、私立に対して抱かれているイメージと、実際に在籍する家庭の評価・期待を踏まえた情報発信を行うことが重要であると考える。今回の結果では、私立在籍者の評価は公立在籍者を上回る項目が多く、特に「教員が学習・生活面で手厚く面倒を見てくれる」、「保護者への情報発信・連絡が行き届いている」、「安心して通わせられる」では大きな差がみられた。日々の授業の充実だけでなく、日常のフォローや家庭との連携を含む教育体制が、私立学校の強みとして実感されているといえる。また、私立中学校では「グローバル教育」、「ＩＣＴ活用」への評価が高く、私立高校では「進学指導」が高い評価を得ており、学校段階ごとに先進性や進路支援が支持されている点も特徴である。さらに、私立に対する期待は私立・公立在籍者双方で高く、評価の高さが「今後も充実してほしい」という期待につながっていることがうかがえる。

一方、公立在籍者は「地域に根差した教育」、「自由でのびのび」といった点を公立の魅力として評価する反面、「グローバル教育」、「ＩＣＴ活用」、「補習などのフォロー体制」では回答率が低く、私立学校との間で評価軸が明確に異なっていた。学校選択理由も「通学のしやすさ」、「友人が進学すること」が上位であり、学校の教育内容より生活圏や人間関係が意思決定に影響している可能性が高い。したがって、私立学校への関心を高めるには、公立在籍者が重視する現実的条件を踏まえつつ、私立学校が提供できる教育の価値を「具体的に」理解できる機会を増やす必要がある。例えば私立在籍者が進学理由として挙げる「独自の教育目標に基づく教育」、「進学実績」、「英語教育や留学支援等のグローバル教育」といった強みを、成果や実例とともに分かりやすく伝えることが効果的であると考える。また2020年の調査およびコロナ禍を経て、授業でのＩＣＴ活用状況が大きく変化し、私立学校と公立学校で活用状況に差がみられたことから、ＩＣＴを用いた日々の授業の充実やＡＩ活用なども私立学校が提供できる教育の価値になるといえる。

私立在籍者の学校選択では「内部進学が可能な一貫教育」が最上位であり、受験負担を軽減しながら6年間を発展的学習やさまざまな挑戦、自らのやりたいことに時間を充てられるというメリットは、私立学校ならではの魅力として訴求力が高い。加えて、保護者の価値観を見ると、私立・公立を問わず「よい教育環境を与えたい」、「大学進学を望む」といった志向は共通しており、条件さえ整えば私立学校が選択肢になり得る層は一定数存在すると考えられる。その際、進学を阻む要因になりやすいのが費用面であるが、2020年と比べて「学費以外にもお金がかかる」というイメージは低下している。こうした変化を捉え、教育費負担軽減制度の内容や利用イメージを継続的に周知し、心理的ハードルを下げる取り組みが欠かせない。教育費負担軽減制度については高校の「授業料軽減助成金」の認知度が上昇しており、特に中学校在籍者の認知度が上昇していた。しかし、高校在籍者に比べると小学校、中学校在籍者の認知度は低く、より早い段階での教育費確保の手段の認知度向上の取り組みを行うことが、私立学校への進学に際しての選択肢を広げることにも繋がるといえる。併せて、私立中学校の授業料軽減制度の認知度向上の取組みも重要である。

さらに、私立学校の強みとして保護者への情報発信は、学校の姿勢そのものが伝わる領域である。私立在籍者は、学校説明会にて「施設・設備の状況」、「教育内容」、「在校生の様子」「先生の様子」を特に参考にしていることがわかり、合同学校説明会では「先生の様子（熱心か、活気があるか）」を参考にしている。ＨＰやパンフレット等の学校案内ではわからない雰囲気や、先生・生徒の振る舞いに直接触れることで、子どもの学校生活や成長をより具体的にイメージして、進学を考えていることから、学校説明会や体験機会を通じて、教育内容だけでなく、教員や生徒の様子、学校の雰囲気、フォロー体制を可視化することが、関心層の拡大に繋がるものと思われる。